

自治医科大学看護学部年報 (第10号)

Annual Report Jichi Medical University School of Nursing

自治医科大学大学院看護学研究科年報 (第6号)

Annual Report Jichi Medical University Graduate School of Nursing



2011

目 次

○ 巻頭言

学部長兼研究科長 春山 早苗	3
----------------	---

○ 特別報告

東日本震災後の被災者と地域への支援活動	鈴木久美子	7
学部長・研究科長としての6年間を振り返って	水戸美津子	10

○ 活動報告

国際交流開始に向けての海外視察	飯塚 秀樹	15
「総合実習」の実際と成果	半澤 節子	21

○ 看護学部委員会等報告

人事委員会	水戸美津子	29
教務委員会	春山 早苗	30
学生委員会	竹田津文俊	31
FD評価・実施委員会	中村 美鈴	33
広報委員会	大塚公一郎	35
編集委員会	本田 芳香	36
国家試験対策委員会	渡邊 亮一	37
臨床実習指導研修委員会	永井 優子	39
実習調整委員会	成田 伸	40
研究推進委員会	半澤 節子	41
入試実施委員会	中島登美子	42

○ 大学院看護学研究科委員会等報告

研究科委員会	水戸美津子	45
研究科委員会幹事会	半澤 節子	47

○ 教育研究分野別報告

看護基礎科学	51
基礎看護学	54
地域看護学	56
精神看護学	59
母性看護学	61

小児看護学	64
成人看護学	66
老年看護学	69

○ 大学院看護学研究科 教育の概要

母子看護学領域「小児看護学」	75
母子看護学領域「母性看護学」	76
健康危機看護学領域「クリティカルケア看護学」	77
健康危機看護学領域「精神看護学」	78
がん看護学領域「がん看護学」	79
老年・地域看護管理学領域「老年看護管理学」	81
老年・地域看護管理学領域「地域看護管理学」	82
共通科目	83

○ 研究業績録

看護基礎科学	87
基礎看護学	88
地域看護学	89
精神看護学	91
母性看護学	92
小児看護学	94
成人看護学	95
老年看護学	98
がん看護学	101

○ 資 料

2011年度（平成23年度）看護学部年暦	105
自治医科大学看護学部の概況	106
看護学部教職員名簿	107
2011年度（平成23年度）大学院看護学研究科年暦	108
大学院看護学研究科の概況	108
大学院看護学研究科教職員名簿	109
編集後記	110

巻 頭 言

看護学部長・大学院看護学研究科長
春山 早苗

平成23年度は、東日本大震災の影響を国民誰もが強く感じながら過ぎた1年であったと思います。大震災の発生を機に、当たり前であったことが当たり前ではなくなり、見て見ぬふりをしていたことに目を向けざるを得ない状況となり、単に震災前の状態に戻すということではなく、わが国が真に豊かな成熟した国となるべく再生への一步を踏み出した1年ともいえます。

看護とはいえば、地域医療崩壊の懸念が高まっていたなか、震災の発生もあり看護の重要性が改めて認識され、看護職には、地域医療を守り、国民に良質な医療・看護を提供することのできる資質及び能力の一層の向上が求められ、また役割の拡大も期待されています。そして、このようなわが国の医療の状況と人材育成に大学として、どのように寄与していくのか、その在り方が問われています。

本看護学部は、平成23年度に10周年を迎え、この間で本学の理念と看護学部、並びに、看護学研究科の教育目的を追求し、看護実践に寄与する教育・研究を推進していく体制を構築してきました。平成23年度は、平成24年4月の指定規則改正に向けて、看護学部のカリキュラムの改編を検討し、また、大学院看護学研究科看護学専攻の課程変更を文部科学省に申請し、博士後期課程の新設が認可されました。今後は、これらを円滑に運用しつつ、変化していく地域社会や人々のニーズを踏まえて、さらに充実・発展させていく必要があります。

以上のような点から、身の引き締まる思いの1年であった平成23年度における教員の教育・研究・大学運営・社会貢献の実績をとりまとめたものが、この看護学部年報第10号・看護学研究科年報第6号です。本看護学部の教員は熟読し、自己及び看護学部・看護学研究科の点検・評価を行い、各自の専門性を高め、また看護学部・看護学研究科の目的・目標の達成のために、さらなる研鑽を積んでもらいたいと思います。本看護学部外の方々には、ご一読いただき、本看護学部・看護学研究科の理解を深めていただくとともに、教育研究機能の向上と発展のために御意見を賜りたいと存じます。

特別報告

特別報告「東日本大震災後の被災者と地域への支援活動」

地域看護学 鈴木久美子

平成23年3月11日、宮城県沖を震源としたマグニチュード9.0の大地震が、東日本一帯に甚大な被害をもたらした。発災当日、学年末休業中であったこともあり、幸い本学部では人的被害はなく、物的被害も大きくなかった。しかし卒業生1名が帰省先の宮城県内において、津波により尊い命を失ったことは、我々教職員の心に悲しい記憶として刻まれている。謹んでご冥福をお祈りする次第である。

本学部においては、栃木県に災害支援協力を申し入れ、要請を受けて、看護系教員が栃木県内の避難所において支援活動を行った。栃木県内には発災直後の3月21日の時点で44か所の避難所が開設され、避難者数は3,201人にのぼった（図1）。その大部分は福島県民であり、福島第一原子力発電所の事故により避難指示が出され、避難を余儀なくされた、原子力発電所周辺地域の住民が多く含まれていた。避難所は時間の経過とともに一次避難所から二次避難所や福祉避難所、仮設住宅へと、避難者のニーズに合わせて機能の変化が求められ、設置場所や施設も変更となった。そのため教員は、県内の様々な地域の避難所に出向いて活動を行った。4月からは新年度の授業が通常通り開始されたため、授業や実習の合間を縫って、または休日での活動参加となった。

約5か月間にわたり、本学部教員が様々な避難所での支援活動を行ったので、その状況について報告する。

1. 栃木県立県南体育館（小山市）避難所における活動

【活動日数】3日間（3月26日、27日、31日）

【活動参加者】春山教授、成田教授、鈴木、島田助教、関山助教

この避難所にはピーク時には約150人が避難していた。多くは、原子力発電所周辺地域から車で個々に避難してきた、高校生以下の子どもを持つ家族であったが、3世代の大家族も多数おり、乳児から高齢者まで幅広い年代にわたっていた。東京方面に向かう途中でガソリン不足となり、この

避難所にとどまったという避難者もいた。

避難所内には救護所が設置され、小山市保健師が24時間体制で救護活動にあたっていた。活動としては、小山市保健師とともに、救護所を訪れる避難者への救護活動と、避難所内の巡回による健康状態の把握や健康相談を行った。高血圧、高脂血症、糖尿病を持つ高齢者が多く、内服状況の確認等の保健指導を実施した。また、乳児を持つ家族や喘息の幼児のいる家族への保健指導を実施した。

2. 鹿沼総合体育館フォレストアリーナ（鹿沼市）避難所における活動

【活動日数】8日間（4月5日、9日、10日、16日、17日、23日、24日、29日）

【活動参加者】永井教授、春山教授、本田教授、工藤講師、島田助教、高山、和久

この避難所には、飯館村と南相馬市の住民が避難しており、避難者数は約100人であった。鹿沼市保健師が健康相談コーナーを設置して、午前と午後に各2時間の健康相談を実施していた。活動としてはこのコーナーでの健康相談と、避難所内の巡回による健康不良者への対応や健康相談を鹿沼市保健師とともに実施した。

この避難所には高血圧者が多く、服薬中の者の中にも血圧の高い者がいた。飯館村が計画的避難区域に指定されてからは、先行きが見えないことによる不安感や不眠を訴える避難者が増加したため、健康相談時には避難者の思いを受けとめることに努めた。また、継続的な支援が必要と思われる避難者については、鹿沼市保健師に報告すると共に、次回担当者に引継ぎを行なった。

3. なす高原自然の家（那須町）避難所における活動

【活動日数】2日間（4月21日、28日）

【活動参加者】塚本講師、関山助教

この避難所には福島県内からの避難者約100名が入居していた。宿泊施設であり、1家族1部屋となっていた。体育館等と比べるとプライバシーは

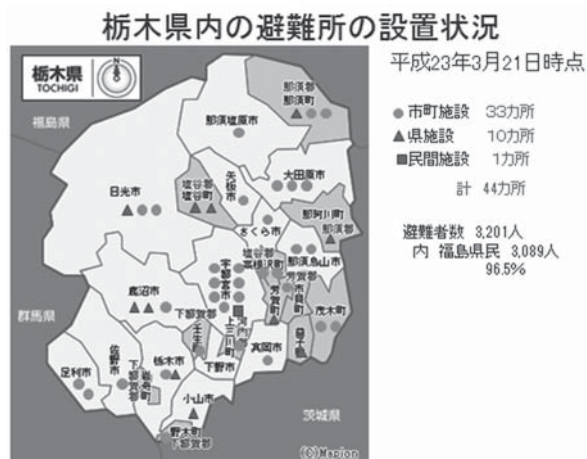


図1 栃木県内の避難所の設置状況

保たれるが、室内にはテレビがなく、外部からの情報が入りにくい状況であった。この避難所では栃木県県北健康福祉センターの保健師が週1回健康相談を実施しており、普段は施設スタッフの養護教員が避難者の健康管理にあたっていた。活動として、養護教員がリストアップした高齢者の部屋を訪問し、血圧測定を行い、服薬状況や健康状態について確認した。健康相談の希望を養護教員が把握しており、部屋を訪問して話を聞き、保健指導を行った。この避難所は4月末で閉鎖になることが既に決まっており、避難者からは避難所を転々としていることによるストレスや、今後の不安などが多く聞かれたため、話の傾聴に努めた。

4. 日光市鬼怒川地区の避難所における活動

【活動日数】7日間（6月20日、27日、7月4日、11日、18日、25日、8月8日）

【活動参加者】春山教授、塚本講師、工藤講師、島田助教、関山助教

鬼怒川温泉のホテル2か所が二次避難所となっており、南相馬市からの避難者が1か所あたり30～80人入居していた。この2か所の避難所では栃木県県西健康福祉センターの保健師が週1回（8月は月2回）健康相談を実施しており、6月には避難者を対象とした健康診査も実施された。

活動としては、県西健康福祉センター保健師と共に、健康相談コーナーでの相談の実施と、健康問題を抱えており気になる避難者の居室に訪問して、健康状態を把握し健康相談を行った。ホテルのスタッフから体調不良者や不安の訴えのある避難者について情報提供があり、居室に訪問して相

談に応じることもあった。避難者からの食事内容の偏りや味付けについての要望を、県の担当者に連絡したり、生活上の要望をホテルスタッフに伝えて検討を依頼するなどの活動も実施した。

2か所の避難所ともに、避難者のほとんどが福島県内の仮設住宅やアパート、栃木県内のアパート等に入居することが決まり、健康相談は8月末で終了となった。

5. 日光市交流促進センター福祉避難所での活動

【活動日数】8日間（6月5日、12日、19日、26日、7月3日、10日、17日、24日）

【活動参加者】永井教授、春山教授、鈴木、工藤講師、塚本講師、関山助教

この避難所は5月に設置された福祉避難所であり、南相馬市からの避難者で、要介護状態の高齢者とその家族7世帯が入居していた。栃木県高齢対策課が体制づくりを担当し、県西健康福祉センターがサポート体制の確保を行っていた。普段は高齢対策課職員1名と介護スタッフ3名が常駐していた。毎週日曜日が保健師・看護師の巡回相談日となっており、この巡回相談を担当した。1世帯が1室に入居しており、各部屋を巡回して、要介護者の健康状態の観察と家族の健康相談や介護相談を実施した。要介護者の健康状態については高齢対策課職員や介護スタッフに報告し、必要時訪問診療時や訪問看護時に確認してもらうように依頼した。また、要介護者や家族の要望を聞き、高齢対策課職員や介護スタッフに報告し、実現を図った。6月中旬に、この避難所を7月末で閉鎖し、賃貸住宅等に移ることが説明されたことによって、訪問時にはこの施設の生活にやっと慣れたところで移動しなければならないことのやりきれなさ、避難者同士で皆同じ所に移りたいという要望、先行きが見えないことへの不安などが聞かれたため、要介護者と家族の心情を丁寧に受け止めることを心掛けた。

7月末に宇都宮市内の民間の高齢者専用賃貸住宅に7世帯が揃って転居することが決まり、この避難所での活動は終了となったが、引き続き宇都宮市の転居先への健康相談を依頼され、6.の活動を行うこととなった。

6. 福祉避難所から高齢者専用賃貸住宅（宇都宮市）に転居した避難者への支援活動

【活動日数】3日（7月31日，8月7日，8月21日）

【活動参加者】春山教授，塚本講師，島田助教

上記5．の施設から転居した避難者が，環境の変化により心身の健康状態が変化することが考えられたため，引き続き県より依頼があり，活動を行った。当初1回の予定であったが，8月いっぱい実施することとなった。

避難者は新たな土地で新たな住居環境に適應しなければならず，ストレスの訴えが多く聞かれたため，話を傾聴して，必要時常駐している県高齢対策課職員に報告した。健康状態についても，訪問診療の医師や訪問看護師などの新たな医療サービススタッフに要望がうまく伝えられない避難者もいたため，高齢対策課職員に報告して対応を依頼した。

7. その他の避難所協力活動

1) 避難所活動についての助言

活動に参加した教員の中には過去の自然災害時に支援活動を経験した者がおり，その経験を活かして，県保健師や市町村保健師から避難所活動についての相談を受けた際等に助言や資料（避難所活動記録用紙や健康相談票など）の提供を行った。

2) 鹿沼市避難所における健康相談の反省会への出席

5月12日に開催された鹿沼市避難所における健康相談の反省会に教員2名（春山教授，島田助教）が参加し，今後の大規模災害発災時における対応に際し，今回の活動経験から反映させるべきことについて意見交換を行った。

3) 県外からの避難者を対象とした避難所活動の振り返り

地域看護学教員（島田助教）が中心となり，県保健師の出席を得て，3月21日に本学にて振り返りの会議を実施した。今回の避難所活動の経験から学んだことを整理し，県および県内市町における平時および発災時の保健活動に活かすために意見交換を行った。

今回の支援活動は，看護系教員11名が県内の7施設に延べ35回にわたり支援活動にあたった。直接活動に参加できない教員であっても，学部全体の教育研究活動の調整に協力するなど，学部内の全教員の協力があつたために支援活動が実施できたといえる。活動に参加して避難者から話を聞く

中で，故郷から遠く離れた栃木の地で避難生活を送る人々の様々な心情を知り，継続的な支援の必要性を強く感じるとともに，看護が社会に貢献できる力の大きさを実感した。また，微力ではあるが今回の大震災の支援活動の一端を担ったことが，大学の役割や健康危機にかかわる看護教育の重要性を改めて考える機会となった。福島第一原子力発電所周辺地域においては，指定区域の変更・解除などが一部では行われたが，依然として警戒・避難区域として指定されている地域が存在し，栃木県内にも避難者が少なからずいる状況である。一日も早い被災地の復興と原子力発電所事故の収束を願うばかりである。

学部長・研究科長としての6年間を振り返って

前看護学部長・研究科長 水戸美津子

私は、平成16年4月に老年看護学教授として着任いたしました。ちょうど50歳になる年でした。前任校で学部と大学院修士課程の立ち上げに関わり、管理的なことに追われておりましたので、自治医大では残りの職業人生の10年間は老年看護学の教育研究に専念しようと考え赴任いたしました。自治医大は前任校とは異なり大学構内には緑が多く、看護学部のすぐ隣には附属病院があるというすばらしい教育研究環境でした。落ち着いて老年看護学の教育研究ができそうだと思います。当時は4月早々から臨地実習が開始されており、着任直後の私にとって大学病院で経験することのすべてが新鮮で、小躍りしながら学生を指導していたことを懐かしく思い出します。

しかし、平成18年4月に思いもかけず学部長・研究科長を拝命することになりました。そして、今年3月まで6年勤務めさせていただきました。平成18年4月の大学院修士課程スタートから、平成23年12月の博士後期課程設置認可まで張りつめた空気の中で濃密な時を過ごしたように思います。幾度も自身の力のなさを痛感し、それでも学部と研究科を前に進めなければならないプレッシャーに何度も立ち止まりそうになりながら、少しは前に進めたと思えるのは、学生と教職員の皆様のお力添えがあったからと心から感謝しております。この場を借りて、学部と研究科をここまで進めるためにご尽力いただいた皆様に感謝申し上げます。

平成18年4月に大学院看護学研究科修士課程がスタートしましたが、当時、教授の中で大学院修士課程において指導教授としての経験を有している者は私以外はおらず、運営の難しさを痛感しておりました。しかし、当時研究科の幹事長であった永井教授は細かなことも厭わず、よく補佐してくださいました。修士課程開始時の準備不足の中、本当によくやっただきました。この年は、前年度から引き継いだ2つの大きな事業もありました。一つは「東京都地域保健サービス推進補助事業—東京都利島村、御蔵島村、青ヶ島村における保健師等技術職定着のための実態調査事業」であり、もう一つは「医療人G P 地域医療等社会的

ニーズに対応した医療人教育支援プログラム—自治医科大学地域医療後期研修プログラム」に関わる看護師研修プログラムの作成と研修指導者育成のための活動でした。これらは、地域看護学の教員が中心となり、実地調査には学部教員の多くが協力しました。さらには、国際協力機構（JICA）草の根技術協力事業「保健医療専門家とピアリーダーによる健康なライフスタイル作り計画」が2年間の予定でスタートしました。これには、当時高村教授が中心となり地域・母性・成人系の教員が協力し成果を挙げました。学部全体でこれらの事業に関わり、若い教員は専門外のことをも学ぶ大変貴重な機会を得ることができたのではないかと考えています。学部の教員が全員参加となると様々な事柄の調整も必要になりましたが、各々の教員には得ることが大きかったと思いました。

さらに、この年は、実習教育の充実を目的として、臨床（附属病院）との連携強化システムを構築するための検討を始めました。この検討が翌年平成19年4月からの外部有識者を加えた「看護学部・附属病院連携強化委員会」の発足へとつながり、さらに平成20年4月からの①看護学部臨床教授等制度の導入（人事発令）、②臨床教育連絡会の創設、③看護学部教員の看護部併任発令（人事発令）、④看護教育センター（仮称）設置準備委員会の立ち上げ（平成22年4月に看護職キャリア支援センターとして開設した）、⑤臨床との共同研究の推進等へとつながることができました。学部教員だけでなく、事務職員や病院職員等の多くの方々の協力で臨床との連携システムを作り上げることができました。連携強化システムを構想し、システムとして動き出すのに5年余を有したことになります。このシステムがより効果的に機能するまでにはまだ時間がかかるとは思われますが、ここまでこれたことを感慨深く思います。当時の島田病院長や退職された岩永教授にはずいぶんご尽力いただきました。

平成19年度は、年度開始早々に専門看護師（母性看護、小児看護、クリティカルケア看護、精神

看護）の4教育課程を申請し認可を受けました。この時も申請書の細部にわたりチェックしてくれたのは当時の研究科幹事長の永井教授でした。本当にご苦勞をかけたと思います。さらに、この年は文部科学省「がんプロフェッショナル養成プラン（国際医療福祉大学大学院と自治医科大学大学院医学研究科との共同申請）」（平成19年度～平成23年度）に採択され、翌年にはがん看護専門看護師教育課程も認可を受けました。この年は5月から平成20年度の大学認証評価受審のための準備作業にも入り、自己点検・評価報告書の作成・提出（平成20年1月）を行い、翌年実地視察・面接（平成20年10月）を受けました。作業の過程で当時の総務課長・学務課長や教務委員長だった川口教授と深夜に及ぶ作業をしたことも今となっては懐かしく思い出されます。このように学部や大学院の運営を軌道に乗せる時期に避けては通れない多くの作業をした方たちがいらしたことを忘れてはならないだろうと思います。

平成21年度は、平成18年度から開始した臨床との連携強化をさらにすすめるために、私が附属病院の副病院長も兼ねることになりました。在任期間3年の間に貴重な体験を多くさせていただきました。今まで、看護学部は附属病院のすぐ隣にあるにもかかわらず臨床の情報が遅れて入ってきたのがリアルタイムで入るようになりました。教育や研究に必要な情報をすぐに学部の教員へ伝えることができるようになり、さまざまなプラスの効果がありました。

この年の9月には、自治医科大学地域医療フォーラムにおいて、初めて「看護フォーラム」を開催し、翌平成22年1月には第10回日本私立看護系大学協会教育セミナーを「安心・安全な教育環境の構築にむけて—情報モラルとセキュリティ—の観点から」というテーマで大会長を務めさせていただきました。学部教員全員の協力で成功させることができました。準備においては喧々諤々議論しながらも、成功裏に終わることができたのは、学部教員一人一人の能力の高さだと思います。日本私立看護系大学協会担当理事の方々からは賞賛のお言葉をいただきました。

平成22年度に看護職キャリア支援センターが附属病院に設置され、島田病院長がセンター長、副センター長に私と菊池看護部長が就任し、新人臨床研修制度の企画運営並びにキャリアパス作成の

ための調査事業を開始しました。これは、卒前・卒後の教育を一体化し、臨床能力に優れた看護職の育成という目標と、臨床における看護の質の向上を目指したものでした。本センターのメンバーには学部教員と看護部の看護職員が半々で参加し、月1～2回の会議を開催し、目標を共有しながら進め、平成23年度末の新人看護職の離職率が激減したことは大きな成果でした。本当にうれしく思いました。平成22年9月には「全人的ながん医療のための実践者養成のための国際セミナー」を開催しました。そして、この年の秋から平成24年度博士後期課程開設に向けた準備を再び始めることにしました（平成20年度に準備を始めましたが、教員の業績不足で中断していました）。

平成22年度末の平成23年3月11日東日本大震災が起きました。翌日から連日、病院と大学で会議が開かれ緊迫した3週間が続きました。建物は大丈夫でしたが、卒業生が一人亡くなりました。責任の重さや職員間の信頼の力や専門職としての使命感など多くのことを考えさせられました。この間の出来事はずっと忘れられない思い出となりました。

そして、平成23年度は博士後期課程の申請、学生の国際交流開始のための教員による海外視察（イギリス、ブータン）、中期計画推進委員会による平成18年から5年間の総括と、平成24年度からの中期計画の策定という大変忙しい年となりました。特に、博士後期課程の申請に関しては、教員審査でD○合8人が確保されたにもかかわらず、申請書の内容が不十分で確認できないとして継続審査となり12月まで認可が延び、眠れない日々を過ごしました。平成23年12月16日（金）に認可の知らせを受けた時は、心の底から安堵したことを思い出します。これで、悔いなく辞められると思いました。

この6年間一貫して願ってきたことは、看護学の教育と研究の発展のために「教育・研究の場」と「臨床の場」との融合を推し進めたいということでした。そして、卒前と卒後教育を一体化し学部と臨床看護の教育・研究の質を向上させたいと願ってきました。このことに幾ばくかの貢献ができたとすれば、それぞれの立場でご尽力いただいた皆様のおかげだと思っています。この6年を振り返って、多くの教職員・病院職員の皆様と学生に支えられていくつかの成果を挙げられたと実

感いたしております。

力量不足の私にたくさんの役割を与えていただき、微力でしたが全力疾走した6年間でした。最後に、看護学部と看護学研究科の発展と教職員と学生の皆さんのご活躍を祈念し、感謝を申し上げます。6年間、ありがとうございました。

活動報告

活動報告「国際交流開始に向けての海外視察」

看護基礎科学 講師 飯塚 秀樹

I. はじめに

平成20年度に実施された（財）大学基準協会による大学評価において、本学看護学部は国際交流に関し、以下の指摘を受けている。

「（教育目標の一つに）アジア地域を中心とする国外での地域医療の推進にも貢献するとあり、授業科目として『国際保健論』『国際看護活動論』を置いている。しかし、具体的な国際交流のシステムは、看護学部独自の国際交流協定の締結もなく、学生のボランティア活動の把握にとどまっており、不十分である。教員や学生の海外における研究や国際協力・交流についても、個別の活動にとどまっている。今後、国際交流を活発にする組織的な取り組みが望まれる。」

この評価を受け、本学部では国際交流開始に向けての海外視察として、平成23年度、イギリス及びブータン王国の2カ国を視察した。

II. イギリス視察

視察先として、beo（海外の高等教育機関との連携・協力によって設立・運営されている団体であり、英国大学連盟をはじめとする海外教育機関への日本国内正式出願窓口として留学サポート等の業務を行っている）の担当アドバイザーとの話し合いの末、University of Leeds（リーズ大学）とOxford Brookes University（オックスフォード・ブルックス大学）の2大学を選定した。

リーズ大学は、イングランド北部に位置する歴史ある伝統校で、その質の高い研究は国際的に高い評価を受けている。研究・教育水準の高さと、活気あるリーズの街は、留学生にはもちろん、本国イギリス人学生にも人気で、毎年学部課程の願書が最も多く集まる大学として知られている。

一方のオックスフォード・ブルックス大学は、イギリスで最も成功をおさめている新設の大学で、街そのものが学問・教育の都市として有名なオックスフォードに位置している。教育の質の高さ、学術研究の評価の点でも注目を集めており、全学生の約2割（学生総数19,000名のうち留学生数は4,000名以上）を留学生が占める国際色豊かな大学

である。

これら2大学への視察を、平成23年12月4日（日）～12月9日（金）に実施した。日程についての詳細は以下のとおりとなる。

12月4日（日）	成田発12:00 ロンドン着15:30 ロンドン市内泊
12月5日（月）	リーズ大学視察
12月6日（火）	オックスフォード・ブルックス大学視察
12月7日（水）	セントトーマス病院及びナイチンゲール記念館の視察
12月8日（木）	ロンドン発13:00
12月9日（金）	成田着09:55

それぞれの視察目的・結果等について以下に記す。

（1）リーズ大学視察

・目的：

看護体験、医療英語プログラムの調査及び交流の可能性に関する調査を行う。また、学生の宿泊先や生活及び学習環境の視察、文化理解のための情報収集も行う。

・視察担当者：

学部長 水戸 美津子
教授 中村 美鈴
講師 飯塚 秀樹

・相手方対応者：

Professor Peter Henderson
Mr. Rupert Herington
(Senior Teaching Fellow)
Ms. Shagufta Bibi
(Faculty Marketing Manager)

・視察結果：

＜学生の受け入れについて＞

英語授業のみならず、英国における看護場面の観察や文化的体験を含むプログラムを本学部用に開発・提供して頂く運びとなった。

上記が実現した場合、本学生用に独自のコース

が開設されることとなる。プログラム内容の詳細については今後調整の上、ワーキンググループで再度検討を行う。

コース開設に伴うコスト面の調整・交渉も必要である。

<コース形態>

本学学部生のためのクラス（他国籍の留学生との交流もプログラムの調整次第で対応可能）。

<期間>

8月もしくは2月中の3週間（夏季休業中で多くの学生が帰省する8月より、授業期間中の2月の方が多くの学生との交流が図れるとの助言有）。

<英語の授業時間>

週21時間（月～金）を基本としているが、詳細は今後調整する（平成24年8月までに独自のプログラムを調整することは困難との回答有）。

<看護体験等>

看護体験については、先方の大学で対応できるかどうか検討中。授業参観や実習風景の見学については対応が可能。

<宿泊先>

8月は大学の寮もしくはホームステイ、2月の場合は大学の寮となる。

（2）オックスフォード・ブルックス大学視察

・目的：

リーズ大学視察時と同様に、看護体験、医療英語プログラムの調査及び今後の交流の可能性に関する調査を行う。また、学生の宿泊先や生活及び学習環境の視察、文化理解のための情報収集も行う。

・視察担当者：

学部長 水戸 美津子
教授 中村 美鈴
講師 飯塚 秀樹

・相手方対応者：

Ms. Lisa Major (Office Manager)
Ms. Gale Lansdown (Principal Lecturer)

Ms. Lisa Hale (Senior Lecturer)

・視察結果：

<学生の受け入れについて>

リーズ大学視察結果と同様に、英語授業のみならず、英国における看護場面の観察や文化的体験を含むプログラムを本学部用に開発・提供して頂くこととなった。

上記が実現した場合、本学生用に独自のコースが開設されることとなるが、その内容については今後調整の上、ワーキンググループで再度検討を行っていく。

<コース形態>

本学部生のためのクラス（他国籍の留学生との交流もプログラムの調整次第で対応可能）。

<期間>

8月の2～3週間。

<英語の授業時間>

週21時間を基本としている。

（一般英語）1日3時間×週5日

（医療英語）1日3時間×週2日

<看護体験等>

看護体験については先方の大学で対応可能かどうか検討中。授業参観や実習風景の見学については対応可能との報告を受けた。

<宿泊先>

空室があれば大学の寮を借りることも可能。

<その他>

各都市（ロンドン、オックスフォード、リーズ市内）における鉄道や空港の利用、大学や市内の見学及び、実際に留学中の日本人学生との交流をとおりて環境・安全面において特に問題がないことを確認した。また、ロンドン市内にあるセントトーマス病院、並びに隣接しているナイチンゲール記念館（Florence Nightingale Museum）は看護学部生にとって資料価値が高いため、プログラムに含むよう検討する。

以上がイギリス視察の報告となる。

Ⅲ. ブータン王国視察

視察先としてRoyal University of Bhutan（以下RUB）とその傘下にあるRoyal Institute of Health Science（以下RIHS）の2ヶ所、及びその関連機関を選定した。選定理由は以下のとおり。

1. 王国で安全な国でありながら、後進国に位置づけられ、いくつかの国際保健における課題を抱えている。また、国際保健上の課題に関して、学生が国際的な視野で、その国の体制や文化に合った課題解決への考え方、方法を学ぶことが期待できる。

2. 前国際交流委員長の鈴木教授より、医学部生が既に交流しており、RUBの副学長Dr. Dasho Pema Thinleyを紹介されている。

3. 授業はすべて英語であり、小学校より英語教育がなされている。

これら2大学及び関連機関（後述）への視察を平成24年3月3日（土）～3月8日（木）に実施した。日程に関する詳細は以下のとおりとなる。

3月3日（土）	成田発17:15 バンコク着22:15 空港内ホテル泊
3月4日（日）	バンコク発6:15 ブータン王国パロ国際空港着10:00 到着後、現地ガイドのPhurba Tshering氏と市街環境調査を実施。その後、首都ティンブーへ車で移動し、ティンブー市街の安全環境調査も併せて実施した。
3月5日（月）	RIHS, RUB, 及び Department of Public Health（ブータン保健省）の3ヶ所を訪問・視察
3月6日（火）	JICA ブータン事務局訪問 上記RIHSの授業見学、学生との交流 Jigme Dorji Wanchuck National Hospital（ブータン王立病院）視察、JICAをとおしてボランティアとして働いている日本人スタッフとの交流
3月7日（水）	パロ市内に戻り、市内の病院視察 Drukgyel of Basic Health Unit 視察 パロ発17:50 バンコク着21:30 バンコク発23:50
3月8日（木）	成田着7:30

視察目的・結果等についての詳細は以下のとおりとなる。また視察に関してはすべて以下の教員3名が行った。

教授 中村 美鈴
講師 飯塚 秀樹
助教 北村 露輝

（1）RUB視察

・目的：

カリキュラムと教育体制についての情報を収集し、聴講あるいは一部履修が可能なプログラムがあるかについて調査すると共に、現地学校からの交流要請も併せて調査する。また、本学部生が、現地学校の臨床看護に参加もしくは見学できるか、及びブータンに滞在する場合の宿泊先や学生の安全面に関する情報収集も行う。

・相手方対応者：

副学長 Dr. Dasho Pema Thinley
RIHS 学長 Dr. Chenchu Dorjee

・視察結果：

自治医科大学ならびに看護学部の概略を英語版パンフレットとパワーポイント資料を用いて紹介し、交流希望の意図を伝えた。その結果、RIHSとの交流や協定に向けての話し合いの許可が得られ、RUBとして後方支援すると共に、RIHS学長Dr. Chenchuと話を進めるようにとの助言を頂いた。そして、どのようにこのプログラムを構築していくか、また協定を結ぶまでの過程を具体的に提案して頂いた。まず、本学の教員1名と学生2名とで、どのようなトレーニングとなるかを体験し、その後プログラムの詳細について、RIHSのスタッフと共に考える流れとなった。また、交換留学について決定していく旨も提案された。実習先となる県立病院とDrukgyelにあるBasic Health Unit（BHU）の訪問を視察に加えるようにと提案され、RIHSの教員と共に訪問することとなった。

（2）RIHS視察

・目的：

RUBと同様に、カリキュラムと教育体制についての情報を収集し、聴講あるいは一部履修が可能なプログラムがあるか調査すると共に、現地学校からの交流要請も併せて調査する。また、本学部生が、現地学校の臨床看護に参加もしくは見学が可能か、並びにブータンに滞在する場合の宿泊先や学生の安全面に関する情報収集を行う。

・相手方対応者：

RIHS 学長 Dr. Chencho Dorjee

・視察結果：

＜交流内容＞

RIHSの学生と共に、授業（聴講を含む）や、Jigme Dorji Wangchuk National Referral Hospital (JDWNRH)、及びBHUでのフィールド実習が可能。

＜時期＞

9月～10月可能。

＜受け入れ人数＞

学生人数は5～10名受け入れ可能。

＜その他＞

RIHSからのプログラム作成の提案として、第1段階：学生はまず見学体験をする、第2段階：1週間滞在し、看護実践を体験する、第3段階：第2段階を踏まえ、どのようなプログラムとするか共に考える、という長期的に進める具体案が出された。現在、RIHSは4年生大学へと移行する時期で組織化している状況ではあるが、2012年にも受け入れが可能であると報告された。

また、交換留学については、RIHSの学生の経済的負担を考慮できるのであればぜひ実現したいとの希望があった。その後、RIHSの学習環境（教室、コンピューター室、図書室）見学、そして今後、図書館の充実を図りたいとの説明を受けた。

（3）Department of Public Health（ブータン保健省）視察

・目的：

ブータンにおける医療の実情を把握すると共に学生の研修方法を調査する。

・相手方対応者：

局長 Dr. Dorji Wangchuk

RIHS 学長 Dr. Chencho Dorjeeと共に

・視察結果：

RIHSと本学との交流を奨励するお言葉を頂いた。昨年、本学医学部よりブータンへ研修に来ていた学生を覚えており、交換留学として将来的に自治医科大学附属病院でトレーニングができるように

なることを望まれた。また、医師不足のため、今後5年間で医療従事者を増員させる政策を立てており、本学の学生も貢献できる人材であると期待された。日本における看護師の継続教育についての取り組みにも強い関心を示された。

（4）国立病院 Jigme Dorji Wangchuk National Referral Hospital (JDWNRH) 視察

・目的：

ブータンにおける医療の実情を把握すると共に学生の研修の方法を調査する。

・相手方対応者：

副院長 Dr. Dasho Pema Thinley

RIHS 学長 Dr. Chencho Dorjeeと共に

・視察結果：

実習を受け入れることは可能であり、実習の目的を明確にし、RIHS学長Dr. Chencho Dorjeeとプログラムの検討をして欲しいとの説明があった。同時にJDWNRHに貢献できる人材を求められた。

その後、看護部長の説明にて院内の診療部、病棟施設見学。外来患者数800～1000名/日、ベッド数350床、国立の総合病院。対応できない治療に関しては、インドの病院に送ることがある。医療費は全国民無料、外国人（本学部生を含む）であっても無料。JICAを通じてJDWNRHに勤務している日本人の紹介を受ける。助産師 望月氏、ICU 土屋氏、放射線技師 小池氏。望月氏と土屋氏は2012年中も勤務予定である。RIHS学生のインターンシップの様子も垣間見られた。

（5）Paro 市内の県立総合病院

・目的：

ブータンにおける医療の実情を把握すると共に学生の研修方法を調査する。

・相手方対応者：

病院長、看護部長、RIHS教員 Chang Zamtog

RIHS 学長 Dr. Chencho Dorjeeと共に

・視察結果：

ベッド数30床、医師3名、看護師20名。ブータンの約30%の国民がこの病院で診療を受けている。この日、助産師を集めて勉強会が行われていた。

ブータンの健康問題として、性感染症、HIV、

母子保健，交通事故，糖尿病，薬物・アルコール依存，高血圧，高齢者の健康問題などがあげられた。看護師，助産師は自立して患者の健康問題に取り組んでいた。

訪問前日に，日本から寄付された救急車26台のうち2台がこの病院へ配車され，既に1台は出動していた。

（6）Basic Health Unit in Drukgyel (BHU)

・目的：

地方医療の実情を把握すると共に学生の研修方法を調査する。

・相手方対応者：

ヘルスワーカー

病院長，看護部長，RIHS教員 Chang Zamtog，RIHS 学長 Dr. Chencho Dorjeeと共に

・視察結果：

農村にあるBHUにヘルスワーカーが一人在住し，村民の健康を守り，県立総合病院から決まった時期に看護師が派遣されるシステムとなっていた。1日平均70～80名（20名程度の時もある）来院する。この日は，頭部を受傷した患者が受診していた。看護部長によると，へき地の住民が徒歩で3日かけて訪問していることも報告された。

（7）JICA ブータン事務局

・目的：

本学看護学部生がブータンに滞在する場合の宿泊先や学生の安全面に関する情報収集を行う。

・相手方対応者：

JICAブータン事務局職員 白石 邦広氏

・視察結果：

白石氏には昨年，自治医科大学からブータンへ研修に来た医学部生のサポートをして頂いた。

現在JICAで取り組んでいる主な保健医療事業はワクチンの配布となっている。特に農村部の東部6県に医療ニーズがあるので，ブータン側に本学の活動のメリットが見えるように示していくことが重要であるとのアドバイスを頂いた。スケジュールリングをし，メールベースで計画に載せていくことや，交換留学計画時には現金は見せずに，

付加価値をつけるという具体的な進め方のアドバイスも頂いた。

（8）その他

全般的なブータン視察結果：

学生の滞在先については，現在大学寮が満室のため，ホテルまたはレンタルアパートメントを勧められた。ルーラルエリアの場合，ホームステイが可能となる。ホテル滞在なら1日2,000円ほど，アパートメント家賃は1ヶ月1万5千円ほど。治安は良いが，外国人が立ち入ってはいけない場所があるので，ガイドを付けることが必須となる。

国全体は九州程度であるが，農村への移動には自動車が欠かせない。ブータンの食事は，3食米食であり，小麦粉で焼って揚げたパンケーキもある。野菜は豊富で，トウガラシを使用した料理がメインとなる。辛さも日本人の口に合う味である。飲料水はミネラルウォーターが1リットル20～36ニュルタム（40円～58円），食費は1日200円～，1ヶ月約1万円未満。

日本との時差が3時間であり，体に負担がかからないことが確認された。

以上がブータン王国視察結果となる。

IV. 今後の展望と進捗状況

このように看護学部として2カ国の視察を実施してきたが，自治医科大学のミッションを鑑み，今後はブータン王国との交流に的を絞り，国際交流を展開していくことが確認された。

参考までに，本学の「新たなミッション」としてホームページに掲載されている文言をここに引用する。

＜自治医科大学の新たなミッション＞

建学の精神を堅持しつつ，現在の医療状況の改善に貢献するために以下のミッションを策定する。

1. 地域医療，および地域の医療／保健／福祉ネットワークの構築とその維持に貢献する医療人を育成する。
 2. 医療難民を作らない地域医療提供体制への研究／提言／支援を行う。
 3. 医療／健康に貢献する研究を推進する。
- （本学ホームページより）

現在，国際交流WGにおいて，本学が希望する

交流プログラムをRIHS に送付したところ、先方のNeyzang Wangmo 氏から以下のメールを頂いた。

“My name is Neyzang Wangmo from the Royal Institute of Health Sciences, Bhutan. Dr. Chencho Dorji has assigned me with this task to follow up on the Program Proposal sent by you.

Before we initiate the program, we have to obtain government approval and the process may take a while. To initiate the approval process we need to know the the total number of students participating in the program and tentative dates (starting and ending).

From the proposal sent to Dr. Chencho, I understand that it will be 2nd and 3rd year students (all nursing students I guess) and two teachers for nine days. Please let us know if there is any change to this. Once we obtain the approval , we can work on the program details as per your need.

Please do not hesitate to contact me for any clarification or assistance

With warm regards,
Neyzang

このメールを受け、国際交流WGでは更なる詳細について話し合い、来年にも学生をブータンに送り、その後大学間協定を結ぶことを視野に入れ、活動が続けている。

活動報告：「総合実習」の実際と成果

科目責任者 半澤 節子

1. カリキュラム上の本科目の位置づけ

「総合実習」は、2008（平成20）年度からスタートしたカリキュラムの中で、総合分野に位置付けられている。総合分野は、学生が基礎科学分野、並びに看護学分野で学んだ知識や技術を併せて、総合的に実践の中で研鑽し、創造的に専門性を深め、看護実践の開発を追求するための基礎能力を、1年次から4年次にかけて段階的に身につけることを目指した複数の科目で構成されている。総合実習は、看護総合セミナーと併せて、この総合分野の科目の最終年度となる4年次に履修する科目のひとつで、必修科目2単位90時間となっている。

2. 学習目的と学習目標

総合実習は、看護の対象または看護実践現場の特性に応じた看護を展開するための総合的能力を養うことを目的として、(1)これまでの実習を振り返った上で、自己の看護実践課題を見出し、その改善に向けた看護実践方法について検討し、(2)主体的な実習目標を設定し、根拠に基づいた看護を展開し、(3)必要な看護を提供する上での組織における課題を検討し、必要な他職種、他機関との協働やチームアプローチについて考えること、という3つを学習目標としている。

3. 学習内容と学習方法

学習内容は、原則として7月最終週から8月第1週にかけての2週間（10日間）を実習期間とし、臨地の現場で実習することとなるが、その際、実習目標及び実習内容は学生自らが計画立案し、臨地の指導者などと調整しながら、看護過程を展開する。また、その評価を行い、多職種間の調整と連携について検討する。

学習方法は、まず、学科目別の実習施設や実習内容を勘案し、学生の配置に関するアンケートに書かれた「自己の看護実践課題」を参考にしながら、学科目別の学生配置が決定される。総合実習を履修することを通して、4年次に履修する総合分野の科目のひとつである「看護総合セミナー」

における学習とともに、「自己の看護実践課題」を探究していく。

各学科目の担当責任者は、基礎看護学（本田教授）、成人看護学（中村教授）、老年看護学（宮林教授）、母性看護学（成田教授）、小児看護学（中島教授）、精神看護学（永井教授）、地域看護学（春山教授）が担当した。7つの学科目の看護系教員全員とともに、臨床教授等の実習に係わる臨床指導者の協力体制により指導を行った。

評価は、各学科目の総合実習担当者が、学生の出席、実習内容、提出された実習レポートなどをもとに、総合実習評価票を基準に評価を行い、科目責任者が集計し、最終評価を行った。

4. 初年度の評価

1) 自己の看護実践課題と実習目標の設定

初年度の学習を振り返って、いくつかの指導上の課題が明らかになった。

第一に、総合実習における学習内容と看護総合セミナーにおける学習内容とを関連づけ、指導する上での困難について、複数の学科目の教員から意見が出されていた。たとえば、「自己の看護実践課題」と実習施設の対象者とのマッチングがうまくいかず、実習目標の設定に困難を来した状況がみられた、実習施設や援助対象の状況から学生の希望する実習内容が体験できなかったという状況が一部の学生に生じた。その結果、総合実習における看護過程の展開で行った必要な看護実践と、看護総合セミナーで探究すべき「自己の看護実践課題」は必ずしも一致しないこともあったが、両者をつなげる作業を、学生自らが主体的に取り組む中で、「自己の看護実践課題」について、配置された学科目での実習事例とを、うまく結び付けられるよう、指導することが必要であった。

総合分野の最終年次となる4年次の学習の到達レベルとして、総合実習で深めた「自己の看護実践課題」を、看護総合セミナーで多角的に探究し、両科目を統合した学習成果が見出せるよう指導した。いくつかの学科目では、学生が設定した「自己の看護実践課題」や実習目標に応じて、利用者

宅への訪問、通院への同行、利用施設の見学など、実習施設において夜間や土曜・日曜の実習、病棟と外来の両者での実習など、多様な実習方法を展開していた。また、3年次の実習と総合実習の施設が異なる学生に対しては、事前に施設の見学を促し、学生の「自己の看護実践課題」と実習目標に合わせた実習計画を立案させ、実習先の指導者と交渉できるよう指導した。

2) 組織の課題と必要な連携・協働について学習することの困難

「必要な看護を提供する上での組織における課題を検討し、必要な他職種、他機関との協働やチームアプローチについて考える」という学習目標の達成には、一部の学科目で困難があるという意見があった。この課題を学生が考えるためには、事例の選定の段階から、多様な支援の連携を必要とする事例を選択する必要がある、附属病院を含む医療機関の入院患者では、困難がみられるという意見があった。入院日数の短縮や介護や家族調整などを含む支援を病棟の看護職が担いにくい現状も背景にあると考えられたが、面会や外泊などの支援を通じて、患者と医療従事者という関係性を広げて、事例の支援を考えられる視野を養うための指導上の工夫も今後の課題と考えられる。

3) 実習施設側の指導方法

初年度であったため、本科目の実習目標、目的、内容、方法について、3年次までの実習との相違点を実習施設の指導者に理解してもらうことが難しかったという意見がみられた。また、附属病院では実習の時期が新人教育ローテーションの時期と重なったため、病棟によっては指導者を立てられないところもあり、指導体制に課題が残ったところもみられた。

5. 次年度に向けた課題

総合分野の最終年度の科目として、3年次の研究セミナーでの履修内容を踏まえつつ、総合実習における「自己の看護実践課題」を見出し、実習目標を学生が主体的に設定し実習を展開できるよう、個別指導とグループ指導を効果的に活用することが重要である。

そのためにも、幅広い学生の希望に沿えるよう多様な実習フィールドを準備し、平成23年度に

行ったFD評価実施委員会での報告といった機会を活用して、各学科目の総合実習の実施状況と評価を共有し意見交換を行う機会を設けることや、学科目毎に、実習先の指導者とともに次年度に向けた課題を話し合い、実習方法における工夫などについて意見交換し、次年度に反映させることなどを継続することが必要である。

また、4月に行われる学生オリエンテーションの際には、4年次の学生に対して、自己の看護実践課題について、いずれの学科目に配置されたとしても、実践可能な課題となるよう設定することを十分に説明し、その際、各学科目の実習先をあらかじめ提示しておくことが効果的な実習へとつながると考えられた。

6. 総合実習評価票集計結果の概要

平成23年度の総合実習評価票について、学生による自己評価と教員による評価の両者を集計した結果を資料として示した（P24-25）。

評価項目は3群、すなわち、【根拠に基づく看護を展開する能力】、【組織の課題と必要な連携・協働】、【全体】に分けられている。また、各群はいくつかの評価項目によって構成されており、全体で10項目により成り立っている。

【根拠に基づく看護を展開する能力】は、1) 科学的根拠に基づいた看護計画を主体的に立案する、2) 生活主体者である対象（家族を含む）の健康状態を総合的にアセスメントし、全体像を描く、3) 対象者の特性に応じた適切な援助技術を用いて看護実践を行う、4) 文献等を活用し、実施した看護を客観的に評価するという4項目で構成される。

【組織の課題と必要な連携・協働】は、5) 実習施設の地域における機能と役割を考える、6) 受け持った対象への看護を通して、看護職間、他職種、他機関との協働・連携の方法を考える、7) 受け持った対象への看護を通して必要な地域ケア体制について検討するという3項目で構成される。

【全体】は、8) 実習全体を通して、自己の看護実践課題を明確にする、9) 総合的な援助活動における看護の位置づけを明確にし、自己の看護観を深める、10) 学生としての自覚をもち、責任ある行動がとれるという3項目で構成される。

各項目の評価尺度は、「よくできた（4点）」、

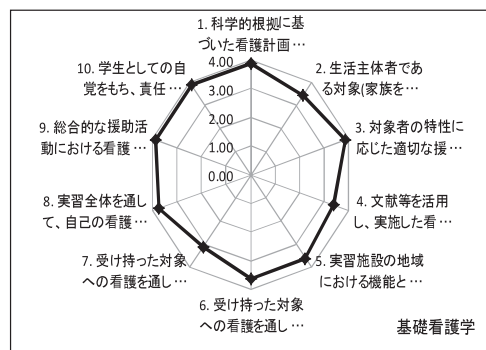
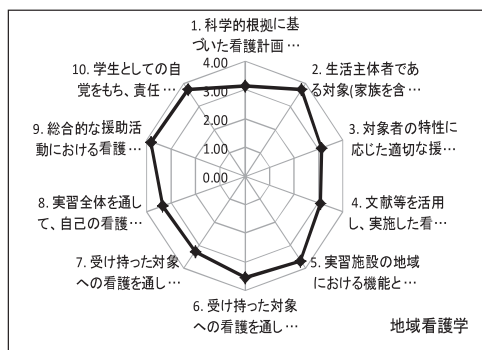
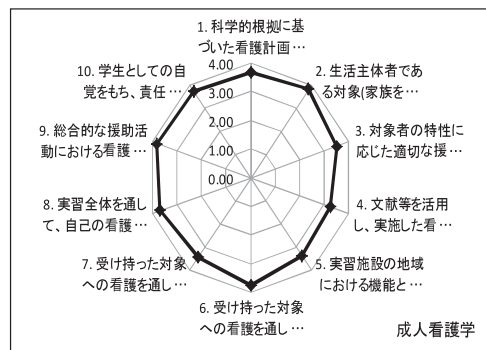
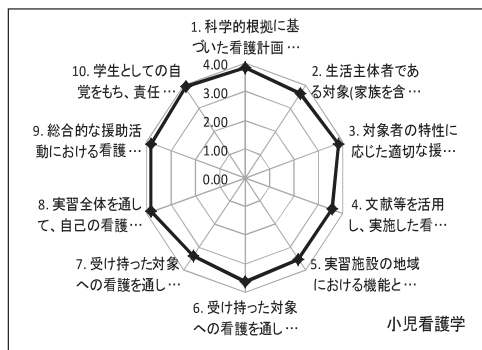
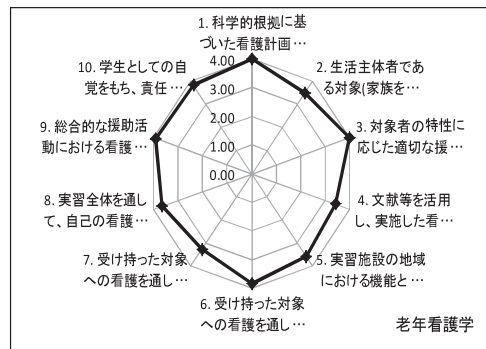
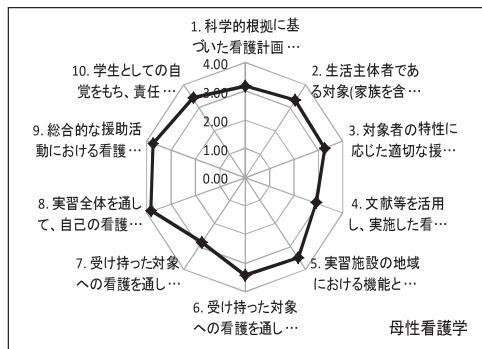
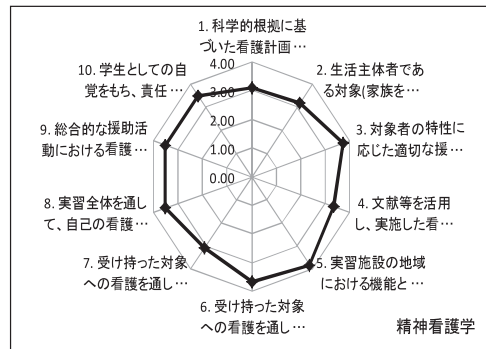
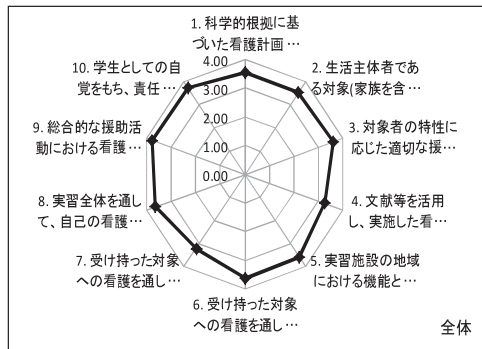
「できた(3点)」,「だいたいできた(2点)」,
「できなかった(1点)」という4段階で評価する。

7学科目の全体をみると、いずれの項目においても、評価の平均値は「できた(3点)」以上であった。また、学生の自己評価と教員の評価とを比較してみると、両者の間には大きな差がなかった。【根拠に基づく看護を展開する能力】及び【組織の課題と必要な連携・協働】という2群のいずれにおいても、学習の到達度は概ね良好であったと考えられる。

平成23年度 総合実習評価票集計【学生による自己評価】

	1. 科学的根拠に基づいた看護計画を主体的に立案する。	2. 生活主体である対象(家族を含む)の健康状態を総合的にアセスメントし、全体像を描く。	3. 対象者の特性に応じた適切な援助技術を用いて看護実践を行う。	4. 文献等を活用し、実施した看護を客観的に評価する。	5. 実習施設の地域における機能と役割を考える。	6. 受け持った対象への看護を通して、看護職間、他職種、他機関との協働・連携の方法を考える。	7. 受け持った対象への看護を通して、自己の看護実践課題を明確にする。	8. 実習全体を通して、自己の看護実践課題を明確にする。	9. 総合的な援助活動における看護の位置づけを明確にし、自己の看護観を深める。	10. 学生としての自覚をもち、責任ある行動がとれる。
全体	3.54	3.53	3.61	3.27	3.59	3.64	3.20	3.65	3.79	3.72
1.母性	3.17	3.33	3.25	2.92	3.50	3.42	2.83	3.83	3.75	3.42
2.小児	3.82	3.64	3.82	3.55	3.55	3.64	3.36	3.82	3.82	3.91
3.地域	3.13	3.73	3.13	3.07	3.67	3.53	3.27	3.33	3.80	3.73
4.精神	3.08	3.17	3.75	3.33	3.83	3.67	3.08	3.50	3.50	3.50
5.老年	4.00	3.50	4.00	3.42	3.58	3.83	3.25	3.67	3.92	3.83
6.成人	3.69	3.81	3.50	3.25	3.38	3.75	3.44	3.69	3.81	3.75
7.基礎	3.88	3.44	3.88	3.38	3.63	3.63	3.13	3.75	3.88	3.88

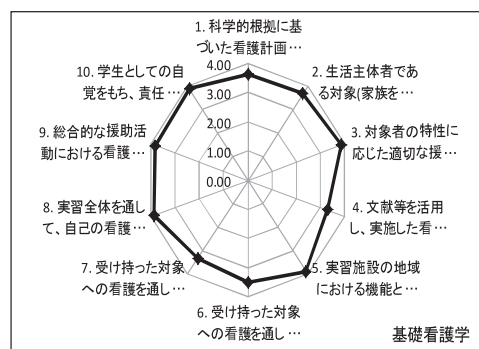
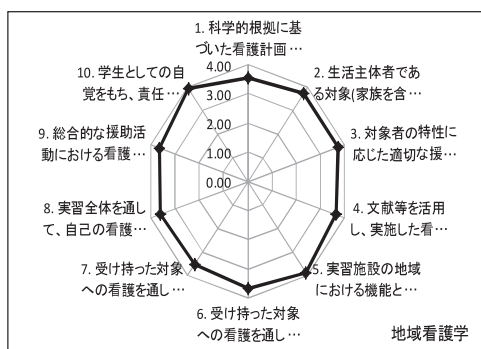
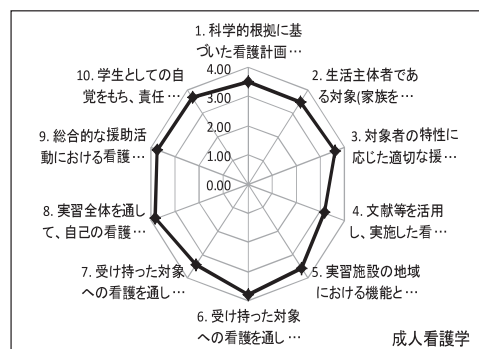
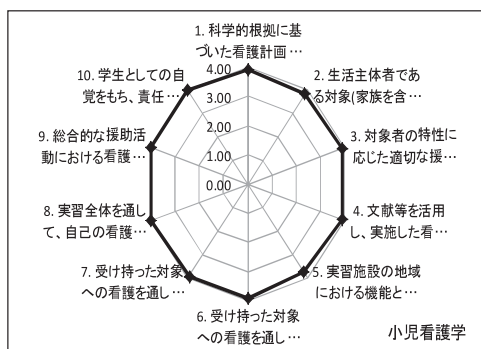
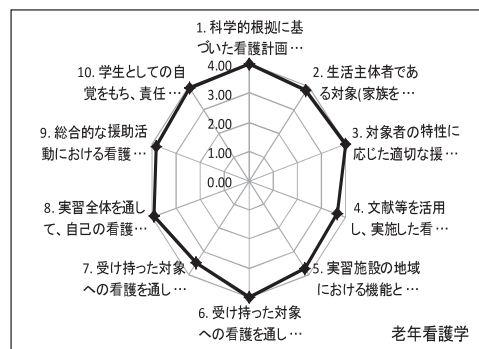
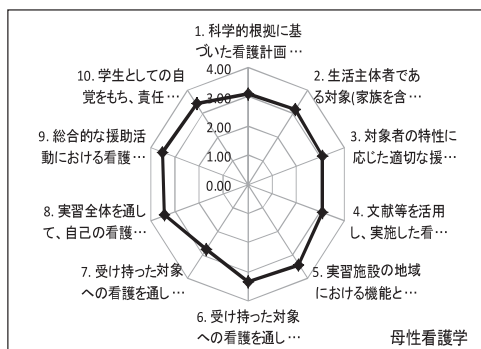
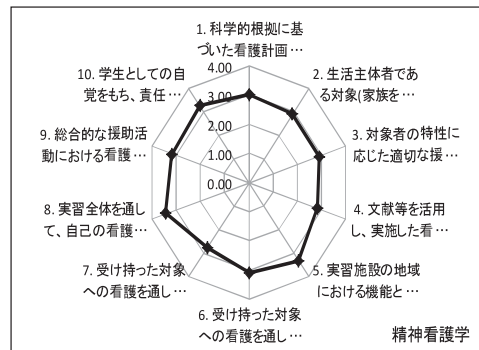
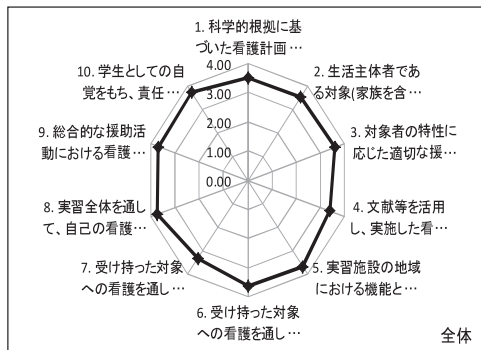
* 評価 A(よくできた)=4, B(できた)=3, C(だいたいできた)=2, D(できなかった)=1



平成23年度 総合実習評価票集計【教員による自己評価】

	1. 科学的根拠に基づいた看護計画を主体的に立案する。	2. 生活主体者である対象(家族を含む)の健康状態を総合的にアセスメントし、全体像を描く。	3. 対象者の特性に応じた適切な援助技術を用いて看護実践を行う。	4. 文献等を活用し、実施した看護を客観的に評価する。	5. 実習施設の地域における機能と役割を考える。	6. 受け持った対象への看護を通して、看護職間、他職種、他機関との協働・連携の方法を考える。	7. 受け持った対象への看護を通して必要な地域ケア体制について検討する。	8. 実習全体を通して、自己の看護実践課題を明確にする。	9. 総合的な援助活動における看護の位置づけを明確にし、自己の看護観を深める。	10. 学生としての自覚をもち、責任ある行動がとれる。
全体	3.52	3.53	3.61	3.37	3.66	3.62	3.32	3.72	3.68	3.73
1.母性	3.08	3.17	3.08	3.08	3.42	3.33	2.75	3.42	3.50	3.42
2.小児	3.91	3.82	3.91	3.91	3.73	3.91	3.91	4.00	4.00	4.00
3.地域	3.53	3.73	3.73	3.67	3.87	3.67	3.53	3.60	3.67	3.93
4.精神	3.00	2.92	2.92	2.83	3.33	3.08	2.75	3.42	3.17	3.25
5.老年	4.00	3.83	4.00	3.67	3.75	4.00	3.50	3.92	3.83	3.92
6.成人	3.50	3.50	3.63	3.19	3.56	3.81	3.44	3.81	3.75	3.69
7.基礎	3.63	3.69	3.88	3.31	3.88	3.50	3.31	3.88	3.81	3.88

* 評価 A(よくできた)=4、B(できた)=3、C(だいたいできた)=2、D(できなかった)=1



看護学部委員会等報告

看護学部委員会等報告

人事委員会

委員長 水戸美津子

1. 所管事項

- (1)自治医科大学看護学部教員の選考に関する事項
- (2)非常勤講師の選考に関する事項
- (3)その他学部長が必要と認めた事項

		・看護基礎科学講師の選考について ・母性看護学助教の選考について
8	2月14日	・2012年度非常勤講師の追加任用（1人）について ・老年看護学助教の選考について
9	3月19日	・2012年度非常勤講師の追加任用（1人）について
10	3月29日 (持ち回り審議)	・2012年度非常勤講師の任用（1人）について

2. 委員会の構成

- (1)「自治医科大学看護学部教員の選考方法等に関する内規」に規定する者
(5名以上7名以内)

表1 構成員と役割

氏 名	役 割
水戸学部長	委員長
春山教務委員長	委 員
竹田津学生委員長	委 員
中村FD委員長	委 員
被選考教員の関連領域の教授等	委 員
学部長が必要と認めた者（2名以内）	委 員

3. 活動内容

- (1)「自治医科大学看護学部教員の選考方法等に関する内規」第2条の規定により、表1のとおり人事委員会を開催した。

表2 2011年度の審議事項

回	開 催 日	審議事項
1	6月21日 (持ち回り審議)	・非常勤講師の任用（1人）について
2	7月26日	・非常勤講師の追加任用（1人）について
3	9月1日	・基礎看護学講師又は助教の選考について
4	9月20日	・非常勤講師の追加任用（1人）について
5	9月26日 (持ち回り審議)	・非常勤講師任用委嘱期間の変更（1人）について
6	12月20日	・精神看護学准教授又は講師の選考について ・小児看護学講師の選考について ・母性看護学講師又は助教の選考について
7	1月24日	・2012年度非常勤講師の任用（12人）について ・看護基礎科学教授の選考について ・地域看護学准教授の選考について ・基礎看護学准教授の選考について ・地域看護学助教の選考について ・老年看護学講師又は助教の選考について

教務委員会

委員長 春山 早苗

1. 所管事項

本委員会の所管事項は①授業及び試験に関する事項②単位及び課程の修了に関する事項③学生の入学、退学、休学及び卒業等に関する事項④学生の修学指導に関する事項⑤授業関係の予算に関する事項⑥その他学部長が必要と認めた事項である。

2. 委員会の構成

本委員会の構成員を表1に、下部組織を表2に示す。昨年度に卒業時到達度評価方法の検討を終えたため、この担当は廃組した。2012年4月の指定

表1 構成員と役割

氏 名	役 割
春山 早苗 教授	委員長
中村 美鈴 教授	副委員長
竹田津文俊 教授	委員
塚原 節子 教授	委員
中島登美子 教授	委員
成田 伸 教授	委員
半澤 節子 教授	委員
本田 芳香 教授	委員
宮林 幸江 教授	委員
渡邊 亮一 教授	委員
大垣 利行 看護学務課課長	事務局
安島 幸子 看護学務課課長補佐	事務局
佐藤 真美 看護学務課主事	事務局

表2 下部組織

担 当 名	担 当 者
既修得単位認定	●本田芳香, 渡邊亮一
時間割担当	●渡邊亮一, 中村美鈴, 高山詩穂, 板橋直人
夏季へき地研修	●竹田津文俊, 里光やよい, 工藤奈織美, 島田裕子, 和久紀子
共通物品管理	●塚原節子, 樋貝繁香, 川上勝, 滝恵津, 荒木智絵, 小池純子, 関山友子
助産学実習 受講生選考	●成田伸
授業関係予算	●宮林幸江
カリキュラム 検討部会	●中島登美子, ○本田芳香, 春山早苗, 中村美鈴, 竹田津文俊, 塚原節子, 成田伸, 野々山未希子, 半澤節子, 宮林幸江, 大塚公一郎, 横山由美, 村上礼子, 浜端賢次, 小原泉, 野崎章子, 塚本友栄

●担当責任者 ○担当副責任者

規則改正を鑑み、また現行カリキュラムの評価に基づいて、2012年度からの新カリキュラムを検討するために「カリキュラム検討部会」を設置した。選考方法の変更に合わせ、「助産師国家試験受験資格関連科目受講生選考担当」を「助産学実習受講生選考担当」に名称変更した。

3. 活動内容

本年度は、新規・重点活動として、卒業時到達度評価の実施及び2012年度からの新たなカリキュラムの検討を行った。次年度の課題は、新カリキュラムの円滑な運用と卒業時到達度評価方法の検証と精練である。

表3 2011年度の議題

回	開催日	議 題
1	2011年 4月14日	・下部組織の各担当 ・本委員会年間スケジュール ・新カリキュラム検討スケジュール ・震災発生に伴う学習上の配慮
2	2011年 5月12日	・休学、退学 ・前学期履修状況 ・下部組織の各担当役割と年間計画 ・2011年度授業関係予算の配分
3	2011年 6月9日	・2012年度授業関係予算及び教室整備に係る予算要求（案）
4	2011年 7月14日	・休学 ・2012年度時間割 ・前学期定期試験（1・2・4学年） ・夏季へき地研修実施計画 ・新カリキュラム案 等
5	2011年 9月8日	・休学、復学 ・前学期再試験 ・新カリキュラム検討の今後のスケジュール 等
6	2011年 10月13日	・休学 ・後学期履修状況 ・夏季へき地研修実施報告 ・卒業時到達度評価 ・インフルエンザ時の学生の対応 ・研究セミナーの進め方 等
7	2011年 11月10日	・2012年度シラバス依頼 ・助産学実習受講者選考試験 等
8	2011年 12月8日	・2011年度予算執行状況 ・2012年度本委員会関連学年暦 ・2012年度時間割 ・助産学実習受講者選考試験等
9	2012年 1月12日	・2012年度以降の時間割モデル ・後学期定期試験の時間割 ・新カリキュラムの履修条件
10	2012年 2月9日	・4学年後学期単位取得状況 ・卒業認定
11	2012年 3月15日	・休学、復学 ・助産学実習受講者選考試験の結果 ・後学期単位取得状況（1～3学年） ・下部組織の各担当の活動報告 ・実習時のヒヤリハット、事故報告体制

学生委員会

委員長代理 大塚公一郎

1. 所管事項

- (1)学生の厚生補導及び賞罰に関する事項
- (2)学生の健康管理及び学生相談に関する事項
- (3)学生の進路指導に関する事項
- (4)学長賞等の選考に関する事項
- (5)看護学部学生寮の管理運営に関する事項
- (6)奨学生の採用及び貸与に関する事項
- (7)その他学部長が必要と認めた事項

2. 委員会の構成

学生委員会の機能を果たすために、奨学生選考担当、進路指導担当、学友会幹事がおかれた。役割担当（委員会外教員も含む）は、表1の通りである。

表1 構成員と役割

氏 名	役 割
竹田津文俊 教 授	委員長（24年1月迄） 学友会幹事
成田 伸 教 授	奨学生選考担当 進路指導担当
本田 芳香 教 授	委員
大塚公一郎 准教授	副委員長 委員長代理（24年2月より）
大脇 淳子 准教授	委員
飯塚 秀樹 講 師	奨学生選考担当

表2 下部組織

	担当者氏名
進路指導担当	川上 勝 講師 塚本 友栄 講師 野崎 章子 講師

3. 活動内容

学生委員会は、「学生が健全な学業生活を送ることができるよう支援すること」を第一の目的とする委員会である。

上記目標に即して、平成23年度も、学生委員会は、学業（課外活動も含む）の奨励・支援、学生の学業生活上生じた様々な障害や問題の解決への支援、学生の健康問題解決への支援、学生への経済的支援、学生の将来の進路決定の支援を行った。

本学部の学生は学生自治会を、また寮在住学生は寮自治会をそれぞれ組織し、自主的に運営している。この二つの自治会の運営の支援も本委員会が担当した。これらの活動は、本学部の看護学務

課、看護総務課との緊密な相談・連携のもと行われた。

学生の学業生活上生じた様々な障害や問題の解決への支援は、各学生委員の学生との直接相談、学年担当アドバイザーとの緊密な連絡相談、カウンセリングルーム活用の奨励などを通して行った。

学生の健康問題解決への支援は、学生健康管理チームが中心となっており、また大学保健室の行う検診への受診の奨励、個々の学生の健康相談などを行った。

学生への経済的支援は、主に奨学金の選考・推薦を通して行われた。自治医科大学看護学部奨学金、日本学生支援機構奨学金の選考・推薦を行った。新たな学生への経済的支援として、平成21年度より、本学において、保護者の経済的問題による就学困難学生への就学資金（授業料等）の援助が開始され、授業料等の免除・徴収猶予の制度が設けられた。平成23年度も、若干名の学生に「半額免除、半額徴収猶予」の措置が講じられた。

学生の将来の進路決定の支援は、進路指導担当が中心となっており行った。

学生自治会、寮自治会の運営の支援は、学生委員会委員と両自治会役員との懇談を通して行われた。寮生活そのものの支援として、入寮案内、寮生活オリエンテーション、防災訓練、寮規則違反者への指導などが行われた。

部活動、クラブ活動、サークル活動などの課外活動を、学友会（本学部では、学生委員会が所掌）を通して奨励した。薬師祭（学園祭）の開催を支援した。

授業中、課外活動中に発生した傷害、疾病、器物損傷に対する保険として損害賠償責任事故保険「WILL」への学生の加入を促した。

通常疾病に対する保険として自治医科大学学生健康保険組合（自治医科大学附属病院での加療に対して一人年間10万円まで給付されるものである）への学生の加入を促した。

学業（課外活動も含む）の奨励・支援の一環として、看護学部校舎における防災訓練を行った。

4学年卒業予定者のなかより、学長賞候補者を選考し3名推薦した。

学生委員会は、8月を除いて毎月定例開催され、合計11回開催された。臨時の委員会が、2011年7月に2回学生の処分に関連して開催された。

表3 2011年度の審議事項

回	開催日	審議事項
1	2011年4月7日	(1)年間予定 (2)役割分担
2	2011年5月12日	(1)看護学生寮防災訓練 (2)奨学金 (3)地震発生時災害対策
3	2011年6月2日	(1)防災訓練報告 (2)学部校舎節電対策
4	2011年7月7日	(1)学生懲戒処分 (2)奨学金
5	2011年9月1日	(1)看護学部防災訓練 (2)東日本大震災にともなう罹災証明
6	2011年10月6日	(1)東日本大震災にともなう罹災証明 (2)男子学生寮（レジデントハウス） 貸与
7	2011年11月10日	(1)進路ガイダンス (2)男子学生寮（レジデントハウス） 貸与 (3)学生自治会及び寮自治会
8	2011年12月1日	(1)学長賞選考
9	2012年1月5日	(1)学生委員会と自治会の懇談会
10	2012年2月2日	(1)学長賞選考 (2)卒業式総代など担当学生について (3)日本私立看護系大学協会会長賞推薦について
11	2012年3月1日	(1)学生寮の取り扱いについて

FD評価・実施委員会

委員長 中村 美鈴

1. 所管事項

FD評価・実施委員会は、定例委員会であり、所轄事項は、1. 授業内容及び方法の評価に関する事項、2. 教員の資質開発に関する事項、3. 研修会の企画、実施に関する事項4. 教育内容等の改善のための組織的取り組みに関する事項、5. その他学部長が必要と認めた事項である。

2. 委員会の構成

構成委員は6名で、表1に示す通りである。

表1 構成員と役割

氏 名	役 割
中村 美鈴 教授	委員長
塚原 節子 教授	副委員長
春山 早苗 教授	委 員
中島登美子 教授	委 員
小原 泉 准教授	委 員
浜端 賢次 准教授	委 員

3. 活動内容

平成23年度は、表2に示すような議題で計9回の委員会と、2回のFD授業研究会（うち1回は拡大FD授業研究会）を開催した。

第1回目の委員会では、FD評価・実施委員会の所轄事項と年間活動計画について確認した。教員の資質開発を含めてFD活動をしていくことを再確認した。また、各科目群責任者による授業評価に用いる様式「科目責任者による課題の抽出票」に、評価方法や授業の総合評価を問う設問を加える等の修正を加えた。

第2回の委員会では、平成23年度FD拡大授業研究会の開催ならびにその主要企画について検討し、①教員の資質開発を目的とした自治医科大学看護学部版「FDマップ」とその評価方法の作成。②学部長による講話「本看護学部の目指すべき方向性」に決定した。

第3回の委員会では、継続審議である平成23年度FD拡大授業研究会の企画についての検討をした。①「FDマップ」における分野ごと（教育・研究・組織マネジメント・社会貢献）の目的②当日のプログラムの流れを検討した。検討内容を踏まえ、FDマップの概論と活用・評価方法に関して講師の愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室

副室長准教授の佐藤浩章氏と調整することとなった。

第4回の委員会では、継続審議である平成23年度FD拡大授業研究会について、第2・3回委員会の審議事項①について、目的を達成するための方略を検討した。各教員の具体的な行動へつなげるための下位項目の内容について、研究会で検討することが決定した。さらに、当日のグループ編成は職位ごと→職位混合→職位ごとのサンドイッチ形式でFDマップ作成に取り組むことが決定した。

第5回の委員会では、FD拡大授業研究会のアンケート結果を踏まえ、企画評価を行った。授業研究会の参加者からは概ね肯定的な評価であり、目的が達成された効果的な研究会であった旨、確認された。また、今後におけるFDの所轄範囲をより具体的に可視化して、全体で共有できるように見直す必要性が指摘された。さらに、FDマップの完成に向けての今後の進め方を確認した。

第6回の委員会では、看護学部FDマップの完成に向けての検討を積み重ねた。助教から講師、准教授、教授を一人の大学教員の成長と考え、職位ごとに到達目標とその評価方法を各分野に整理すること等をはじめとした方針を再確認した。また、平成23年度第2回授業研究会の内容を検討した結果、共通科目の「総合実習」「看護総合セミナー」「看護トピックス」の授業評価と授業研究、基礎看護学における授業展開の教授方法の工夫、ならびに各科目群の教授方法の工夫とFDニーズについてと決定した。

第7回・8回の委員会では、継続審議である看護学部FDマップの完成に向けて検討した。また、第2回授業研究会のプログラムの確認と役割分担を検討した。

第9回の委員会では、第2回FD授業研究会のアンケートの内容、企画プログラムを検討し、決定した。また、平成23年度FD評価実施マニュアルにおける、今年度の授業評価方法について審議を行った。「学生による授業科目の評価票」の回収率の低さ（平成22年度26.5%→平成23年度27.5%）が指摘され、来年度より、配布前に教員が科目名を記入するなどの改善策を講じることとなった。今年度は授業評価方法を変更し、新規の取り組みであったことを踏まえ、平成24年度授業評価実施マニュアルは平成23年度分を踏襲することとなった。

平成23年度のFD評価・実施委員会の活動評価と次年度に向けての課題

今年度の大目標である看護学部FDマップの作成について、現段階で活用できるものができた。目標は達成したと評価する。次年度に向けての課題は、このFDマップを活用し、その成果と、教員の資質向上についての検討である。今後、FDマップを冊子体として配布し、キャリア支援ツールとしての活用と、さらに看護学部教員のFDのための研修ニーズを把握するために活用する。

表2 2011年度の審議事項

回	開催日	議 題
1	2011年4月7日	・FD評価実施委員会の所轄事項と年間活動計画 ・科目責任者の課題抽出票に関する内容と様式について ・FD拡大授業研究会の企画の方向性について
2	2011年5月13日	・FD拡大授業研究会の開催について ・平成23年度FD授業マニュアルについて
3	2011年6月2日	・FD拡大授業研究会の開催について
4	2011年7月7日	・FD拡大授業研究会の企画
5	2011年10月6日	・FD拡大授業研究会のアンケート結果を踏まえて企画の評価について ・愛媛大学教育企画室HPに研修報告の掲載資料について ・FDマップの完成に向けて今後の進め方について ・報告書の作成について
6	2011年11月10日	・看護学部FDマップの完成に向けて ・第2回FD授業研究会の開催内容について
7	2011年12月1日	・看護学部FDマップの完成に向けて ・第2回FD授業研究会のプログラムの確認と役割分担について
8	2012年2月2日	・第2回FD授業研究会のプログラム内容の最終確認について ・看護学部FDマップの現時点における最終版の検討について
9	2012年3月1日	・第2回FD授業研究会のアンケートについて ・平成23年度FD評価実施マニュアルについて ・平成23年度FD評価・実施委員会の活動評価と次年度に向けての課題

広報委員会

委員長 大塚公一郎

1. 所管事項

本委員会の所管事項は、本看護学部における教育・研究の活動状況について、社会に向けて正確かつ迅速な情報の提供を行う、学内外に向けた広報活動を統括することである。

主な活動は、看護学部案内の作成、機関紙ビタミンN作成、オープンキャンパスの企画・実施・評価、看護学部ホームページの企画、進路相談会、模擬授業等の担当調整、その他PRに関することである。

2. 委員会の構成

表1 構成員と役割

氏 名	役 割
大塚公一郎 准教授	委員長
高木 初子 准教授	副委員長・オープンキャンパス担当HP担当
斎藤 良子 准教授	ビタミンN担当
佐藤 信枝 准教授	看護学部案内／オープンキャンパス担当
村上 礼子 准教授	看護学部案内担当
飯塚 秀樹 講師	ビタミンN担当／HP担当
樋貝 繁香 講師	オープンキャンパス担当

表2 下部組織

	担当者氏名
オープンキャンパス担当	荒木智絵助教、板橋直人助教、滝恵津助教、島田裕子助教
▲▲担当	

3. 活動内容

本年度は、ミニオープンキャンパスを5月21日（土）、オープンキャンパスを8月8日（月）、8月19日（金）に開催した。

平成24年度用看護学部案内（看護学部パンフレットという名称を変更）については、9月より本格的に取り組み、本年度中に内容はほぼ確定したが、納品は24年5月上旬であった。

ビタミンNについては、前年度委員会の活動を引き継ぎ、第8号が7月下旬に納品となった。さらに、第9号作成に向けて準備を進め、次年度委員会に引き継いでもらった。

計17回の学外の進学相談会、計2回の高校での模擬授業などを本学部教員、事務職員の協力のもとで計画し、実施した。

大学大学HPリニューアルと看護学部HPのリニューアルについては、大学HP小委員会のメンバーである成田教授と協議のうえ、本委員会の担当部分について作業を行った。

表2 2011年度の審議事項

回	開催日	主な審議事項
1	2011年4月13日	年間スケジュール、活動内容－役割分担の確認調整、平成24年度看護学部案内及びビタミンNの進捗状況報告
2	2011年5月19日	進路相談・模擬授業担当者調整、平成23年度ビタミンN編集作業報告、大学HP更新状況報告、平成23年度ミニオープンキャンパス実施案の検討、平成23年度案内作成に向けての活動
3	2011年6月16日	平成23年度オープンキャンパスについての提案、ビタミンN第8号配布及び第9号作成に向けての検討、平成24年度看護学部案内の進捗状況
4	2011年7月6日	大学HPリニューアルと看護学部HPの検討
5	2011年7月21日	8月のオープンキャンパスについての準備、大学HPリニューアルと看護学部HPの修正に向けての検討、進路相談・模擬授業の実施状況
6	2011年9月15日	平成23年度オープンキャンパス実施後の総括と改善点の検討、平成24年度看護学部案内の検討
7	2011年10月20日	平成24年度看護学部案内の検討、大学HP、看護学部HPの修正
8	2011年11月17日	平成24年度看護学部案内の検討、補足、大学HP、看護学部HPの修正
9	2011年4月13日	平成24年度看護学部案内の検討、印刷業者との打ち合わせ状況、看護学部キャッチフレーズの検討、大学コンソーシアムとちぎパンフレット
10	2012年1月19日	平成24年度看護学部案内の検討、24年度ビタミンN第9号作成案の検討、看護学部キャッチフレーズの決定、大学コンソーシアムとちぎパンフレット執筆担当学生の検討
11	2012年2月16日	平成24年度看護学部案内の検討、24年度ビタミンN第9号執筆担当学生の検討
12	2011年3月15日	各担当委員による平成23年度活動総括報告と次年度課題の検討

編集委員会

委員長 本田 芳香

1. 所轄事項

本委員会は、自治医科大学看護学部年報、自治医科大学大学院看護学研究科年報および自治医科大学看護学ジャーナルの刊行を所轄する。

2. 委員会の構成

本委員会の構成員と役割は表1に示すとおりである。

表1 構成員と役割

委員長	本田教授
副委員長	宮林教授
年報の編集・刊行担当	宮林教授
看護学ジャーナル担当	鈴木准教授 小原准教授 横山准教授 飯塚講師

3. 活動内容

本委員会は、今年度は表2に示すとおり3回の委員会を開催し、平成22年度年報の編集内容の検討、執筆要領の記載方法の変更および看護学ジャーナル規定の一部改定について検討をおこなった。

表2 委員会開催

回	開催日	審議事項
1	2011年4月28日	年間方針、年間計画、役割分担 年報の編集内容の一部変更・追加 検討
2	2011年11月9日	看護学ジャーナル編集 看護学ジャーナルのHP掲載方法
3	2012年1月13日	看護学ジャーナル投稿規程 看護学ジャーナル投稿論文の取り 扱い

自治医科大学看護学部年報（第9号）は、自治医科大学大学院看護学研究科年報（第5号）とあわせて発行した。編集内容は、年報第8号より新たに巻頭言、特別報告、活動報告の3項目を追加した。特別報告は、当該年度の特記すべき事項として学部または大学院における新たな事業の取り組みや新たな講座開設などの報告とし、平成22年度から開始した看護職キャリア支援センターの活動報告について執筆していただいた。活動報告は、委員会、教育研究別分野、大学院看護学研究科より当該年度の特記すべき活動に関する報告とし、委員会活動より研究推進委員会、教育研究別

分野より総合分野「研究セミナー」、大学院教育より専門看護師の育成についてそれぞれ執筆をしていただいた。また年報の執筆要領の記載方法を統一するため、執筆フォーマットを作成し体裁を整えた。

自治医科大学看護学ジャーナル（9号）は、投稿論文は計3編、内訳は論文1編、実践報告1編、資料1編であった。1編につき3名の査読者が論文内容の査読にあたった。

昨年度より継続審議となっていたホームページの掲載方法を検討した結果、看護学ジャーナル第7号からの掲載を図書館ホームページへのリンク掲載およびメディカルオンライン掲載をすることが了承された。

さらにより質の高い看護学ジャーナル編集を目指し、看護学ジャーナルの投稿論文審査方法および基準などを明文化する目的で、「自治医科大学看護学ジャーナル投稿論文審査規定」および「投稿論文査読評価基準」をとりまとめた。

なお、自治医科大学看護学部年報（第9号）および自治医科大学大学院看護学研究科年報（第5号）は、国立国会図書館をはじめ、政府関係機関、学外の実習関連施設、全国の看護系大学、栃木県関係、県内の看護系学校、総合病院などへ送付した。

国家試験対策委員会

委員長 渡邊 亮一

1. 所管事項

本委員会の所管事項は、保健師・助産師・看護師国家試験を受験する本学部の在学生や卒業生が国家試験に合格するように、学習環境を整え、学習相談などの支援を行うことである。

2. 委員会の構成

本委員会の構成員と役割を表1に示す。

表1 構成員と役割

氏 名	役 割
渡 邊 亮 一 教 授	委員長
里 光 やよい 准教授	副委員長
永 井 優 子 教 授	委 員
齋 藤 良 子 准教授	〃
鈴 木 久美子 准教授	〃
樋 貝 繁 香 講 師	〃
小 川 朋 子 講 師	〃
大 垣 利 行 課 長	事務局
安 島 幸 子 課長補佐	〃
榊 公 一 主 事	〃

ただし、樋貝講師は8月31日まで、小川講師は9月1日より。

3. 活動内容

2011年度は、表2に示すような議題で計9回の委員会を開催した。

委員会の具体的な活動としては、まず国家試験受験に向けてのガイダンスを2回実施した。また、これ以外に、3年生を対象にガイダンスを1回実施した。次に、国家試験対策のための模擬試験を、保健師については2回、助産師については2回、看護師については3回実施した。これらの模擬試験の成績を踏まえて、学生の個別面接・指導を行った。個別面接・指導は、学生を6グループに分け、それぞれのグループを1名の本委員会の委員が担当することとし、学習方法や学習上の悩みなどの学習相談を行った。また、国家試験出題科目を担当する他の教員にも協力を要請し、2011年12月から2012年1月にかけて、国家試験対策ゼミを開講した。

学習環境の整備については、学生サロンに設けられた国試対策コーナーに、受験参考書や問題集を置き、学生がいつでも利用できるようにした。また、業者が実施する国家試験対策模擬試験・国

家試験対策講義（講習）のパフレットを置き、学生が国家試験に備えるための便宜を図った。

2011年度の家試験は、助産師が2012年2月16日（木）に、保健師が2012年2月17日（金）に、看護師が2012年2月19日（日）に実施され、その結果は表3に示すとおりであった。2011年度の全国の合格率は、保健師が86.0%、助産師が95.0%、看護師が90.1%であった。本学部は、助産師の合格率が87.5%と全国平均をやや下回ったが、保健師と看護師の合格率は全国平均を大きく上回った。2011年度の家試験の結果はおおむね良好であったが、次年度以降も高い合格率を維持できるように、引き続き国家試験対策に力を注いでいく必要がある。

表3 2011年度保健師助産師看護師国家試験の結果

区 分	資格	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)
自治医科大学 看護学部	保健師	96	90	93.8
	助産師	8	7	87.5
	看護師	93	90	96.8
全 国	保健師	15,758	13,555	86.0
	助産師	2,132	2,026	95.0
	看護師	53,702	48,400	90.1

表2 2011年度の審議事項

回	開催日	審 議 事 項
1	2011年4月14日	・ 国家試験対策委員会の所管事項について ・ 4年生に対する国家試験対策のガイダンスの報告 ・ 平成23年度国家試験対策模擬試験のマニュアルについて ・ 平成23年度国家試験対策に向けた個別指導について
2	2011年5月12日	・ 国家試験対策模擬試験の日程の確認について ・ 平成23年度日本私立看護系大学協会研修会の参加について ・ 4年生に対する個人面接の経過（結果）に報告
3	2011年7月14日	・ 第1回看護師国家試験対策模擬試験の実施状況ならびに成績について ・ 平成23年度日本私立看護系大学協会研修会の参加報告 ・ 担当学生の近況報告
4	2011年9月8日	・ 委員の交代 ・ 保健師・助産師・看護師国家試験の施行（官報）について ・ 国家試験対策模擬試験日程等の確認について ・ 担当学生の近況報告について
5	2011年11月10日	・ 保健師・助産師・看護師国家試験模擬試験の受験状況について ・ 学長特別講義および国家試験出願手続説明会等の開催について ・ 3年生に対する国家試験対策ガイダンスについて ・ 国家試験対策ゼミについて ・ 担当学生の近況報告について
6	2011年12月8日	・ 保健師・助産師・看護師国家試験模擬試験の結果（成績）について ・ 国家試験対策ゼミについて ・ 3年生に対する国家試験ガイダンスについて ・ 理事長特別講話および国家試験受験説明会の開催について ・ 担当学生の近況報告
7	2012年1月12日	・ 第2回保健師・第2回助産師・第3回看護師国家試験模擬試験の実施状況について ・ 次年度に向けた国家試験対策推薦参考図書について ・ 担当学生の近況報告
8	2012年2月9日	・ 第2回保健師・第2回助産師・第3回看護師国家試験模擬試験の結果について ・ 国家試験対策関連の今後の予定の確認 ・ 担当学生の状況について ・ 3年生の低学年対象専門基礎科目実力確認テストについて ・ 次年度に向けた国家試験対策推薦参考図書リストについて
9	2012年3月26日	・ 第98回保健師・第95回助産師・第101回看護師国家試験の結果について ・ 次期国家試験対策委員会への申し送り事項について

臨床実習指導研修委員会

委員長 永井 優子

1. 所管事項

本委員会の所管事項は、次の4事項となっている。なお、平成23年度については、水戸看護学部長から3及び4について検討する必要はないと指示された。

1. 臨床実習指導研修会のプログラムに関する事項
2. 臨床実習指導研修会の開催に関する事項
3. 臨床実習指導研修会修了者のフォローに関する事項
4. その他学部長が必要と認めた事項

2. 委員会の構成

本委員会の構成員と役割を表1に示した。なお、佐藤友子助教が退職したため、6月から小池純子助教が後任となった。事務担当者は看護総務課富川修平主事である。

表1 構成員と役割

氏 名	役 割
永井 優子 教授	委員長
鈴木 久美子 准教授	副委員長
宇城 令 講師	講義・演習担当
工藤 奈織美 講師	グループ編成・アンケート調査担当
北村 露輝 助教	講義・演習担当
小池 純子 助教 (佐藤 友子 助教)	グループ編成・アンケート調査担当

3. 活動内容

本年度は、年間計6回委員会を開催した。開催頻度は不定期で、9月の臨床実習指導研修会に向けて、前学期に4回開催した。

委員長を除き担当者のほとんどが交替したが、前年度に今年度のプログラム等の企画をしており、大きな影響はなかった。しかし、平成23年1月に保健師助産師看護師学校養成所指定規則が改正され、平成23年3月に大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会の最終報告書がだされ、本看護学部のカリキュラムも改正されたことから、テキストの参考資料については大幅に見直しを行った。

平成23年度臨床実習指導研修会は9月6日（火）、7日（水）の2日間実施し、受講者60名（本学附属医療機関看護職54名を含む）全員に修了書と認証

バッチを授与した。

また、本年度は、平成21年11月定例教授総会にて修正された目的と目標にそって実施した2回目の研修会であったため、実施方法および内容について検討した。その結果、実施方法と内容について一部修正をし、平成24年度研修会の計画を立案し、学部外の講師である、本学附属医療機関の看護師についても人選を進めた。

さらに、平成24年度に向けて「臨床実習指導研修会実施マニュアル」について、加筆・修正し、整備した。

表3 2011年度の審議事項

回	開催日	審議事項
1	2011年4月14日（木） 14：00-15：00	1. 所管事項と役割分担 2. 委員会開催日程 3. 本年度研修会の内容 4. その他
2	2011年5月12日（木） 17：00-18：00	1. 本年度研修会の内容 2. テキスト掲載資料 3. 進捗状況報告 4. その他
3	2011年7月7日（木） 17：00-18：00	1. 申し込み状況 2. 進捗状況報告 3. その他
4	2011年9月5日（月） 15：00-16：00	1. 本年度研修会の準備 2. その他
5	2011年10月13日（木） 16：00-17：00	1. 本年度研修会の実施結果の検討 2. その他
6	2012年1月5日（木） 14：30-15：30	1. 平成24年度研修会の計画 2. 研修会マニュアルの修正 3. その他

実習調整委員会

委員長 成田 伸

1. 所管事項

本委員会は、新カリキュラム進行に伴う実習教育運営上の全般的調整を行うために設置されており、設置期間は、平成20年4月から平成24年3月までである。本年度は、1) 看護学臨地実習の計画・実施・評価に関する事項、2) 看護学実習全般のオリエンテーションに関する事項、3) 看護学臨地実習施設との連絡調整に関する事項、4) その他、臨地実習に関する事項を検討した。

2. 委員会の構成

本委員会の構成員と役割を表1に示した。

表1 構成員と役割

氏 名	役 割
成田 伸 教授	委員長
里光 やよい 准教授	副委員長（実習ローテーション作成）
永井 優子 教授	実習要項関連、ヒヤリハット関連事項担当（2010年10月より就任）
村上 礼子 准教授	実習要項関連、実習全体オリエンテーション企画・運営担当
浜端 賢次 准教授	ヒヤリハット関連事項、実習教育説明会企画
塚本 友栄 講師	実習要項関連、実習教育説明会企画担当
野崎 章子 講師	ヒヤリハット関連事項、実習全体オリエンテーション企画・運営（2010年8月末で退任）

3. 活動内容

本年度は10回の委員会を開催した。また、委員会に先立って、各担当を中心としたワーキングを開催し、十分な事前検討を行ったうえで資料を作成し、委員会の実効性を高めた。

本委員会が平成23年度末で終了し、教務委員会の下部組織に移行したため、実習調整関係業務の年間計画を整理し、担当者に引き継いだ。

表2 2011年度の審議事項

回	開催日	審議事項
1	2011年4月14日	年間スケジュール、活動内容・役割分担の確認調整、実習教育説明会の役割分担等
2	2011年5月19日	実習教育説明会の振り返り、ヒヤリハットの蓄積とそのフィードバック、実習教育遂行に関する現状と課題
3	2011年6月16日	看護学実習の事故報告およびヒヤリハット報告、平成23年度配布分の実習要項の追加資料
4	2011年7月21日	看護学実習の事故報告およびヒヤリハット報告、平成24年度新カリキュラム対応の実習要項の検討
5	2011年10月20日	ヒヤリハットの分析結果と今後の対応、新カリキュラム移行に伴う実習関係の調整、新カリキュラム移行に伴う実習要項の修正
6	2011年11月17日	新カリキュラム移行に伴う実習要項の修正、ヒヤリハット報告と今後の対応、新カリキュラム移行に伴う実習関係の調整、附属病院における実習使用物品の検討
7	2011年12月17日	新カリキュラム移行に伴う実習要項の修正、ヒヤリハットおよび事故報告とその対応、新カリキュラム移行に伴う実習関係の調整、附属病院における実習使用物品の検討
8	2012年1月20日	新カリキュラム移行に伴う実習要項の修正、ヒヤリハットおよび事故報告とその対応、実習要項内一部のHPの掲載、附属病院における実習使用物品の検討、3年次実習オリエンテーション企画
9	2012年2月23日	新カリキュラム移行に伴う実習要項の修正、事故発生時の対応マニュアル（案）、3年次実習オリエンテーション資料、3年次前学期実習学生配置（案）
10	2012年3月23日	実習教育説明会の運営、看護実習オリエンテーション年間計画、3年次実習オリエンテーション、3年次前学期実習学生配置（案）、新カリキュラム移行に伴う実習要項の修正

研究推進委員会

委員長 半澤 節子

1. 所管事項

本委員会の所管事項は、臨地の看護職者等との共同研究を推進し、看護学部教員の研究能力、研究指導能力の向上に資するための環境を整備することである。

2. 委員会の構成

本委員会の構成員と役割は表1に、本委員会の下部組織として各担当については表2に示した。

表1 構成員と役割

氏 名	役 割
半澤 節子 教授	委員長
宮林 幸江 教授	
野々山 未希子 教授	
小原 泉 准教授	副委員長
横山 由美 准教授	
川上 勝 講師	

表2 下部組織

担当者氏名	
半澤、野々山	共同研究費担当
小原、川上	科研費必勝ゼミ担当
宮林、横山	私立看護系大学協会主催セミナー担当
半澤、横山、川上 小原、野々山、宮林	看護部主催看護研究担当 前期担当 後期担当
若林総務課長、 田中主事 (事務局看護総務課)	科研費採択状況報告 教員の研究活動評価集計

3. 活動内容

表3に示すとおり、平成23年度は合計5回の委員会を開催し、本委員会の所管事項について検討を行った。主な検討事項は、看護系教員共同研究費申請に関すること、本学附属病院看護部主催看護研究発表会への参加（本委員会委員3名が各病棟の研究発表を分担し、論文の査読、評価、助言を行う）、研究活動実績の集計、評価などである。

平成23年度は、科研費必勝ゼミの内容の工夫、臨地の看護職者等との共同研究の強化を引き続き課題とした。また、自治医科大学シンポジウム委員会と連携し、学内教員及び修士課程の在学生による研究発表を促し、教員と院生の共同研究活動のさらなる推進を図った。

表3 委員会等の開催

回	開催日	審議事項
1	4月14日	第1回委員会開催：年度方針の決定、年間計画と役割分担 第2回委員会開催：看護系教員共同研究費
2	6月9日	申請一覧の報告、科研費必勝ゼミの企画の検討
3	7月14日	第3回委員会開催：科研費必勝ゼミのタイムスケジュールと役割分担の確認
4	7月21日	文部科学省科研費必勝ゼミ①：講義（申請の体験報告）と参加者相互の懇談
5	8月8日	文部科学省科研費必勝ゼミ②：演習（ロードマップ作成）と参加者相互の懇談
6	9月10日	看護部主催看護研究発表会（前期）に助言者として参加
7	9月23日	私学看護系大学協会主催セミナー参加
8	10月13日	第4回委員会開催：文部科学省科研費必勝ゼミの評価、看護部主催看護研究発表会（前期）及び私学看護系大学協会主催セミナーの報告
9	2月18日	看護部主催看護研究発表会（後期）に助言者として参加
10	3月8日	第5回委員会：看護部主催看護研究発表会（後期）の報告、研究活動評価票の集計結果報告、次年度の活動計画

入試実施委員会

委員長 中島登美子

1. 所管事項

入試実施委員会の所管事項は、①入試実施説明会に関すること、②入試実施日の役割分担・実施手順に関すること、③推薦指定校の訪問の3つである。

2. 委員会の構成

本委員会の構成員と役割を表1に示す。

表1 構成員と役割

氏 名	役 割
中島登美子 教授	委員長
野々山美希子 教授	副委員長
大脇 淳子 准教授	委 員
工藤奈緒美 講師	委 員
長井 栄子 講師	委 員
松浦利江子 講師	委 員

3. 活動内容

本年度は、表2に示すような議題で計3回の委員会を開催した。

推薦指定校の訪問については、平成23年6月中旬から7月上旬にかけて、入試実施委員会の委員以外の教授・准教授を含めた計11名の教員と看護学務課・看護総務課の職員が協力して、栃木県18校、埼玉県・福島県各4校、群馬県2校、茨城県・岩手県各1校の計30校の推薦指定校の訪問を実施した。

入試実施説明会は、平成23年11月10日（木）に推薦入試試験の説明会を、平成24年1月26日（木）に一般選抜入学試験の説明会を実施した。

入試実施日の役割分担・実施手順に関しては、3種類のマニュアル（「推薦入学試験マニュアル」、 「一般選抜入学試験第一次試験（筆記試験）マニュアル」、 「一般選抜入学試験第二次試験（面接試験）マニュアル」）の内容の見直しや再検討を行い、マニュアルを完成させた。このマニュアルを用いて、前述した入試実施説明会を行った。

表2 2011年度の審議事項

回	開催日	審議事項
1	2013年4月21日	・入試実施委員会の所管事項ならびに委員等の構成について ・平成24年度看護学部入試試験の概要について ・推薦指定校の訪問について ・入試実施説明会の日程について ・入試実施マニュアルについて
2	2013年10月6日	・平成24年度入学試験の実施について ・平成24年度推薦入学試験実施マニュアルについて
3	2014年1月5日	・平成24年度一般選抜入学試験（一次、二次）実施マニュアルについて

大学院看護学研究科委員会等報告

大学院看護学研究科委員会

委員長 水戸美津子

1. 所管事項

- (1)学則の制定及び改廃に関する事項
- (2)研究科の教育課程に関する事項
- (3)入学，休学，退学，転学，転入学，除籍及び賞罰に関する事項
- (4)試験に関する事項
- (5)学位論文審査に関する事項
- (6)その他研究科の学事に関する重要事項

2. 委員会の構成

- (1)「自治医科大学大学院学則」第41条第2項に規定する者（研究科長，専攻分野主任教授，研究科長が指名する教授）

表1 構成員と役割

氏 名	役 割
水戸 美津子	委員長（研究科長）
半澤 節子	委 員（幹事長）
中村 美鈴	委 員（専攻分野主任）
春山 早苗	委 員（専攻分野主任）
竹田津 文俊	委 員
塚原 節子	委 員
中島 登美子	委 員
成田 伸	委 員
本田 芳香	委 員
宮林 幸江	委 員
（小原 泉）	オブザーバー

3. 活動内容

- (1)「自治医科大学大学院学則」第41条第1項の規定により，看護学研究科の学事に関する重要事項について審議を行うため，表2のとおり看護学研究科委員会を開催した。

表2 2011年度の審議事項

回	開催日	審議事項
1	4月1日	・研究指導教員の決定について ・ティーチングアシスタントの決定について ・休学願について ・非常勤講師の追加任用について ・教員任用審査（科目追加）について ・研究科委員会日程等について
2	5月12日	・研究科構想発表会について ・履修科目の決定について

		・ティーチングアシスタント（追加）の決定について ・2012年度入学試験説明会について ・2012年度科目等履修生の募集日程等について ・2012年度履修規定の一部改正について
3	6月2日	・2012年度出願資格認定試験並びに入学試験の実施要領について ・研究指導教員の変更について
4	6月24日 （持ち回り審議）	・大学院教員任用審査について
5	9月8日	・2012年度予算（案）について ・研究科学生の研究に係る倫理審査委員会規程（案）について ・休学願について ・学位論文審査委員会の設置について ・論文審査（口頭試問）及び最終試験（発表会）について
6	9月22日	・論文審査の結果（1人）について ・2012年度入学試験実施について ・2012年度出願資格認定試験合否判定について ・最終試験の判定（1人）について
7	10月20日	・科目等履修生単位修得について ・2012年度入学試験合否判定について
8	12月19日	・2012年度科目責任者の決定について ・2012年度大学院任用審査について ・学位審査委員会の開催について ・論文審査（口頭試問）及び最終試験（発表会）について
9	1月11日 （持ち回り審議）	・大学院学則の改正について
10	1月26日	・2012年度博士前期課程Ⅰ期，Ⅱ期入試日程について ・2012年度博士後期課程Ⅰ期，Ⅱ期入試日程について ・2012年度倫理審査会等日程について ・2012年度学年暦について ・2012年度時間割について ・2012年度科目等履修生の決定について ・2012年度非常勤講師の任用について ・大学院教員任用（科目追加）について
11	2月16日	・論文審査（口頭試問）の結果について ・大学院教員任用（科目追加・新規）について

		・ 博士後期課程設置に伴う規程等の改正について
12	3月1日	・ 修得単位の認定について ・ 最終試験の判定について ・ 修了判定について ・ 科目等履修生の単位修得（後期履修）について ・ 2012年度新入生・在学生オリエンテーション（案）について ・ 退学願について
13	3月8日 (持ち回り審議)	・ 研究科組織に関する規程の制定について
14	3月22日	・ 2012年度非常勤講師の追加任用について

研究科委員会幹事会

研究科委員会幹事長 半澤 節子

1. 所管事項

研究科委員会幹事会の所管事項は、自治医科大学大学院看護学研究科委員会幹事会運営内規に基づき、(1)自治医科大学大学院看護学研究科委員会（以下「研究科委員会」という）に付議する事項に関する事前審議、(2)自治医科大学大学院看護学研究科に係る企画立案、(3)その他大学院看護学研究科の運営に係る日常業務の処理の3つである。

2. 委員会の構成

委員会の構成員と各委員の役割について、表1に示した。

表1 構成員と役割

氏 名	役 割
半澤 節子 教授	幹事長
春山 早苗 教授	地域看護管理学分野主任
中村 美鈴 教授	実践看護学分野主任
野々山未希子 教授	入学試験実施担当
大塚公一郎 准教授	研究構想発表会担当
小原泉 准教授	広報担当
齊藤良子 准教授	研究構想発表会担当
鈴木久美子 准教授	授業研究会実施担当
高木初子 准教授	予算実施計画担当
村上礼子 准教授	授業研究会実施担当
横山由美 准教授	入学試験実施担当
看護学務課湯浅係長	事務局担当

3. 活動内容

平成23年度も前年度に引き続き、本研究科委員会幹事会の所管事項、すなわち、入学試験実施、次年度予算、広報、授業研究会、研究構想発表会に関して、大学院看護学研究科委員会の事前に審議を行い、幹事会（案）を提示した。

各審議事項が適時審議されるよう、幹事会の定例会の議題を年度当初に設定し、各委員に示した上で、必要な検討事項について、研究科委員会の事前に審議を行った。平成23年度の年間実績を表2に示した。

表2 審議事項

回	開催日	審議事項
1	4月21日	第1回定例会：看護学研究科委員会幹事会年間計画、役割分担について
2	5月19日	第2回定例会：看護学研究科入学試験実施について
3	7月21日	第3回定例会：平成24年度研究科予算（案）について、広報について
4	9月15日	第4回定例会：研究構想発表会について
5	11月17日	第5回定例会：授業研究会について

教育研究分野別報告

看護基礎科学

教授 渡邊 亮一

1. スタッフの紹介

教授 竹田 俊明（9月30日退職）

教授 竹田津文俊（1月31日退職）

教授 渡邊 亮一

准教授 大塚公一郎

講師 飯塚 秀樹（4月1日就任）

学歴：（University of Bath, Department of European Studies & Modern Languages）MA in Interpreting & Translating。資格：（公益財団法人日本英語検定協会）英語検定試験1級，（日本政府観光局）通訳案内士（英語），高等学校・中学校教諭1種免許状（英語）。職歴：茨城県立高等学校英語科教諭を経て本学に着任。

2. 教育の概要

1）看護基礎科学の教育概要

(1) グローバル生物学（2年次前学期1単位：必修）

竹田が2時間，長野 敬非常勤講師（本学医学部名誉教授）が12時間を担当して講義を行った。

(2) 生化学（1年次前学期1単位：必修）

竹田が12時間，香川靖雄非常勤講師（本学医学部名誉教授）が2時間を担当して講義を行った。

(3) 人体の構造と機能Ⅰ（1年次前学期2単位：必修）

竹田が20時間，加藤一夫非常勤講師（本学医学部准教授）が6時間，医学部解剖学講座員が4時間を担当して講義ならびに実習を行った。

(4) 人体の構造と機能Ⅱ（1年次前学期2単位：必修）

竹田が30時間を担当して講義を行った。

(5) 臨床検査学（2年次後学期1単位：必修）

竹田津が8時間，谷口信行非常勤講師（本学医学部教授）が4時間，松浦克彦非常勤講師（本学医学部講師）が2時間，菊池 透非常勤講師（本学RIセンター管理主任）が2時間を担当して講義を行った。

(6) 病態学概論（1年次後学期2単位：必修）

竹田津が30時間を担当して講義を行った。

(7) 病態学各論（2年次前学期2単位：必修）

竹田津が30時間を担当して講義を行った。

(8) 情報学（1～4年次後学期2単位：選択）

渡邊が30時間を担当して講義ならびに演習を

行った。

(9) 統計学（2年次前学期1単位：必修）

渡邊が15時間を担当して講義を行った。

(10) 統計学演習（2年次後学期1単位：必修）

渡邊が30時間を担当して講義ならびに演習を行った。

(11) 疫学（2年次前学期2単位：必修）

渡邊が30時間を担当して講義を行った。

(12) 哲学（1～4年次前学期1単位：選択）

大塚が15時間を担当して講義を行った。

(13) 倫理学（1年次後学期1単位：必修）

春山早苗教授が2時間，大塚が13時間を担当して講義を行った。

(14) 心理学（2年次前学期2単位：必修）

大塚が30時間を担当して講義を行った。

(15) 人間関係論（1～4年次前学期1単位：選択）

大塚が14時間，高村寿子非常勤講師（本学部名誉教授）が16時間を担当して講義ならびに演習を行った。

(16) 文化人類学入門（1～4年次後学期2単位：選択）

大塚が10時間，渡部圭一非常勤講師（早稲田大学人間科学部教員）が10時間，砂井紫里非常勤講師（早稲田大学人間科学学教員）が10時間を担当して講義を行った。

(17) 英語（1～4年次前学期1単位：選択）

飯塚が30時間を担当し，講義ならびに演習を行った。

2）看護基礎科学以外の担当教育概要

(1) 看護基礎セミナー（1年次前学期1単位：選択）

竹田，竹田津，渡邊，大塚は，それぞれ30時間の演習を担当した。

(2) 文献講読セミナー（2年次前学期1単位：必修）

渡邊は2時間の講義を，飯塚は10時間の演習を担当した。

(3) 生活の理解実習（1年次後学期2単位：必修）

渡邊，大塚，飯塚は，それぞれ90時間の演習を担当した。

(4) 在宅看護実習（3年次後学期3単位：必修）

渡邊，大塚，飯塚は，6時間の演習を担当した。

(5) 大塚は，本学医学部3年生を対象に，2時間の社会精神医学の系統講義を行った。

(6) 大塚は，本学医学部4年生を対象に，精神科臨床実習クルズス「サイコネフロロジー」の講義を

計16時間行った。

3. 研究の概要

1) ニューラルネットワークの作用と応用に関する研究

竹田は、ニューラルネットワークの作用と応用についての研究を行っている。

2) 過去の医療事故の原因分析

竹田津は、過去の医療事故の原因分析を行っている。

3) 医療情報技師の育成に関する研究

渡邊は、日本医療情報学会医療情報技師育成部会が認定する資格である「医療情報技師」および「上級医療情報技師」の育成にかかわっているが、そのなかで「上級医療情報技師」の育成制度や資格制度に関連した研究を行っている。

4) 日系ブラジル人児童のメンタルヘルス支援

大塚は、「レジリエントなコミュニティ形成をめざして－在日ブラジル人の震災経験を踏まえた支援の検討－」の研究を研究分担者として実施した。研究代表者は、本学部教員野崎章子、他の研究分担者は、本学部教員半澤節子、千葉大学岩崎弥生であった。

5) 日系ブラジル人の社会精神医学的研究

大塚は、本学附属病院精神科において、日系ブラジル人を中心とした外国人患者の診療にあたりるとともに、彼らを対象とした多文化間精神医学的調査、精神病理学的研究を行った。

6) 腎透析患者の精神障害、腎移植ドナーのメンタルヘルスについての研究

大塚は、本学附属病院腎臓センター外科部門の依頼のもと、同病院精神科医師である斎藤暢是とともに生体腎移植のドナー候補者の意思決定を確認するための面接を行うとともに、附属病院精神科外来で透析患者の診療にあたった。以上の診療にもとづき、サイコネフロジーの研究を行い、その結果を学会発表した。

7) 統合失調症の精神病理学的研究

大塚は、本学医学部精神医学教室加藤 敏教授とともに、統合失調症の妄想についての精神病理学的研究を行った。

8) 通訳訓練法を応用した英語教育に関する研究

飯塚は、通訳訓練法を応用した英語指導法 Consecutive Interpreting Approach に基づき、話すこと、書くことといった発信手段を強化する研

究を行っている。

4. その他

1) 渡邊は、平成22年度に引き続いて、財団法人日本医療機能評価機構の評価調査者として、第三者病院機能評価事業に参画した。

2) 渡邊は、日本医療福祉設備学会理事ならびに総務委員会委員長、日本医療情報学会理事・評議員ならびに医療情報技師育成部会会長、日本診療情報管理学会評議員、日本医療・病院管理学会評議員ならびに研究委員会委員などを務めた。

3) 渡邊は、第31回医療情報学連合大会（第12回日本医療情報学会学術大会）のプログラム委員会委員ならびにワークショップの座長、第40回日本医療福祉設備学会のプログラム委員会委員ならびにシンポジウムの座長を務めた。

4) 渡邊は、社団法人栃木県看護協会の認定看護管理者ファーストレベル教育「看護情報論」、ならびに認定看護管理者セカンドレベル教育「情報テクノロジー」の講師を務め、講義ならびに演習を行った。

5) 渡邊は、非常勤講師として、女子栄養大学栄養学部保健栄養学科の「情報科学概論」の講義（30時間）を、一般社団法人南埼玉郡市医師会久喜看護専門学校「看護学概論Ⅲ（看護研究）」の講義および演習（30時間）を担当した。

6) 大塚は、平成21年1月より多文化間精神医学会理事、同年9月より同学会機関誌「こころと文化」編集委員を務めている。

7) 大塚は、平成21年度より日本社会精神医学会学術委員を務めている。

8) 大塚は、平成22年10月より日本精神病理・精神療法学会評議員を務めている。

9) 大塚は、平成19年度より引き続いて、栃木県障害者介護給付費等不服審査会委員を務めている。

10) 大塚は、非常勤講師として、栃木県立衛生福祉大学校看護学科専科で2時間の精神医学の講義を行った。

11) 飯塚は、公益財団法人全国商業高等学校協会第28回英語スピーチコンテスト、スピーチの部で司会を務めた。

12) 飯塚は、公益財団法人全国商業高等学校協会英語専門委員として、全商英語検定試験1級及び2級の問題作成に従事した。

13) 飯塚は、平成23年度公益財団法人全国商業高

等学校協会全国英語教育研究大会において、「通訳訓練法を応用した口頭練習が英語コミュニケーション能力に及ぼす効果－CALLシステムを使った授業から－」という演題で講師を務めた。

基礎看護学

教授 塚原 節子

1. スタッフの紹介

教授 塚原 節子（2010年4月1日就任）

取得資格：看護師

学歴：富山大学経済学修士

職歴：富山大学附属病院看護師，看護師長を経験し，大学教育職に就く。教育歴15年。講師，助教授を経て現在教授職5年目となる。

本田 芳香

准教授 里光やよい

佐藤 信枝（2010年4月1日就任，
2011年3月31日辞任）

講師 宇城 令

熊谷 祐子（2011年10月1日就任）

取得資格：看護師

学歴：日本放送大学（修士学術）

職歴：9年半の看護師経験後，看護教育職に従事。西武文理大学の助教を経て，現在講師として就任。

助教 高山 詩穂（2010年4月1日着任）

取得資格：看護師・保健師

学歴：自治医科大学大学院修士

職歴：京都大学附属病院看護師を経験し，自治医科大学看護学部助教として就任。

滝 恵津（2010年4月1日着任）

取得資格：看護師・保健師

学歴：自治医科大学

職歴：京都大学附属病院看護師を経験し，自治医科大学看護学部助教として就任。

2. 教育の概要

基礎看護学科目群では，発達段階に合わせたすべての人を意識し，4年間で学ぶべく看護学の基礎を，また看護実践していくための基本的な論理思考の構築を目指し教育を進めた。

1) 基礎看護学に関する教育概要

(1)看護学概論（1年次前学期2単位：必修）

担当：塚原節子：人間・健康・環境・看護の4つの概念から今後看護が目指すものを教授。

(2)実践看護学概論（1年次前学期1単位）

担当：本田芳香：模擬患者をとりいれてコミュニケーション技術を伝授した。また患者とのコミュニケーションから得られた情報をもとにフィジカ

ルイグザミネーションの見本として教授した。

(3)看護技術論Ⅰ・看護技術演習Ⅰ（1年次前学期1単位・1単位）

担当：本田芳香，里光やよい，熊谷祐子：看護技術の導入としての環境や健康におけるバイタルサイン，基本的大意に関し講義と演習を進めた。

(4)看護技術論Ⅱ・看護技術演習Ⅱ（1年次後学期1単位・1単位）

担当：塚原節子，宇城令，熊谷祐子，滝恵津：日常生活援助に関し，食事，排泄，清潔等の講義と演習を進めた。

(5)看護技術論Ⅲ・看護技術演習Ⅲ（2年次前学期1単位・1単位）

担当：塚原節子，宇城令，高山詩穂：診療の補助業務に関し，滅菌操作，採血等の検査，与薬に関連する点滴，筋注，皮下注等の講義と演習を行った。

(6)看護技術総合演習（2年次前学期1単位）

担当：佐藤：フィジカルアセスメント，看護過程の展開を教授し，学生にはグループごとに基礎看護学の教員全員で個別に指導した。

(7)その他：「看護トピックス」は佐藤，里光，宇城が，「へき地の生活と看護」は熊谷・高山が「看護基礎セミナー」は准教授以上の教員（塚原・本田・佐藤・里光）および助教（高山・滝）が「文献購読セミナー」は准教授および講師（里光・佐藤・宇城・熊谷）がそれぞれ担当した。「看護研究セミナー」は准教授（里光・佐藤），講師（宇城・熊谷）・助教（高山・滝）で担当した。

3. 研究の概要

1) 別様式 参照

2) それぞれの教員が1本以上の学会での発表を行った。また塚原節子は第10回国際家族看護学会（京都）で発表した。宇城令はICN国際学会（Malta）にて発表した。学会誌への投稿，看護専門雑誌への投稿なども行っていた。

3) 宇城：文部科学省科学研究費補助金（基盤研究（B）「転倒・転落事故予防をめざす患者・家族と医療者による協働的リスク回避システムの開発」の研究代表者として，また文部科学省科学研究費補助金（基盤研究（B）「ヘルスリテラシー不足の患者・家族・市民を発見・支援する看護学習コンテンツ開発」（研究代表者：中山和弘）の連

携研究者として参加，さらに，宇城は，文部科学省科学研究費補助金（基盤研究（B海外）「術後機能障害評価尺度（DAUGS20）の欧米版開発と有用性の検証」（研究代表者：中村美鈴）の研究分担者として研究を進めている。そのほか，看護学部看護系共同研究費による研究課題「転倒した患者の心理および行動傾向を考慮したより安全な病床環境への取り組み」の研究代表者として，さらに看護学部系共同研究費による研究課題「看護学生を対象とした発展的救命処置トレーニングプログラムの開発」（研究代表者：川上 勝）の分担研究者として参加し，同研究を実施した。

高山：看護学部看護系教員共同研究費による課題研究「高齢者の口腔吸引・鼻腔吸引におけるリスク要因の検討」の研究代表者として参加し，同研究を実施した。

滝：看護学部看護系教員共同研究費による課題研究「高齢者の口腔吸引・鼻腔吸引におけるリスク要因の検討」（研究代表者：高山）の研究分担者として参加し，同研究を実施した。

4. その他

1）塚原：学外の2か所病院においてそこに勤務する看護師を対象に研究指導を行い，全国学会での発表に導いた。

2）熊谷：看護教育学会および看護教育研究学会の編集委員を務め，それぞれの学会への投稿論文の査読を全部で5本行った。

地域看護学

教授 春山 早苗

1. スタッフの紹介

教授 春山 早苗

准教授 鈴木久美子

講師 塚本 友栄

講師 工藤奈織美（平成24年3月31日退職）

助教 島田 裕子

助教 関山 友子

2. 教育の概要

1) 地域看護学に関する教育概要

公衆衛生の理念を追求する看護の目的と活動方法の基本を理解し、公衆衛生看護活動の展開に必要なとなる基本的な知識と技術を学生が修得できることを目指して、主に行政に所属する保健師の活動を素材にして、教育にあたっている。担当科目は、実践基礎看護学概論Ⅲ（2年次前学期2単位：必修）、公衆衛生看護活動論（3年次後学期2単位：必修）、公衆衛生看護方法論（3年次後学期1単位：必修）、公衆衛生看護実習（3年次後学期3単位：必修）、地域看護管理論（4年次前学期1単位：必修）であり、本学科目教員全員で担当した。また、在宅看護実習（3年次後学期3単位：必修）では、本学科目教員は訪問看護実習、産業看護実習を担当した。

2) 地域看護学以外の担当教育概要

①「倫理学」（1年次後学期：必修）：春山が科目責任者、講義を2時間担当。②「保健医療福祉システム論」（1年次後学期2単位：必修）：春山が科目責任者、鈴木、塚本、工藤とともに担当。③「看護基礎セミナー」（1年次前学期：必修）：春山、鈴木、島田、関山が担当。④「へき地の生活と看護」（1～4年次後学期：選択）：工藤が科目責任者、島田も担当。⑤「文献講読セミナー」（2年次前学期：必修）：塚本、工藤が担当。⑥「研究セミナー」（3年次後学期：必修）：春山が科目責任者、春山、塚本は講義担当、演習は本学科目教員全員で16名の学生を担当。⑦「国際看護論」（4年次前学期：必修）：春山が科目責任者、講義を8時間担当、塚本が2時間担当。⑧「総合実習」（4年次後学期：必修）：本学科目教員全員で15名を担当。実習場所は本学附属病院糖尿病外来2名、下野市4名、群馬県吾妻郡中之条町六合

地域4名、日光市足尾地域5名。⑨「看護総合セミナー」（4年次後学期：必修）：本学科目教員全員で学生15名を担当。春山が3名、鈴木が3名、塚本が3名、工藤が3名、島田が2名、関山が1名、計15名の学生を指導。学生は、血糖コントロール不良者や高齢者世帯の糖尿病の自己管理、育児不安軽減のための支援、山間過疎地域における介護予防活動や高齢者のセルフケア向上のための支援、高齢者の近隣住民との交流と健康との関連、へき地診療所における看護活動、中山間地域の家族や国内外からの転入者の育児支援・妊産婦支援等に関する看護研究に取り組んだ。⑩「看護トピックス」（4年次後学期：必修）：春山が科目責任者。本学科目では前学期に「地域における健康危機管理活動の展開方法」をテーマに実施。本学科目教員全員で学生13名を担当。⑪その他：工藤、島田は夏季へき地研修を担当。「へき地の生活と看護」の履修者を含む17名の研修を7カ所の施設において企画・実施した。

3. 研究の概要

1) 自治医科大学看護学部共同研究費「大震災発生時の県外からの避難者を対象とした避難所活動における保健師の役割」：島田を中心に本学科目教員全員で栃木県保健師とともに実施。

2) 平成23年度科学研究費補助金（基盤研究(C)）

「地域特性の相違性が大きい地域が内在する市町の保健師活動における地区管理方法」：研究代表者は春山、分担研究者は鈴木、塚本、工藤、島田、関山。

3) 平成23年度厚生労働科学研究費補助金（政策科学推進研究事業）「保健活動の質の評価指標開発」（研究代表者：東北大学大学院 教授 平野かよ子）：春山は、研究分担者として「感染症対策の評価指標案の適切性と実行可能性」に取り組んだ。

4) 平成23年度厚生労働科学研究費補助金（健康安全・危機管理対策総合研究事業）「地域健康安全・危機管理システムの機能評価及び質の改善に関する研究」（研究代表者：（財）日本公衆衛生協会 会長 多田羅浩三）の分担研究「東日本大震災被災地の地域保健基盤の組織体制のあり方に関する研究」（分担研究代表者：千葉大学大学院看護学研究科 教授 宮崎美砂子）：春山が研究協力者。

5) 平成23年度厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）「都道府県へき地保健医療計画策定支援とその実施に関する研究」（研究代表者：自治医科大学地域医療学センター地域医療学部門 教授 梶井英治）：春山が研究協力者。

4. その他

1) 本学科目教員全員：栃木県の要請による主に福島県からの避難者を対象とした県内避難所における健康相談等への協力活動において、春山と島田は本学部内の調整役を務めた。3月～8月に、春山は7日間、鈴木は2日間、塚本は4日間、工藤は5日間、島田は5日間、関山は5日間、避難所において活動した。春山と島田は、5月12日に開催された鹿沼市避難所活動の反省会に出席し、今後の防災時対応を含めて意見交換をした。このような活動に対し、7月に本学科目教員全員が本学より表彰された。

2) 栃木県地域保健中堅職員研修（企画評価編）（2011.6.29, 11.16, 参加者8名）：春山は講師、塚本は助言者。

3) 栃木県看護協会平成23年度実習指導者講習会（受講者38名）：鈴木は「看護論」（6時間, 2011.8.17）、塚本は「実習指導の評価」（6時間, 2011.8.25）を担当。

4) 春山は、日本ルーラルナース学会理事、編集委員長、工藤、関山は編集委員。

5) 春山、関山：栃木県市町村保健師業務研究会調査研究「30代・40代の保健師のやりがいが高める方策の検討」に係る指導及び助言（2011.7～2012.3）。

6) 春山：①平成23年度栃木県市町村保健師業務研究会第1回研修会：「栃木県市町保健師のあり方に関する調査から見たもの～保健師間の連携体制の必要性和課題～」を2時間講義（2011.5.23, 宇都宮市）。②日光市専門職（保健師・看護師・栄養士）研修会：第1回～第4回の講師（2011.7.12, 7.25, 8.17, 9.12, 対象者38名, 日光市）。③栃木県看護協会平成23年度 新任保健師継続研修会の講師（2011.8.27, 受講者19名, 宇都宮市）。④本学附属病院第1回地域派遣指導者会：「地域看護の意義と魅力」を講義した（2011.9.2）。⑤（財）地域社会振興財団 第13回健康教育・ヘルスプロモーション研修会の講師（2011.9.8～9.10, 受講

者14名, 下野市）。⑥栃木県看護協会平成23年度 新任保健師支援研修会：第2回, 第3回の講師（2011.9.24, 12.3, 受講者31名, 宇都宮市）。⑦JICA沖縄国際センター「公衆衛生活動による母子保健強化（アフリカ(B)）」コース：アフリカ6カ国の保健医療従事者6名を対象に本学部の教育の概要と教育課程について3時間講義（2011.12.7, 本学部）。⑧栃木県地域保健リーダー職員研修の講師：「保健師教育の現状と課題から新任期の人材育成をどのように考えていくか～育ち合う人材育成づくり～」を講義（2011.12.16, 受講者40人, 宇都宮市）。⑨日本家族計画協会, 予防医学事業中央会主催の第13回自己効力感（セルフエフィカシー）を高め主体的な行動変容を支える健康教育実践セミナーの講師として「地域づくりとソーシャルキャピタル」を1時間講義（2012.1.22, 受講者41人, 東京）。⑩平成23年度富山大学公開講座「保健師・訪問看護師のためのケーススタディ～あなたの看護実践を“ことば”にしよう～」第4回目の講師として「地域看護領域における実践活動を見直す・評価するとは」を講義, また助言者を務めた（2012.2.18, 受講者4人, 富山市）。⑪真岡市高血糖個別支援事業の評価研修の講師（2012.2.29, 真岡市）。⑫沖縄県立看護大学「保看統合カリキュラムを取り入れている他大学の地域看護学担当教員との意見交換会」における講師（2012.3.20, 那覇市）。⑬沖縄県立看護大学 文部科学省「専門的看護師・薬剤師等医療人材養成事業－島しょにおける『包括的専門看護師』の養成」に関する専門家会議メンバー。⑭JICA草の根技術協力事業（草の根パートナー型）「メキシコ国保健医療従事者と思春期ピアリーダーによる健康なライフスタイルづくりシステム化支援事業（プロジェクトマネジャー 高村寿子看護学部名誉教授）」（実施期間2009.9～2012.6）：プロジェクトメンバー。⑮厚生労働省保健師助産師看護師試験委員。⑯厚生労働省医道審議会専門委員。保健師助産師看護師分科会員。⑰厚生労働省保健師助産師看護師国家試験制度改善検討部会委員。⑱独立行政法人日本学術振興会科学研究費委員会専門委員（11月末まで）。⑲日本公衆衛生雑誌査読委員。7月より評議員。⑳日本地域看護学会査読委員（10月末まで）。㉑日本ルーラルナース学会査読委員。

7) 鈴木：①下野市介護認定審査会委員。②栃木

県看護協会監事（6月末まで）。③日本ルーラル
ナーシング学会査読委員。

8）塚本：日本看護教育学学会査読委員。

精神看護学

教授 半澤 節子

1. スタッフの紹介

教授 半澤 節子

教授 永井 優子

講師 野崎 章子（8月31日まで）

助教 板橋 直人

助教 小池 純子（2011年4月1日着任）

略歴

取得資格：看護師，法学士，修士（学術），博士（学術）

学歴：東京女子医科大学看護短期大学卒業，
慶応義塾大学法学部卒業，筑波大学大学院人間
総合科学研究科博士前期課程及び博士後期課程
修了。

職歴：東京女子医科大学病院看護師（精神神経
科），東京都立松沢病院看護師（精神科）を
経て着任。

2. 教育の概要

精神看護学の教育目標は，あらゆる健康水準の
個人及び集団を対象に，対象者の人権を尊重する
とともに，その人の希望を踏まえた精神看護実践
の基礎的知識と技術の修得することとしている。

1）精神看護学に関する教育概要

- (1) 実践基礎看護学概論Ⅱ（2年次前学期1単位：必修）永井が15時間講義を担当した。
- (2) 援助関係論（1年次前学期2単位：必修）半澤が30時間講義を担当した。
- (3) 精神看護方法（3年次後学期2単位：必修）永井が14時間，半澤が14時間講義を担当した。
- (4) 地域精神看護方法（3年次後学期2単位：必修）永井が6時間，半澤が4時間講義を担当し，永井，半澤，板橋，小池が16時間の演習を担当した。演習は非常勤講師及び授業協力者が参加する内容8時間と，事例演習による内容8時間の計16時間を精神看護学の全教員で指導した。
- (5) 精神保健看護実習（3年次後学期2単位：必修）永井が実習全体の統括を行い，永井，半澤，板橋，小池が4クールの実習指導を担当した。

2）精神看護学以外の担当教育概要

- (1) 看護基礎セミナー（1年次前学期1単位：必

修）精神看護学の教員のうち，永井，半澤，板橋，小池が本セミナーのグループ学習を中心に指導を担当した。

- (2) 文献講読セミナー（2年次前学期1単位：必修）精神看護学の教員のうち，野崎が本セミナーのグループ学習を中心に指導を担当した。
- (3) 研究セミナー（3年次後学期1単位：必修）永井は学科目の統括を担当し，半澤，板橋，小池が本セミナーのグループ学習及び個別学習の指導を担当した。
- (4) 総合実習（4年次前学期2単位：必修）半澤は科目責任者として全体統括を行った。永井は学科目の統括を担当し，半澤，板橋，小池が本セミナーのグループ学習及び個別学習の指導を担当した。
- (5) 看護トピックス（4年次後学期1単位：必修）永井は学科目の統括及びグループ学習及び個別学習の指導を担当した。

3. 研究の概要

1）看護系教員共同研究費による研究テーマ

精神看護学では，継続的に学科目の教員全員が協力して学内の看護系教員共同研究費による研究テーマに取り組んできた。平成19年度から開始した「精神科における長期入院患者の退院を促進する看護に関する研究」は，関東甲信越地域の精神科医療機関の看護職者を対象に質問紙調査を継続しており，学内外の研究会，学会，学術雑誌への論文掲載など，一定の成果を得てきた。

2）自治医科大学シンポジウムでの発表

平成23年度は上記の研究課題について，助教の板橋を中心に，栃木県内の精神科医療施設の看護職者を対象に行った介入研究の成果をまとめ，自治医科大学シンポジウムでの発表を行った。なお，この発表は，自治医科大学シンポジウム・ベストポスター賞（JMU Best Poster Award）を受賞した。

3）北関東精神保健看護研究会の企画運営

本研究会は，永井を会長として発足して6年目を迎える。永井は本研究会の企画運営実施の統括責任を担い，理事，幹事を中心として，年2回の研究会の企画運営を担ってきた。本研究会は，会員の関心が高い精神看護に関連する実践的な話題を取り上げ，会員とともに情報を共有してきた。会員構成は，栃木県のみならず北関東の精神科看

護職者の情報交換及び現場の問題解決の知恵を共有する貴重な機会となっている。

4) 各教員の研究テーマに基づく研究活動

学科目の教員全員で行う研究テーマとは別に、各々が自らの研究関心に基づき外部研究資金を獲得しながら研究を継続し、国内外の学会での発表、学術雑誌の論文掲載などを行った。文部科学省科学研究費補助金の基盤研究や民間の研究費補助金などを獲得し、学外の研究者と連携した研究活動を継続した。

- (1) 本年度着任した助教の小池は、これまで取り組んできた重症精神障害者、とりわけ触法精神障害者の支援に関する研究成果を、自治医科大学シンポジウムのほか司法精神医学関連の学会などで発表している。
- (2) 8月末で退職した野崎は、平成23年度はおおよそ半年間であったが、それまで継続して取り組んできた県央地区の工業団地に居住する日系ブラジルアンファミリーのメンタルヘルス、とりわけ児童思春期にある子どものメンタルヘルスと異文化適応について丁寧な現地調査を継続し、学内の大塚准教授のアドバイスのもとで、文化看護学の立場からまとめ、その研究成果の一部を、移民国家である豪州で開催された国際学会において口頭発表した。
- (3) 半澤は、これまで継続してきた統合失調症者の家族の介護経験に関する日韓比較共同研究を継続し、東アジアの儒教的な規範意識が家族の介護経験にもたらす影響について、日韓両国で比較するとともに、両国の精神保健施策の動向を把握しつつ、家族を対象とした支援ニーズと政策的な課題について言及した。

4. その他

- (1) 永井は、栃木県看護協会等が主催する各種研修会の講師として、看護職の継続教育に協力した。
- (2) 永井は、日本精神保健看護学会理事（学術連携委員会）・査読委員、日本生活指導学会監事、日本ルーラルナーシング学会（渉外担当）、日本看護科学学会（社会貢献委員会）、千葉看護学会、文化看護学会の評議員、日本精神保健看護学会、日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本看護学教育学会、日本家族看護学会の査読委員を務めている。

- (3) 半澤は、日本精神障害者リハビリテーション学会の常任理事（学会誌編集担当）、同学会誌編集委員、査読委員、日本社会精神医学会理事、同学会編集委員、査読委員、日本精神保健・予防学会の評議員、日本精神保健看護学会の査読委員を務めている。
- (4) 野崎は、千葉看護学会、日本精神科看護技術協会千葉県支部など学術団体や職能団体のほか、関東近県の複数の医療施設でも現任教育や看護研究指導を行った。
- (5) 板橋は、実習施設の職員との協力関係を基盤にしながら、臨地の実践的な問題解決のアドバイザーとして看護研究などの相談にも応じている。
- (6) 小池は、実習施設の職員との協力関係を基盤にしながら、臨地の実践的な問題解決のアドバイザーとして看護研究などの相談にも応じている。

母性看護学

教授 成田 伸

1. スタッフの紹介

教授 成田 伸

教授 野々山未希子（2011年4月1日着任）

取得資格：看護師，助産師，保健師

学歴：千葉大学看護学部卒業，千葉大学大学院看護学研究科修士課程修了，筑波大学大学院人間総合科学研究科博士課程修了，看護学士，修士（看護学），博士（ヒューマン・ケア科学）。

職歴：東京都立府中病院および大塚病院にて助産師として勤務，北海道医療大学看護福祉学部看護学科助手として勤務，国立国際医療センターエイズ治療・研究開発センター臨床研究開発部患者支援調整官として勤務，筑波大学大学院人間総合科学研究科講師として勤務，東邦大学医学部看護学科（途中から看護学部へ変更）准教授として勤務。

准教授 齋藤 良子

講師 小川 朋子（2012年3月31日退任）

講師 角川 志穂

助教 西岡 啓子（2012年3月31日退任）

2. 教育の概要

1) 母性看護学に関する教育概要

(1)生涯発達看護学概論Ⅰ（妊産褥婦）（1年次後学期1単位：必修）

成田が担当した。母性看護学の基本概念，母親になっていくプロセス，生殖医療と倫理・法的な問題などを講義した。

(2)生涯発達看護学概論Ⅱ（胎児・新生児期）（2年前学期1単位：必修）

小児看護学中島教授が科目責任であったが，成田が分担し，「妊娠期における胎児－胎盤系の関係性とその役割」について講義を行った。

(3)生涯発達看護学概論Ⅵ（4年次前学期1単位：必修）

野々山が担当した。リプロダクティブヘルス・ライツの概念，思春期・性成熟期・更年期各期の健康問題と看護，避妊・性感染症予防，不妊の看護などを講義した。

(4)周産期実践看護学Ⅰ（妊産褥婦）（3年次前学期1単位：必修）

齋藤が科目責任として総括し，母性看護学教員で実施した。周産期看護実習につながる妊産褥婦及び新生児のアセスメントについては，臨床助教等も加わり，丁寧な指導を行った。

(5)周産期実践看護学Ⅱ（胎児・新生児期）（2年次前学期1単位：必修）

小児看護学中島教授が科目責任であったが，小川が分担し，新生児の養育に必要な母乳育児支援について講義を行った。

(6)周産期看護実習（3年次前学期2単位：必修）

成田が科目責任者となり，母性看護学教員が分担して担当した。自治医科大学附属病院，さいたま医療センターそれぞれの産科病棟・産科外来等で実習すると共に，栃木県助産師会が下野市で実施している地域育児支援の活動に参加し，効果的な実習を展開できた。

2) 助産学に関する教育概要

(1)助産学概論（3年次後学期1単位：選択）

受講希望の学生は受講可能である。野々山が科目責任者として全体を総括した。

(2)基礎助産学Ⅰ（3年次後学期1単位：選択）

受講希望の学生は受講可能である。齋藤が科目責任者として総括した。助産の基礎となる形態機能，妊娠・分娩の生理について教授した。

(3)基礎助産学Ⅱ（4年次前学期1単位：選択）

新カリキュラム科目であり，受講希望の学生は受講可能である。野々山が科目責任者として総括し，成田，齋藤，小川が分担した。

(4)基礎助産学Ⅲ（4年次前学期1単位：選択）

新カリキュラム科目であり，受講希望の学生は受講可能である。小川が科目責任者として総括し，成田，野々山，齋藤が分担した。

(5)実践助産学Ⅰ（4年次前学期1単位：選択）

新カリキュラム科目であり，受講希望の学生は受講可能である。野々山が科目責任者として総括し，成田，齋藤，小川が分担した。

(6)実践助産学Ⅱ（4年次前学期1単位：選択）

新カリキュラム科目であり，受講希望の学生は受講可能である。小川が科目責任者として総括し，成田，野々山，齋藤が分担した。

(7)実践地域助産学（4年次前学期1単位：選択）

新カリキュラム科目であり，受講希望の学生は受講可能である。野々山が科目責任者として総括した。

(8)助産管理学（4年次前学期1単位：選択）

新カリキュラム科目であり、受講希望の学生は受講可能である。成田が科目責任者として総括した。

(9)妊娠期助産学実習（4年次前学期1単位：選択）

新カリキュラム科目であり、助産学実習受講の助産学生9名が受講した。野々山が科目責任者として総括し、主に自治医科大学附属病院で7名、日光市民病院で2名が実習し、妊娠期の対象者を受け持ち、ケアを展開した。

(10)分娩・育児期助産学実習（4年次後学期④単位：選択）

新カリキュラム科目であり、助産学実習受講の助産学生8名が受講した。成田が科目責任者として総括し、自治医科大学附属病院で6名、済生会宇都宮病院で2名が実習し、必要な分娩介助件数を達成した。また助産師の行う新生児訪問や助産所で見学実習を行った。

3）母性看護学・助産学以外の担当教育概要

(1)基礎看護セミナー（1年次前学期1単位：必修）

野々山、齋藤が分担者としてそれぞれのグループを担当し、レポート作成を指導した。

(2)文献講読セミナー（2年次前学期1単位：必修）

小川が分担者としてグループを担当し、文献講読およびレポート作成を指導した。

(3)研究セミナー（3年次後学期1単位：必修）

成田、野々山、齋藤、小川が分担者として担当し、母性看護学領域に配分された学生を小グループとして受け持ち、テーマに関連した文献の収集、プレゼンテーション、レポート作成を指導した。

(4)総合実習（4年次前学期2単位：必修）・看護総合セミナー（4年次後学期4単位：必修）

新カリキュラム科目で、野々山、成田、齋藤、小川で母性看護学領域に配置された学生12名を担当し、総合実習でテーマとした内容についてレポートを作成した。

(5)看護トピックス（4年次後学期1単位：必修）

新カリキュラム科目で、成田、齋藤、小川、西岡で母性看護学領域に配置された学生14名を担当した。ALSO（周産期上級生命救助プログラム；Advanced Life Support in Obstetrics）デモンストラーションコース、日本版新生児蘇生法Bコースの公認コースなどを開催し、最新知識を教授した。

(6)ジェンダー論（1，4年次後学期2単位：選択）

成田が科目責任者として担当し、小川が分担し

た。

3. 研究の概要

1）成田は、「避妊・性感染症予防カウンセラーの育成とカウンセリング介入の評価研究」のテーマで文部科学省科学研究補助金（基盤研究(B)）について、野々山、小川、段ノ上を研究分担者とし、鈴木幸子（埼玉県立大学）、工藤里香（兵庫医療大学）を含む学外者を連携研究者として研究を実施した。

2）成田は、新道氏（日本赤十字広島看護大学）を研究代表者とする「看護系大学学士課程助産学生に有用な産婦ケア（分娩介助を含む）の教育方法の開発」（文部科学省科学研究補助金（基盤研究(A)））に連携研究者として参加し、研究を行った。

3）成田は、大月恵理子氏（埼玉県立大学）を研究代表者とする「周産期医療ケアシステム・看護の質改善を推進するための研究」（文部科学省科学研究補助金（基盤研究(C)））に連携研究者として参加し、海外の周産期ハイリスクケアについて研究を行った。

4. その他

1）成田は、聖マリア大学大学院看護学研究科「ウィメンズヘルス看護学特論」において、非常勤講師として「日本におけるリプロダクティブヘルス／ライツ、性差医療、ウィメンズ・ヘルスの現状と課題」「薬物療法を含む女性総合医療の動向と看護の課題」について教授した。

2）成田は学術集会長として、第13回日本母性看護学会を自治医科大学看護学部を会場に開催した。メインテーマは「周産期のハイリスクケアの構築」で、「周産期ハイリスクケアの構築を目指して」のテーマの集会長講演を行うと共に、シンポジウム「ハイリスク妊産婦への専門的な支援」を企画した。200名を超える参加者を得て、大変好評を得た。

3）成田は、一般社団法人栃木県助産師会の会長として、会の活動を総括した。

4）成田は、栃木県看護協会が主催した助産師就業支援研修のカリキュラムを作成すると共に、講師を務めた。

5）齋藤は、神戸大学医学部保健学科「セクシャリティ・ジェンダー看護論」において、非常勤講師として「ライフサイクルとジェンダー・セク

シャリティ，性成熟期のジェンダー・セクシャリティ，セクシャリティにおける看護者としての援助的役割」について教授した。

6) 野々山は，上尾看護専門学校「成人看護援助論Ⅱ」において，非常勤講師として「生体防御－性感染症とその予防－」「HIV感染症／AIDS」について教授した。

小児看護学

教授 中島登美子

1. スタッフの紹介

教授 中島登美子

准教授 大脇 淳子

准教授 横山 由美（2011年4月1日就任）

略歴

取得資格：看護師，保健師，養護教諭2種，修士（教育学），博士（保健学）

学歴：聖路加看護大学卒業，広島大学大学院学校教育学研究科修士課程修了，東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻修了

職歴：聖路加国際病院看護師，広島大学医学部保健学科看護学専攻助手，聖路加看護大学助手・講師，自治医科大学看護学部講師を経て着任

講師 樋貝 繁香（2011年8月31日退職）

2. 教育の概要

小児看護学では，子ども（出生から成人に達するまでの人）を総合的に理解し基礎的小児看護実践能力を育成することを目標に，下記の科目を担当した。

1）小児看護学に関する教育概要

（1）生涯発達看護学概論Ⅲ（小児期）（1年次後学期2単位：必修）子ども（出生から成人に達するまでの人）を総合的に理解し，小児看護の役割を学習する。中島が20時間，大脇が4時間，横山が4時間の講義を担当した。

（2）小児実践看護学Ⅰ（2年次前学期1単位：必修）子どもの最良の健康状態を保持・増進するための援助および日常的な健康問題に対しての援助を学習する。中島が8時間，大脇が4時間，臨床教授の朝野が2時間の講義を担当した。

（3）小児実践看護学Ⅱ（2年次後学期1単位：必修）子どもに対する特徴的な生活の援助方法を学習する。また，日常的な健康問題や日常起こりうる生命の危機状態にある子どもや家族への援助を学習する。中島が2時間，大脇が6時間，横山が12時間，演習4時間は大脇・横山が中心に小児看護学全教員と臨床助教で指導を行った。

（4）小児実践看護学Ⅲ（3年次前学期1単位：必修）健康課題をもち，さまざまな状況にある子どもの看護を学習する。大脇が4時間，横山が4時間，

樋貝が8時間，演習12時間は樋貝を中心に小児看護学全教員で指導を行った。

（5）小児期看護実習（3年次前学期2単位：必修）健康課題をもつ子どもと親・家族の生活を理解し，看護の展開を学ぶ。横山は科目責任者として全体を総括し，大脇と樋貝が5クール，横山が1クール，臨時教員が4クールの実習を担当した。

2）小児看護学以外の担当教育概要

（1）生涯発達看護学概論Ⅱ（胎児・新生児）（2年次前学期1単位：必修）胎児・新生児の特徴を総合的に理解し，周産期における看護の役割を学ぶ。中島が10時間，成田が4時間の講義を担当した。

（2）周産期実践看護学Ⅱ（胎児・新生児）（2年次前学期1単位：必修）胎児・新生児およびその家族への生活の援助の特徴および，日常的な健康問題への援助を学習する。中島が6時間，横山が4時間，小川が2時間，非常勤講師の藤川が2時間，臨床助教が2時間の講義・演習を担当した。

（3）がん看護学（4年次前学期1単位：選択）

中島と臨床助教が2時間の講義を担当した。

（4）在宅看護実習（3年次後学期3単位：必修）

小児看護学全教員が学校における実習2日間の指導を行った。

（5）看護基礎セミナー（1年次前学期1単位：必修）

中島は関山助教（地域看護学），大脇は里光准教授（基礎看護学）と共にセミナーを行った。

（6）文献講読セミナー（2年次前学期1単位：必修）

樋貝はグループ学習を中心に指導を行った。

（7）研究セミナー（3年次後学期1単位：必修）

中島は全体の総括を行い，大脇と横山が10名の学生の指導を12時間担当した。

（8）看護総合セミナー（4年次通年4単位：必修）

中島が全体を総括し，小児看護学全教員が学生11名を指導した。

（9）総合実習（4年次前学期2単位：必修）

中島が全体を総括し，小児看護学全教員が学生11名を指導した。

（10）看護トピックス（3年次後学期1単位：必修）

横山を中心に企画運営し，学生を指導した。

3. 研究の概要

1）中島は，文部科学省科学研究補助金（基盤C）（研究代表者：中島登美子）による研究課題

「低出生体重児の家族支援プログラムの開発と評価」において、NICUの環境調査と家庭への移行期のケアの継続について調査を推進した。

2) 樋貝は、文部科学省科学研究補助金（若手研究(B)）（研究代表者：樋貝繁香）による研究課題「早産児の父親支援プログラム開発にむけた基礎的研究」の面接調査を実施した。

4. その他

1) 中島は、「日本小児看護学会誌」編集委員会の査読委員を務めている。

2) 中島は、Japan Journal of Nursing ScienceのEditorial BoardのRefereeを務めている。

3) 大脇、横山、樋貝は、自治医科大学附属病院NICUで、退院後の育児相談や親同士の交流を目的に月1回行っている「すくすくクラブ」という親子教室の会誌（すくすくだより）の原稿執筆を行った。

4) 横山は、2011年8月30日～9月8日に実習指導者講習会（栃木県看護協会主催）で講師を務めた。

5) 樋貝は、富士・東部小児初期救急センターの看護師を対象に、研究課題「小児初期救急センターにおける看護師の電話相談の現状と課題」について、研究指導を行った。

成人看護学

教授 中村 美鈴

1. スタッフの紹介

教授 中村 美鈴

准教授 小原 泉（2011年4月1日、がん看護より異動）

准教授 村上 礼子（2011年4月1日着任）

略歴

取得資格：看護師，教養学士，修士（教育学），博士（保健学）

学歴：自治医科大学看護短期大学卒業，放送大学教養学部卒業，明星大学大学院人文学研究科教育学専攻修了，群馬大学大学院保健学研究科修了。

職歴：自治医科大学附属病院看護師，自治医科大学看護短期大学助手，自治医科大学看護学部助手，獨協医科大学看護学部講師を経て着任。

講師 松浦利江子

助教 北村 露輝

助教 段ノ上秀雄

助教 荒木 智絵（2011年4月1日着任）

略歴

取得資格：看護師，保健師，看護学士

学歴：自治医科大学看護学部卒業

職歴：自治医科大学附属さいたま医療センター看護師を経て着任。

2. 教育の概要

成人看護学の教育目標は，健康危機あるいは長期的な療養を要するさまざまな健康課題をもつ成人とその家族に必要な看護を創造するための基礎的能力を培うことである。

1）成人看護学に関する教育概要

（1）生涯発達看護学概論Ⅳ（成人期）（1年次前学期2単位：必修）

中村が8時間，小原が8時間，村上が8時間，松浦が4時間の講義を担当した。

（2）成人実践看護学Ⅰ（2年次前学期2単位：必修）

中村が10時間，小原が6時間，松浦が6時間，段ノ上が6時間担当した。

（3）成人実践看護学Ⅱ（2年次後学期1単位：必修）

中村が18時間，村上が6時間，松浦が2時間，段

ノ上が2時間，北村が4時間，荒木が2時間講義・演習を担当した。看護過程の演習10時間，手術療法を受ける成人および生命の危機状況にある成人の看護の演習8時間，呼吸障害・循環障害をもつ成人の看護の演習4時間においては，成人看護学教員全員で指導を行った。

（4）成人実践看護学Ⅲ（2年次後学期1単位：必修）

内分環境調節機能障害をもつ成人の看護の講義6時間は小原が，演習2時間は松浦を中心に成人看護学全教員で指導した。脳・神経機能障害をもつ成人の看護の講義6時間は，北村が担当した。

（5）成人実践看護学Ⅳ（3年次前学期1単位：必修）

村上が8時間，小原が6時間講義を担当した。感覚機能障害をもつ成人の演習について村上を中心に成人看護学教員全員で2時間，運動機能障害をもつ成人の演習について小原を中心に成人看護学教員全員で2時間，看護過程演習は中村を中心に成人看護学教員全員で10時間担当した。

（6）成人期看護臨床実習（3年次前学期2単位：必修）

中村は実習全体の統括を行い，小原および村上とは各2クール，松浦，段ノ上，北村および荒木は各3クール実習指導を行った。

（7）成人期看護フィールド実習（3年次前学期2単位：必修）

中村は科目責任者として全体を統括し，小原と村上が各1クール，松浦，北村，段ノ上，荒木が各2クールの実習を担当した。

2）成人看護学以外の担当教育概要

（1）看護基礎セミナー（1年次前学期1単位：必修）

小原は竹田津文俊教授（看護基礎科学），段ノ上は野々山教授（母性看護学），北村は半澤教授（精神看護学）と共にセミナーを行った。

（2）文献講読セミナー（2年次前学期1単位：必修）

中村が科目責任者として15回の授業を統括した。中村は4時間講義を担当し（内，1コマはレポート作成，松浦と荒木はグループ学習を中心に指導を行った。

（3）研究セミナー（3年次後学期1単位：必修）

中村は，全体の学習内容と進度の統括を行い，成人看護学全教員が計17名の学生を指導した。

(4)看護総合セミナー（4年次通年4単位：必修）
中村が全体を統括指導し、成人看護学全教員が計16名の学生を指導した。

(5)総合実習（4年次前学期2単位：必修）
中村が全体を統括指導し、成人看護学全教員が学生16名を指導した。

(6)看護トピックス（4年次後学期1単位：必修）
中村が全体を統括、村上を中心に企画運営、その他成人看護学教員全員が学生を指導した。

(7)チーム医療論（4年次前学期1単位：必修）
小原は科目責任者で、8時間の講義を担当した。

(8)がん看護学（4年次前学期1単位：選択）
小原は科目責任者で、10時間の講義を担当した。

(9)看護管理学
小原は2時間の講義を担当した。

3. 研究の概要

- 1) 中村は、文部科学省科学術研究費補助金研究費研究成果促進費による研究課題「Evaluation of Dysfunction After Upper Gastrointestinal Surgery : Development of the DAUGS Scoring System」(研究代表者：中村美鈴)をもとに研究成果を推進した。
- 2) 中村は文部科学省科学研究費補助金基盤研究(B)(研究代表者：中村美鈴)による研究課題「術後機能障害評価尺度(DAUGS20)の欧米版の開発と有用性の検証」において、上部消化管がん患者の術後機能障害評価尺度(短縮版)の欧米版の開発に向けて、小原泉、段ノ上秀雄、Alan Lefor、Vanderbilt Cancer センターの共同研究者と共に-フィールドの調整を行う予定である。今後、実際に渡英し、具体的な研究推進が課題である。
- 3) 中村は文部科学省学術研究助成助成金(挑戦的萌芽研究)における研究課題「日本における胃がん患者の術後機能障害の基準値確立への挑戦」(研究代表者：中村美鈴)において、村上礼子、松浦利江子、北村露輝、段ノ上秀雄、荒木智絵の共同研究者と共に、質問紙調査の実施を行っている。
- 4) 村上は看護学部看護系教員共同研究費(平成23年度学内研究助成)では「自治医科大学附属病院における看護専門外来開設に向けての体制作り」をテーマとしてインタビュー調査を実施した。

5) 村上は第10回自治医科大学シンポジウムでは「看護過程演習における学生の困難感の対応と今後の課題」をテーマにポスターセッション発表を行った。

6) 松浦は、第10回自治医科大学シンポジウムで「呼吸機能障害をもつ成人の看護演習の評価と課題」をテーマにポスターセッション発表を行った。

4. その他

- 1) 中村は、2011年6月に白鷗大学「救急医療と看護の役割」1コマ(2時間)講義を担当した。
- 2) 中村は、2011年8月に実践に活用できる看護過程」(栃木県看護協会主催)というテーマで臨床看護師80名を対象に12時間講義・演習を担当した。
- 3) 中村は、2011年8月に臨床指導者講習会(栃木県看護協会主催)で、「実習指導の原理」で講義(3時間)、「実習指導の評価」講義・演習(6時間)を担当した。
- 4) 中村は、2011年11月に認定看護管理者セカンドレベル教育研修会(栃木県看護協会主催)において、「人的資源活用論：継続教育」の講義・演習を芳賀日赤病院の久保・塩野谷とともに12時間担当した。
- 5) 中村は、2011年11月に大阪大学大学院医学系研究科において、がん看護学援助論「手術療法を受けた患者・家族への専門的支援」の講義を3時間担当した。
- 6) 中村は、2011年10月に認定看護管理者セカンドレベル教育研修会(栃木県看護協会主催)において「看護管理研究における論文作成支援」というテーマで講義(2時間)を担当した。
- 7) 中村は、2011年12月に認定看護管理者セカンドレベル教育研修会(栃木県看護協会主催)において「根拠に基づいた看護実践」というテーマで講義(3時間)を担当した。
- 8) 中村は、2012年2月、3月に「ためしてわかる！ やってみよう！ドレーン&チューブ管理の実践力を身につける！」(学研メディカル秀潤社)において講師を担当した。
- 9) 中村は、2011年度日本看護協会成人看護Ⅰ(急性期)学会委員と論文編集員長を担当した。

- 10) 中村は、2006年6月より日本ルーラルナースィング学会の評議員を務めている。
- 11) 中村は、2009年度から日本看護教育学学会学会誌の専任査読委員を務めている。
- 12) 中村は、2008年度より日本クリティカケア学会学会誌編集委員会の編集委員を務めている。
- 13) 中村は、2006年9月より日本救急看護学会の評議員を務め、評議委員選出委員会、会則委員会の委員、専任査読委員を務めている。
- 14) 中村は、2006年4月より日本保健医療社会学会の評議員、機関紙編集委員を務めている。
- 15) 中村は、2011年9月より日本ルーラルナースィング学会事務局事務局長を務めている。また、小原、村上、松浦、北村、段ノ上、荒木は、2011年9月より日本ルーラルナースィング学会事務局の中で、事務局長補佐、庶務、広報担当の役割を遂行した。
- 16) 小原は2011年6月に東京医科歯科大学保健衛生学科成人看護学Ⅲにおいて「治験コーディネーターの役割」について講義した（2時間）
- 17) 小原は2011年7月に聖路加看護大学がん化学療法看護認定看護師教育課程で「臨床試験と治験コーディネーター」について講義した（4時間）。
- 18) 小原は2011年8月に石川県立看護大学大学院（継続・緩和ケア展開論）で「生命に関わる健康問題に関する患者や家族の意思決定と看護援助」について講義した（6時間）
- 19) 小原は2011年9月に筑波大学大学院（がん看護学特論Ⅰ）において「意思決定と看護援助」について講義した（4時間）
- 20) 小原は2011年9月に千葉大学看護学部乳がん看護認定看護師教育課程において「治験・臨床試験として治療を受ける患者への看護」について講義した（4時間）
- 21) 小原は2011年10月に日本看護協会神戸研修センターがん化学療法認定看護師教育課程において「臨床試験と治験コーディネーター」について講義した（4時間）。
- 22) 小原は2011年8月に栃木県看護協会実習指導者講習会において「実習指導の評価」について講義した（6時間）。
- 23) 小原は2004年より日本がん看護学会誌査読委員を務めている
- 24) 小原は、2010年4月より日本がん看護学会国際委員会委員を務めている。
- 25) 小原は、2011年10月より厚生労働省臨床研究・治験活性化に関する検討会の構成員を務めている。
- 26) 村上は、茨城県結城看護専門学校にて「看護の基本となる技術Ⅰ」（12時間）の非常勤講師を行った。
- 27) 松浦は、2012年2月29日、3月7日、国立栃木病院看護部の看護倫理院内研修会の講師を行った
- 28) 北村と荒木は、2012年2月、3月に「ためしてわかる！ やってみよう！ドレーン&チューブ管理の実践力を身につける！」（学研メディカル秀潤社）において講師を担当した。

老年看護学

教授 水戸美津子

1. スタッフの紹介

教授 水戸美津子（2012年3月31日退職）

教授 宮林 幸江（2011年4月1日着任）

略歴

取得資格：看護師，心理学士，修士（看護学），博士（看護学）

学歴：福島大学大学院中退，東京医科歯科大学大学院医学系研究科博士前期課程修了，同大学院同研究科博士課程修了。

職歴：福島赤十字病院，アルジェリア・ネドロマ勤務。福島県立医科大学講師，茨城県立医療大学准教授，公立宮城大学教授を経て着任。

准教授 高木 初子（2012年3月31日退職）

准教授 浜端 賢次（2011年4月1日着任）

略歴

取得資格：看護師，修士（社会学）

学歴：専修大学大学院修了

職歴：社会保険病院勤務。東海大学助手，川崎医療福祉大学講師，青森中央短期大学設置準備室准教授，同短期大学教授を経て着任。

講師 川上 勝

講師 長井 栄子（2012年3月31日退職）

2. 教育の概要

老年看護学の教育目標は，様々な生活の場・療養の場で，あらゆる健康レベルの高齢者とそれを取り巻く環境を対象として，看護を実践するために必要な専門的能力を養うことである。

1) 老年看護学に関する教育概要

(1) 老年実践看護学Ⅰ（2年次前学期1単位：必修）

高齢者の健康特性，ヘルスプロモーションや高齢者の保健・医療・福祉の連携など，高齢者の健康増進と健康の維持向上をめざしたアプローチについて講義した。

（担当：宮林，高木）。

(2) 老年実践看護学Ⅲ（3年次前学期1単位：必修）

老年看護学の理論・知識を踏まえた老年看護技術の習得を目的とし，既習の紙上事例について嚥下・排尿・皮膚・移動障害の観点から対象に合わせた看護技術を検討する講義・演習を展

開した。また，認知症高齢者や終末期にある高齢者への援助技術について講義した。（担当：全教員）

(3) 老年期看護実習（3年次前学期2単位：必修）

附属病院および介護老人保健施設・認知症グループホームにおいて，疾病や障害をもつ高齢者への看護実践に向け実習を行った。

（担当：全教員）。

(4) 生涯発達看護学概論Ⅴ（老年期）（1年次後学期2単位：必修）

老年看護学の概念・対象と老年看護学の役割を学ぶことを目的とした。臨床の場における看護の実践が理解できるよう，関道子臨床講師，鮎澤みどり非常勤講師，船田淳子非常勤講師による講義を組み込んだ。

（担当：宮林，高木，浜端，川上）

(5) 老年実践看護学Ⅱ（2年次後学期2単位：必修）

加齢により生じる様々な健康段階の理解や高齢者のエンパワメントを生み出す看護援助方法について学ぶことを目的とした。高齢者の紙上事例を用いた看護過程や倫理的課題の演習等を取り入れた。また，臨床の場の看護の実践が理解できるよう，井上佐代子臨床講師，太田信子臨床講師，西田俊子臨床助教，野沢博子臨床講師による講義を組み込んだ。

（担当：高木，浜端，川上，長井）。

2) 老年看護学以外の担当教育概要

(1) 看護基礎セミナー（1年次前学期1単位：必修）

ヒューマンケアの基本理解を目的に，人間の生活や人生の体験記等を選定・熟読し，プレゼンテーション，グループディスカッション，レポート作成を行った。宮林は和久紀子助教と7名の学生，高木は佐藤信枝准教授と7名の学生を担当した。

(2) 文献講読セミナー（2年次前期1単位：必修）

演習（興味・関心に基づき調べたテーマの発表・討議）において，川上は10名の学生を，長井は10名の学生を担当した。

(3) 看護総合セミナー（4年次後学期4単位：必修）

12名の学生を対象に，看護実践課題に沿った先行研究の文献検討，総合実習に向けた計画書の作成および実践に基づくレポート作成に向けた指導を行った。宮林は2名，高木は2名，浜端は2名，川上は3名，長井は3名を担当し，水戸は統括指導をした。

(4)総合実習（4年次前学期2単位：必修）

12名の学生のテーマに合わせて実習場および対象者を選択し、実践内容が目的に沿うよう随時指導した。（担当：全教員）

(5)看護トピックス（4年次後学期1単位：必修）

13名の学生を対象に、看護活動の場（病院・施設・在宅）における高齢者に起こりやすいリスクとその対応、予防策について理解が進み、将来展望がもてるよう指導した。（担当：全教員）

(6)研究セミナー（3年次後学期1単位：必修）

研究方法の理解に基づき自己の看護実践課題を整理することを目的に、13名の学生を対象に、テーマに沿った先行研究の文献検討、研究計画書の作成への指導を行った（担当：全教員）。

(7)在宅看護実習（3年次後学期3単位：必修）

訪問看護ステーション・通所リハビリテーション実習、学校分野実習、産業分野実習を実施し、高木は科目責任者を務めた。宮林は「J Aマロニエ訪問看護ステーション石橋」で17名の学生、浜端は「わくわく訪問看護ステーションおやま」で16名の学生、川上は「とちぎ訪問看護ステーションみぶ」で18名の学生、長井は「訪問看護ステーションたんぼぼ」で20名の学生を担当した。

3. 研究の概要

- 1) 高木は、文部科学省科学研究費補助金（基盤研究(C)）における研究課題「介護老人保険施設入所高齢者の「発話」と摂食・嚥下機能の関連に関する実証的研究（主任研究員：井上映子）」の成果の一部を第21回世界心身医学学会で発表した。
- 2) 浜端は、看護系教員共同研究費（平成23年度学内研究助成）において、研究代表者として「高齢者ケアを実践する看護職のキャリア形成プログラム開発に関する研究」をテーマにインタビュー調査等を実施した。
- 3) 川上は、文部科学省科学研究費助成金（若手研究(B)）における研究課題「転倒・転落事故予防策実施時の介護看護職員の行動解析-安全システム構築を目指して-」に取り組んだ。
- 4) 川上は、看護系教員共同研究費（平成23年度学内研究助成）では、研究課題「看護学生を

対象とした発展的救命処置トレーニングプログラムの開発」において研究代表者としてその成果を日本医療システム学会で発表した。

- 5) 長井は、文部科学省科学研究費補助金（若手研究(B)）における研究課題「ユニットケア実施施設における認知症高齢者への安全なケア提供に関する研究」の成果の一部を自治医科大学看護学ジャーナルで発表した。
- 6) 長井は、文部科学省科学研究費補助金（基盤研究(C)）における研究課題「介護老人保険施設入所高齢者の「発話」と摂食・嚥下機能の関連に関する実証的研究（主任研究員：井上映子）」の成果の一部を第21回世界心身医学学会で発表した。

4. その他

- 1) 水戸は、2011年7月に訪問看護ステーションセミナー（セコム医療システム(株)）において講師を担当した。
- 2) 水戸は、2011年8月に10年目研修（埼玉県教育委員会）において講師を担当した。
- 3) 水戸は、2011年11月に第16回栃木県看護学術集会（栃木県看護協会主催）の集会長を務めた。
- 4) 水戸は、2011年12月に栃木県教育担当者研修会において講師を担当した。
- 5) 水戸は、栃木県看護協会理事を務めた。
- 6) 水戸は、茨城県看護教育財団理事を務めた。
- 7) 水戸は、第二次茨城県結城看護専門学校あり方検討会において座長を担当した。
- 8) 宮林は、2011年6月 第10回国際家族看護学会にて「脳梗塞患者のナラティブ-発症から反麻痺側での絵手紙講師まで-」「認知症：愛着形成による誤認」を発表した。
- 9) 宮林は、2012年2月 日本がん看護学会にて二重悲嘆（震災と死別）とグリーフケアを発表した。
- 10) 宮林は、2011年5月宮城県仙台市内にて、被災地のグリーフケアについて講師を担当した。
- 11) 宮林は、2011年6月宮城県仙台市内と牡鹿郡女川町にて、被災地のグリーフケアの講師を担当した。
- 12) 宮林は、2011年7月日本グリーフケア協会セミナー 上級クラスにてグリーフケア実践の講師を担当した（協会会長を務めた）。

- 13) 宮林は、2011年7月岩手県看護協会にて訪問看護師・保健師を対象にグリーフ一般の講師を担当した。
- 14) 宮林は、2011年8月宮城県看護協会にて訪問看護師（新卒・ベテラン）を対象にフィジカルアセスメントについて講師を担当した。
- 15) 宮林は、2011年8月宮城県看護協会にてグリーフ一般の講師を担当した。
- 16) 宮林は、2011年9月日本グリーフケア協会セミナー 初級・中級クラスにてグリーフケアの講師を担当した（協会会長を務めた）。
- 17) 宮林は、2011年9月青森県看護協会にて訪問看護師・保健師を対象に在宅医療と家族支援の講師を担当した。
- 18) 宮林は、2011年11月秋田県看護協会にてグリーフ一般の講師を担当した。
- 19) 宮林は、2012年2月宮城県名取市にて悲嘆からの回復、グリーフケアと回想法の講師を担当した。
- 20) 宮林は、2012年3月北里病院にて移植医療におけるグリーフケアの講師を担当した。
- 21) 宮林は、2012年3月長野県安曇野日赤、依田窪介護関連施設にて終末期とグリーフ一般の講師を担当した。
- 22) 宮林は、2012年3月日本グリーフケア協会セミナー 初級・中級クラスにてグリーフケアの講師を担当した（協会会長を務めた）。
- 23) 高木は、2011年8月に栃木県看護協会実習指導者講習会において「実習指導の原理」について講義した。
- 24) 高木は、2010年11月に「食習慣と生活習慣病」（小山市教育委員会主催）について講義した。
- 25) 浜端は、2011年11月に第16回栃木看護学術集会（栃木県看護協会主催）の座長を担当した。
- 26) 浜端は、2011年11月にあおもり協立病院看護部の教育研修の講師を担当した。
- 27) 川上は、2011年11月に第16回栃木看護学術集会（栃木県看護協会主催）の小セミナー「看護と研究の倫理を考える」の講師を担当した。
- 28) 長井は、2011年8月に栃木県看護協会主催の実習指導者講習会において「実習指導の実際（老年看護学）」の演習を担当した。
- 29) 長井は、2011年11月に第16回栃木看護学術集会（栃木県看護協会主催）の協力員を務めた。

大学院看護学研究科 教育の概要

母子看護学領域「小児看護学」

教授 中島登美子

1. スタッフの紹介

教 授 中島登美子

准教授 大脇 淳子

准教授 横山 由美

講 師 樋貝 繁香

2. 教育の概要

小児看護学は、さまざまな健康状況にある子どもがよりよく育つことを目的に、子どもとその家族への看護の現状と将来的な展望を踏まえ、専門的な知識や研究課題を探究するとともに、高度な看護実践能力を育み、小児看護の充実と発展に寄与する人材の育成を教育目標としている。

開設6年目を迎えた本年度は、「母子看護学特別研究」「小児看護学特別演習」を開講した。これらは、小児看護における現状を分析し課題を見いだし、高度医療および地域医療の場において小児看護専門職として高度な看護実践能力を発展させること、および小児看護における研究課題を明確にすることを目標としている。また、明らかになった課題の中から、看護学の改善・改革につながるテーマを選んで研究し、研究論文を作成し2名が修了した。

母子看護学領域「母性看護学」

教授 成田 伸

(1) 大学院教育の概要

平成23年度は母子看護学領域母性看護学科目に専門看護師教育課程を希望する2名の入学生があり、院生2名に対する教育を行った。前期に母性看護学講義Ⅰ・Ⅱ、演習Ⅰ・Ⅱを実施、後期には母性看護学講義Ⅲ・演習Ⅲを実施した。専門看護師としての活動や課題研究につながる研究テーマに沿って、見学施設や臨床研修施設等を調整した。

後期には、平成24年度に実施予定の母性看護専門看護実習の実習施設である自治医科大学附属病院において総合周産期母子医療センター事前実習を行った。またへき地における地域支援病院の実習として、従来から実施してきた日光市民病院に加えて西吾妻福祉病院において実施することにし、両病院において、教育機能を中心とした事前実習を行った。

院生の状況を配慮しつつ、院生はティーチングアシスタントとして、母性看護学・助産学の講義・演習・実習・セミナー等を補助し、教育方法について学んだ。

1) 母性看護学講義Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

ⅠおよびⅢを成田が、Ⅱを野々山が科目責任者として主に指導し、齋藤および小川が分担した。非常勤講師として、Ⅱの「女性総合医療の動向と最新の薬物療法」を社会薬学を専門とする松本佳代子氏に、Ⅲの「周産期におけるリスクマネジメントと医療施設・地域間の協力体制整備」を日本看護協会専務理事の福井トシ子氏に教授いただいた。

2) 母性看護学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

Ⅰを成田が、ⅡとⅢを野々山が科目責任者として主に指導し、齋藤と小川が分担した。専門看護師としての活動がイメージできるように、NTT東日本関東病院母性看護専門看護師の長坂桂子氏および獨協医科大学病院母性看護専門看護師の小嶋由美氏に非常勤講師をお願いし、臨地講義として展開してもらった。

3) 母性看護学課題研究に向けての活動

課題研究については、前期から院ゼミとして文献検討を開始し、9月の自治医科大学シンポジウムにおいてその成果を発表すると共に、11月の研究構想発表会において研究の方向性を発表し、倫理審査会に対して申請を行い、研究の許可を得ている。

健康危機看護学領域 「クリティカルケア看護学」

教授 中村 美鈴

1. スタッフの紹介

教授 中村 美鈴

准教授 村上 礼子（2011年4月1日着任）

2. 教育の概要

主として身体的な健康危機状態にある患者とその家族を全人的に捉え、苦悩・苦痛を緩和し、危機的状态からの健康の回復と生活への適応に向けて専門的に看護をするために、状況に応じた総合的な判断力と組織的な問題解決能力を備えた高度な看護実践者を育成する。

1) クリティカルケア看護学に関する教育概要

(1) クリティカルケア看護学講義Ⅰ（1年次前学期2単位：必修・選択）

科目責任者の中村が14時間、村上が8時間、田端邦治非常勤講師（白百合大学文学部宗教科教授）4時間、丹下博一非常勤講師（上智短期大学神学部神学科教授）4時間の講義を担当した。

(2) クリティカルケア看護学講義Ⅱ（1・2年次前学期2単位：必修・選択）

科目責任者の中村が14時間、村上が8時間、綿貫成明非常勤講師（国立看護大学校看護学部看護学科准教授）が4時間、中村恵子非常勤講師（札幌市立大学看護学部 学部長・教授）が4時間の講義を担当した。

(3) クリティカルケア看護学講義Ⅲ（1・2年次後学期2単位：必修・選択）

科目責任者の中村が10時間、村上が8時間、布宮伸非常勤講師（本学医学部麻酔科学・集中治療医学講座学内教授）が4時間、竹内護非常勤講師（本学医学部麻酔科学・集中治療医学講座教授）が2時間、多賀直行非常勤講師（とちぎ子ども医療センター准教授）が2時間、和田政彦非常勤講師（本学医学部麻酔科学・集中治療医学講座講師）が2時間、鈴川正之非常勤講師（医学部救急医学講座教授）が2時間の講義を担当した。

(4) クリティカルケア看護学演習Ⅰ（1年次前学期2単位：必修）

科目責任者の中村が40時間、村上が16時間、藤野智子非常勤講師（聖マリアンナ大学附属病院

CNS）が4時間の講義・演習を担当した。

(5) クリティカルケア看護学演習Ⅱ（1・2年次前学期2単位：必修）

科目責任者の中村が32時間、村上が16時間、藤井博文非常勤講師（附属病院臨床腫瘍部学内教授）が8時間、木下佳子非常勤講師（NTT東日本関東病院CNS）が4時間の講義・演習を担当した。

(6) クリティカルケア看護学演習Ⅲ（1・2年次後学期2単位：必修）

科目責任者の中村が36時間、村上が12時間、井上莊一郎非常勤講師（附属病院麻酔科講師）が4時間、新貝夫弥子非常勤講師（愛知県がんセンター中央病院看護科CNS）が8時間の講義・演習を担当した。

(7) クリティカルケア看護学特別演習（1・2年次後学期4単位：選択）

科目責任者の中村が28時間、村上が56時間、ゼミ形式36時間を中村と村上で担当した。

(8) クリティカルケア専門看護実習（2年次前学期6単位：必修）

科目責任者の高度医療施設を中心とした専門看護実習を中村が4単位（180時間以上）、へき地における病院として、日光市民病院と常陸大宮済生会病院を中村・村上が2単位（90時間以上）、担当した。

(9) 健康危機看護学課題研究（2年次4単位：選択必修）

研究指導教員として中村が全体の論文指導、研究指導補助教員として村上はデータの分析について、渡邊好江、上澤弘美、谷島雅子を担当した。

(10) 健康危機看護学特別研究（2年次6単位：選択必修）

研究指導教員として中村が、細萱順一の研究指導のすべてを担当した。

2) クリティカルケア看護学以外の担当教育概要

(1) 看護実践研究論（1・2年次前学期2単位：選択）

科目責任者の中村が10時間、永井が10時間、半澤が6時間、大塚が4時間の講義を担当した。

(2) フィジカルアセスメント論（1・2年次前学期2単位：選択）

科目責任者の竹田津が10時間、竹田が8時間、小林正人非常勤講師が4時間、中村が8時間担当した。

健康危機看護学領域「精神看護学」

教授 半澤 節子

1. スタッフの紹介

教 授 半澤 節子

教 授 永井 優子

講 師 野崎 章子

2. 教育の概要

平成23年度は、実践看護学分野健康危機看護学領域の精神看護学の科目を主科目群として選択し入学した大学院生（2名）に対して、半澤が担当教員として研究指導を開始し、精神看護学主科目群の授業科目として講義及び演習を永井と半澤で分担した。

精神看護学では、主として精神的な健康危機状態について、人間の生涯にわたる精神的健康の増進から重度の精神障害者の支援までを行う高度実践看護師として、役割を果たすことができ、実践状況を変革できる人材育成を目指した教育活動をしている。

平成23年度の開講科目は、「精神看護学講義Ⅰ（2単位 半澤・永井・大塚・野崎担当）」「精神看護学講義Ⅱ（2単位 半澤・永井・野崎担当）」「精神看護学講義Ⅲ（2単位 半澤・永井・野崎担当）」「精神看護学演習Ⅰ（2単位 半澤・永井・野崎担当）」「精神看護学演習Ⅱ（2単位 半澤・永井・野崎・非常勤講師担当）」「精神看護学演習Ⅲ（2単位 半澤・永井・野崎・非常勤講師担当）」であった。

【精神看護学講義Ⅰ】

講義Ⅰの授業目標は、精神の健康状態およびセルフケアのアセスメントと精神療法、精神科薬物療法、心理社会的療法等の各種セラピーに関する最新の知識を理解し、精神的健康の増進から重度精神障害者の支援とケアの効果を高める精神看護実践の専門職としての技術について学修することである。

【精神看護学講義Ⅱ】

講義Ⅱの授業目標は、精神障害者のリハビリテーションを促進し、社会参加を支える制度とシステムについて理解し、精神的健康の増進から重度精神障害者の支援までにかかわる精神看護実践

の専門職としての役割について学修することである。

【精神看護学講義Ⅲ】

講義Ⅲの授業目標は、精神看護実践で複雑な臨床的問題（身体合併症、長期入院、複雑な家族背景、自傷他害行為など）を解決するために必要な理論と技術を学ぶ。また、精神看護実践で生じている問題に関する分析方法、および対象者をエンパワーし、リカバリーを支える援助の提供方法（セルフヘルプグループ等）を体系的な視野も含めて学修することである。

【精神看護学演習Ⅰ】

演習Ⅰの授業目標は、精神障害者とその家族の健康的な生活を支えるための看護の役割と活動について検討し、精神看護実践における倫理的課題を分析し、解決する方策について演習することである。そのための演習課題として、学生自らが関心のある倫理的課題について、広く国内外の文献、または事例を検索して講読し、精神看護領域を専門とする高度実践看護師としての役割について実践的に検討した。

【精神看護学演習Ⅱ】

演習Ⅱの授業目標は、精神障害者およびメンタルヘルスの問題を持つ人の包括的な地域援助方法と予防活動について検討し、精神看護領域の高度実践看護師の活動の現状と役割について総合的に検討することである。そのための演習課題として、精神看護領域の高度実践看護師が果たしている実践、相談、調整、教育、研究等の役割の実際について活動に影響する要因について分析し、精神看護領域の高度実践看護の役割と展望について総合的に検討した。

がん看護学領域「がん看護学」

教授 本田 芳香

1. スタッフの紹介

教授 本田 芳香

准教授 小原 泉

2. 教育の概要

がん看護学領域は、平成19年度に文部科学省の「がんプロフェッショナル養成プラン」において、本学の取り組みである「全人的ながん医療の実践者養成」が採択された。本学大学院看護学研究科において、平成20年度より高度専門看護職に求められる看護実践能力の育成強化を教育課程の特徴とする実践看護分野に、がんの急性期から終末期に至る様々な健康状態にある患者とその家族に対して、看護実践を提供するための実践理論とその方法を系統的に教授するがん看護学領域を開講した。この領域はがん看護学のみで、がん看護における専門的知識や研究課題を探究するとともに、がん患者とその家族に生じる複雑な状況を的確に判断し、苦痛や苦悩を緩和し、生活の質の向上を目指した高度な看護実践のできるがん看護のスペシャリストを育成する。

1) がん看護学に関する教育概要

平成23年度は2名の学生を受け入れた。2名とも標準コースにて講義・演習を開始した。

【がん看護学講義Ⅰ】（1年次前期科目）2単位

がんの疫学、病態生理、診断、治療法に関する最新知見を理解する。がん患者およびその家族に生じる複雑な健康課題を包括的にアセスメントする視点を修得し、最新のケア実践への適応を探究することを授業目標とした。がん患者とその家族に生じる複雑な健康課題に対して、がんの疫学、病態、診断、治療法などの最新知見から包括的なアセスメントを行う視点を、学生によるプレゼンテーション、討議を通して最新のケア実践へ繋げる方を考察した。評価方法は、プレゼンテーション、討議及び課題レポートで評価をおこなった。本田、小原、非常勤講師9名が担当した。

【がん看護学講義Ⅱ】（1年次前期科目）2単位

がん患者とその家族が抱える複雑な健康問題を理解する基盤となる概念や理論を学び、看護モデ

ルへの適応を探究することを授業目標とした。がん患者とその家族を理解するための基盤となる概念枠組みを理解するため、国内外の文献と討議をもとに、がん看護領域における基本的概念について考究した。またがん看護領域に関連するストレスコーピング理論、ニューマン理論、危機理論などの諸理論の理解についてプレゼンテーション、討議をし、それをもとにがん看護における本理論の適応を考究した。評価方法は、プレゼンテーション、討議及び課題レポートで評価をおこなった。本田、小原、非常勤講師2名が担当した。

【がん看護学演習Ⅰ】（1年次前期科目）2単位

がん患者とその家族が抱える複雑な健康問題を身体的、心理的、社会的、スピリチュアルな側面から包括的にアセスメントする方法を学修することを授業目標とした。がん患者とその家族の健康問題を身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな視点から包括的にアセスメントするための観察スキルの習得や、専門的コミュニケーションスキルを習得するため、3回（2コマずつ）シリーズで行った。また各期（急性期～終末期に至る）におけるがん患者とその家族の症状アセスメントを実践事例の分析を通して系統的に習得する方法を教授した。評価方法は、プレゼンテーション、討議及び課題レポートで評価をおこなった。本田、小原、非常勤講師1名が担当した。

【がん看護学演習Ⅱ】（1年次前期科目）2単位

がん看護の基盤となる概念や理論、および緩和医療の知識を活用した事例分析や看護介入モデルの展開を通して、がん患者とその家族が抱える複雑な健康問題に対する自己の看護観の洞察や、専門的な看護実践の介入方法を学修することを授業目標とした。がん看護に関連する上記の諸理論を用いて実践事例を分析し、発表と討議を通して自己の看護観を考究した。また実践事例が有する健康課題を的確に捉える視点を、がん看護に関連する理論や概念を用いて看護介入モデルを作成し、プレゼンテーション、討議を通して実践への適用を検証及び考察した。評価方法は、プレゼンテーション、討議及び課題レポートで評価をおこなった。本田、小原、非常勤講師5名が担当した。

【がん看護学講義Ⅲ】（1年次後期科目）2単位

がん診断から終末期に至るまで、様々な健康問題を抱えるがん患者とその家族に緩和ケアを系統のかつ体系的システムとして提供するための専門

的な看護支援方法を探究することを授業目標とした。各領域（周手術期，化学療法，放射線療法，遺伝性のがん看護，長期療養過程にある看護，終末期にある看護，地域看護）の様々な健康課題を抱えるがん患者とその家族に緩和ケアを系統的かつ体系的システムとして提供する看護支援方法を，各専門領域の講師より最新知見の提供を受けた。またがん看護専門看護師が果たすべき役割機能として探求するため，実践事例に基づきプレゼンテーション，討議形式で系統的に習得できるように教授した。評価方法は，プレゼンテーション，討議及び課題レポートで評価をおこなった。本田，小原，非常勤講師8名が担当した。

【がん看護学演習Ⅲ】（1年次後期科目）2単位

様々な健康課題を抱えるがん患者・家族に緩和ケアを提供するための専門的な看護支援の実践を，CNSの6つの機能（実践，教育，相談，調整，倫理，研究）に基づいて学修することを授業目標とした。実践事例や国内外の文献を検討し，質の高い緩和ケア提供方法を探究するため，プレゼンテーション，討議を通して，がん看護や緩和ケアにおける課題や展望について考察した。評価方法は，プレゼンテーション，討議及び課題レポートで評価をおこなった。本田，非常勤講師3名が担当した。

【がん看護専門看護実習】（2年次前期科目）2単位

がん患者およびその家族が体験する様々な健康課題の時期に適した専門的な看護支援を継続的に提供するため，臨地実習を通して高度な看護実践・教育・相談・調整・倫理調整の実践について理解を深め，創造的ながん看護ケア開発を目指すことを授業目標とした。CNS役割開発実習と上級がん実践看護実習の2つに分け系統的かつ包括的な実践能力を育成する。CNS役割開発実習では，CNS役割実習と在宅がん看護実習を通して，CNSのスーパービジョンを受けながら，その役割機能の実際を学んだ。上級がん実践看護実習では，CNSとして，複雑な健康問題のあるがん患者とその家族に対して，高度な看護実践・教育・相談・調整・倫理調整の役割機能を遂行できる能力を養うため主体的な実践を通して，CNSのスーパービジョンを受けながら，創造的ながん看護ケア開発を学修した。評価方法は，実習態度，実習目標に対する自己評価，他者評価，レポート評価，総括

報告会で評価をおこなった。本田，小原が担当した。

2) その他 看護学部教育に関連する教育概要

1) がん看護学に関連する教育概要

がん看護学（4年次前期科目1単位：選択）の科目責任者を小原が務めた。学習目的は，対象ががんを患う意味と，生命・生活への支障・影響を理解し，対象とその家族に必要な看護を学習することである。がんの特徴やがん治療の特徴，がん治療を受ける患者とその家族への看護，がんと共に生きる患者とその家族への緩和ケアについて，主に講義形式で授業が進められた。老年期あるいは小児期の発達課題をふまえたがん看護についても授業を行い，がんの小児とその家族に対する看護については小児看護学の教授が担当し，臨床助教による実践的なテーマ設定でグループワークと討議を行った。

履修した学生は61名で，授業は，1名の非常勤講師，小児看護学科目群教授および臨床助教（がんの小児とその家族に対する看護），小原が担当した。

2) がん看護学以外の担当教育概要

看護基礎セミナー（1年次前期科目1単位：必修）では，7～8名の学生を対象にセミナー形式ですすめていった。保健・看護研究セミナー（4年次前期科目1単位：必修），卒業研究（4年次後期科目4単位：必修）は，10名の学生を対象に前期の一部は全員にて文献検討をおこない，その後研究テーマ別に5名ずつのグループに分かれ，グループ指導および個別指導をおこなった。

老年・地域看護管理学領域 「老年看護管理学」

教授 水戸美津子

1. スタッフの紹介

教授 水戸美津子
教授 宮林 幸恵
准教授 高木 初子
准教授 浜端 賢次

2. 教育の概要

老年看護管理学領域では、地域で生活する健康な高齢者の健康の保持・増進に積極的に寄与し、健康障害をもつ高齢者とその家族に対して健康な生活を支援できる看護管理能力の取得を目指して

る。
平成23年度修了生2名、論文題名「特定機能病院における急性心筋梗塞DPCコード別の高齢患者看護ケアの特徴」、「『物忘れ外来』における外来看護師の看護実践内容の分析」であった（担当：水戸、高木）。

【老年看護管理学講義Ⅰ】（1年次前学期2単位）

老年看護の概念及び老年期の特徴と健康課題を理解し、老年看護管理について学習する。

【老年看護管理学講義Ⅱ】（1年次前学期2単位）

様々な健康障害をもつ老年者が地域で生活を維持出来るような各種社会資源や住まい環境の整備の重要性とケアシステムの開発や社会資源の有効な活用について学習する。

【老年看護管理学演習Ⅰ】（1年次前学期4単位）

老年者の健康課題について生活要因や保健行動との関連から評価する方法、健康の保持・回復に関わる専門的ケア提供方法に関して検討し、老年看護管理の課題について学習する

【老年看護管理学演習Ⅱ】（2年次前学期4単位）

老年看護に関連する特定分野の研究を系統的に整理し、今後の研究課題を探索する。

【老年看護学特別演習】（2年次後学期4単位）

老年看護管理学講義Ⅰ・Ⅱおよび老年看護管理学演習Ⅰ・Ⅱでの学習内容を発展させフィールド調査・実習を通して自分自身の研究課題を明確にする。

【老年看護学特別演習Ⅱ】（3年次前学期2単位）

老年看護学講義Ⅰ・Ⅱ及び老年看護学演習Ⅰ・Ⅱでの学習を発展させ、さらに特別演習Ⅰで明確

にした課題に基づき、フィールド調査・実習等を通して自分自身の研究課題を明確にする。

【老年・地域看護管理学特別研究】（3年次前学期・後学期）

これまでの学修並びに看護実践を通して見出された研究課題に沿って研究を行い、修士論文を作成する。学生は自分自身の研究計画に基づきデータ収集及び分析を行い、修士論文を作成した。（担当：水戸、高木）

老年・地域看護管理学領域 「地域看護管理学」

教授 春山 早苗

1. スタッフの紹介

教授 春山 早苗

准教授 鈴木久美子

講師 塚本 友栄

講師 工藤奈織美

2. 教育の概要

地域看護管理学を履修している1年生は1名、2年生は4名（2年目2名、3年目以上2名）で4名が長期在学制度を利用している。

地域看護管理学では、地域特性に応じた政策立案や地域資源づくり、地域ケア体制づくり、その他の地域看護管理に関わる知識や技術を教授し、地域ケアの現場において管理的・指導的役割を担い、地域のニーズに合った看護サービス提供システムを改善・改革・創出できる人材育成を目指した教育活動をしている。今年度の開講科目は「地域看護管理学講義Ⅰ」（2単位、春山担当）、「地域看護管理学講義Ⅱ」（2単位、春山・鈴木担当）、「地域看護管理方法Ⅰ」（2単位、春山・非常勤講師担当）、「地域看護管理方法Ⅱ」（2単位、春山・鈴木担当）、「地域看護管理学演習」（4単位、春山・鈴木担当）、「地域看護管理学特別演習」（4単位、春山、鈴木、塚本、工藤担当）、「老年・地域看護管理学特別研究」（6単位）であった。

【地域看護管理学講義Ⅰ・Ⅱ】

講義Ⅰの授業目標は、文献検討や近年の地域看護活動の課題の検討を通して、地域看護管理に係る主要概念、地域における看護活動体制づくりの理論と考え方、地域資源の評価と開発に関わる看護活動について学修することである。1年生1名が履修した。

講義Ⅱの授業目標は、文献抄読により、へき地に住む人々のヘルスニーズと地域診断の視点、へき地看護理論の基礎、へき地看護活動の展開方法と看護管理体制のあり方について学修することである。1年生1名が履修した。

【地域看護管理方法Ⅰ・Ⅱ】

方法Ⅰの授業目標は、実践事例や先行研究の知見から地域連携体制の構築や地域看護管理活動の展開方法、施策化に関わる看護専門職の役割と看

護活動の展開方法について検討することである。1年生1名が履修した。

方法Ⅱの授業目標は、山間へき地や離島、豪雪地帯における実践事例や国内外の文献を検討し、へき地における看護活動発展のための方法を考えることである。1年生1名が履修した。

【地域看護管理学演習】

授業目標は、地域特性とヘルスニーズの分析から、地域における看護提供体制を評価検討し、看護管理に関する改善・改革の課題を明らかにすることである。1年生1名が履修した。授業目標に関連した目標を学生自身が立て、県内保健所4カ所において実習を実施した。

【地域看護管理学特別演習】

授業目標は、地域における看護提供機関の看護管理に関する改善・改革の課題を達成するための研究的アプローチを検討し、研究を計画することである。2年生2名が履修した。文献検討、並びに、学生自身の研究テーマと関連させて、1名は事業所及び県内1市で、1名は山村過疎地でフィールドワークを行い、ゼミと個別指導により、研究計画を精練した。

【老年・地域看護管理学特別研究】

春山が2年生3名の研究指導を行い、鈴木、塚本が研究指導を補助した。

3名が修士課程を修了し、修士論文のテーマは「急性期病棟における病棟看護管理者の退院支援にかかわる看護管理活動に関する研究」、「住民と同じ地域で生活している離島保健師の地域看護活動に関する研究」、「事業化における産業看護職と安全衛生委員との協働に関する研究」であった。

共通科目

大学院看護学研究科
幹事長 半澤 節子

看護学研究科の教育課程において、看護学の高度専門職に求められる看護実践能力の育成強化を目指し、教育課程を構成し、「共通科目」と「専門科目」を置いている。平成23年度に開講された共通科目は、「地域医療論」「看護管理・政策論」「看護倫理」「看護実践研究論」「看護継続教育論」「コンサルテーション論」「地域調査法」「フィジカルアセスメント特論」という8科目（各2単位）を開講した。いずれの科目も選択科目であり、前期もしくは後期科目として開講されている。共通科目はいずれも、1・2年次の配当科目となっており、いずれの年次にも履修することが可能となっている。

なお、このうち、「看護管理・政策論」「看護倫理」「看護実践研究論」「看護継続教育論」「コンサルテーション論」の5科目は、専門看護師教育課程の共通科目として認定されており、実践看護学分野の院生が専門看護師教育課程の共通科目として履修する場合、これらの5科目のうちのいずれか4科目（8単位）以上を履修することが要件のひとつとなっている。

【地域医療論】

本科目は、地域に根差した医療や保健を展開する方法を理解することを目標に、地域ニーズの捉え方及びその展開方法、地域の保健医療施設の有機的連携等の実際等について教授する。

【看護管理・政策論】

本科目は、保健・医療・福祉システムにおいて有効に機能する看護活動管理の組織化の方法並びに看護制度、政策的働きかけについて学修することを目標に、保健医療福祉システムの中で質の高いケアを提供するための機能・役割や活動方法等を教授する。

【看護倫理】

本科目は、看護場面における複雑な判断を要する倫理的課題として、看護専門職としての立場から果たすべき機能について学修することを目標に、倫理的葛藤や課題並びに倫理的調整活動に必要な知識を教授する。

【看護実践研究論】

本科目は、看護分野における実践研究の特徴を知り、その実際について学修することを目標に、専門的看護の質の向上に寄与する看護研究をすすめていく上での具体的展開について教授する。

【看護継続教育論】

本科目は、生涯学習の視点から看護継続教育の現状を理解し、看護の継続教育に関する知識と技術について学修することを目標に、看護ケアの質を高めるために必要な上級看護職者が行う教育的働きかけ、教育環境づくり等、看護の継続教育に関する知識と技術を教授する。

【コンサルテーション論】

本科目は、コンサルテーションに関する理論と倫理的側面を含むコンサルテーションをめぐる問題や課題について検討することを目標に、上級看護職が必要とするコンサルテーション技能と役割について教授する。

【地域調査法】

本科目は、地域における健康問題や健康ニーズを把握するための調査方法並びに分析方法等を学修することを目標に、地域において効果的かつ効率的な看護活動・保健活動やその管理的活動を展開する上で必要な地域の健康問題やニーズを把握するための質的・量的調査法を教授する。

【フィジカルアセスメント特論】

本科目は、身体の急激な変調とその原因・要因となる病態を捉え、治療ならびに看護援助に生かすためのアセスメントを実例を通して学修することを目標に、特に救急、慢性疾患の治療、在宅患者における病態評価に重点をおいて教授する。

研究業績録

- 注 1) 掲載対象は2011年1月1日から同年12月31日までである。
2) ゴシック体の人名は対象年に本学に所属していた者である。

看護基礎科学

(1) 論文

- 1) Kondo,S., Otsuka,K., Sawaguchi,G.T., Miyasaka,L.S., Honda,E.T., Nakamura,Y., Kato,S.: Mental health status of Japanese-Brazilian children in Japan and Brazil. *Psychiatry Clin Neurosci*, 65(3):226-232, 2011.
- 2) 大塚公一郎：文化の諸相とレジリアンス。こころと文化, 10:33-40, 2011.
- 3) 野崎章子, 大塚公一郎, 岩崎弥生：在日ブラジル人児童へのメンタルヘルス支援 児童と家族への地域を基盤とした支援方法の検討。明治安田こころの健康財団研究助成論文集, 46:105-113, 2011.
- 4) 飯塚秀樹：普通教室におけるConsecutive Interpreting Approach の実践とその考察 自治医科大学看護学部における医療通訳教育の取り組みから。通訳翻訳研究, 11:75-93, 2011.

(2) 学会発表

- 1) 渡邊亮一, 長澤 享, 北川勝二, 笹川紀夫, 五味悠一郎：医療情報基礎知識検定試験の効用と課題。第31回医療情報学連合大会（第12回日本医療情報学会学術大会）, 鹿児島市, 2011年11月20日。（第31回医療情報学連合大会論文集 178-179, 2011）
- 2) 大塚公一郎：透析患者のメンタルヘルスとその対応。第33回栃木県心身医学研究会, 下野市, 2011年1月29日。（第33回栃木県心身医学研究会プログラム・抄録集, 2011）
- 3) 野崎章子, 岩崎弥生, 大塚公一郎：地域住民による在日ラテン系児童と家族への支援。文化看護学会, 千葉市, 2011年3月。
- 4) 大塚公一郎：うつ病と離人－離人がうつ病において語ること－。シンポジウム7うつ病の関連症状をみわける。第8回日本うつ病学会総会, 大阪, 2011年7月1日。（第8回日本うつ病学会総会プログラム・抄録集 94, 2011）
- 5) 大塚公一郎：反復するトラウマの語りとレジリアンス。シンポジウム；レジリアンス・文化・ナラティブ。第18回多文化間精神医学会学術総会, 東京, 2011年10月1日。（第18回多文化間精神医学会学術総会プログラム・抄録集 55-56, 2011）
- 6) 井上かな, 大塚公一郎, 宮田善文, 加藤

敏：人間学的精神病理学の見地からみたアスペルガー症候群とシゾイドパーソナリティ－操作的にアスペルガー症候群と診断された症例を通して－。第34回日本精神病理・精神療学会, 名古屋, 2011年10月13日。（臨床精神病理 28:74-75, 2011）

7) 飯塚秀樹：通訳訓練法を応用した口頭練習が英語コミュニケーション能力に及ぼす効果－CALLシステムを使った授業から－。公益財団法人全国商業高等学校協会全国英語教育研究大会, 東京都新宿区大京町全商会館, 2011年2月26日。

(3) 著書・総説

- 1) 日本医療情報学会医療情報技師育成部会（代表者 渡邊亮一）編：医療情報サブノート（第2版）。篠原出版新社, 2011.
- 2) 岡本悦司, 小橋 元, 坂田清美, 佐藤敏彦, 西浦 博, 横山英世, 岡田充史, 尾島俊之, 亀崎豊実, 高橋美保子, 富田敦子, 山本秀樹, 渡邊亮一：サブノートF第35版 保健医療論・公衆衛生学（2012年版）。Medic Media（東京）, 2011.
- 3) 大塚公一郎：心理・社会科学と精神医学の接点。（山内俊雄, 小嶋卓也, 倉知正佳, 鹿島晴雄編：専門医をめざすひとの精神医学 第3版）。医学書院, 100-103, 2011.
- 4) 大塚公一郎：離人（疎隔）。（松下正明総編集, 内海 健, 笠井清登, 加藤 敏, 神庭重信編：精神医学キーワード事典）。中山書店, 76-78, 2011.
- 5) 大塚公一郎：虚偽主題, 激越性うつ病, 血統妄想, 現存在分析, 錯乱性躁病, 実存分析, 躁転, 躁病, 疎隔体験, 二重見当識, 不機嫌躁病。（加藤 敏, 神庭重信, 中谷陽二, 武田雅俊編：現代精神医学事典）。弘文堂, 237, 272, 278-279, 298-299, 365, 427-428, 650, 654, 651, 787, 911, 2011.

(4) その他（報告書, 学会以外での発表等）

- 1) 大塚公一郎：「レジリアンスの文化」特集にあたって。こころと文化, 10:8-11, 2011.
- 2) 大塚公一郎：書評『精神科臨床の星影－安克昌, 樽味 伸, 中井久夫, 神田橋條治, 宮沢賢治をめぐる時間』。精神医療, 62:117-121, 2011.

基礎看護学

(1) 論文

1) 塚原節子：青年期にある外傷性高次脳機能障害者の就労維持に伴う障害需要のプロセス. 金沢大学つま保健学会誌, 第35巻(2); 41-49, 2011.

(2) 学会発表

1) Tsukahara,S.: Employment Support Process for the Families of Disabled Members with Higher Brain Dysfunction due to a Traumatic Brain Injury at the Time of Adolescence. 10th International Family Nursing Conference, Kyouto. 2011年6月25日. (10th International Family Nursing Conference:2011)

2) Ushiro,R.:Analysis of Factors Related to Nurse-Physician Collaboration by the Use of Nurse-Physician Collaboration Scale. ICN Conference, Malta (Republic of Malta). 2011.

3) 里光やよい, 塚原節子, 和久紀子, 水戸美津子：学生の総合評価からみるシャドーイング実習を取り入れた基礎看護学実習の評価. 第42回日本看護学会 看護教育, 松山. 2011年10月6日. (第42回日本看護学会抄録集 看護教育; 157, 2011)

4) 和久紀子, 水戸美津子, 里光やよい, 塚原節子：初めての病院実習でのシャドーイングの記録からみる学生の学びの視座. 第42回日本看護学会 看護教育, 松山. 2011年10月6日. (第42回日本看護学会抄録集 看護教育; 203, 2011)

5) 小林れい子 熊谷祐子：看護師基礎教育における保健師によるキャリア教育. 第21回日本看護学教育学会, 大宮. 2011年8月30日. (第21回日本看護学教育学会学術集会抄録集; p298, 2011)

6) 佐藤富美子 熊谷祐子：看護大学教員, 看護師を対象としたフィジカルアセスメント教育前後のアセスメント習得度自己評価の比較. 大宮. 2011年8月30日. (第21回日本看護学教育学会学術集会抄録集; 2011)

7) 中山和弘, 戸ヶ里泰典, 瀬戸山陽子, 田口良子, 米倉祐貴, 的場智子, 宇城 令, 大宮朋子：市民・患者のヘルスリテラシーの向上を支援するサイト『健康を決める力』の開発と評価. 公衆衛生学会, p154, 2011.

8) 川上 勝, 宇城 令, 長井栄子, 福田真紀, 山中 瞳, 相賀美幸, 大久保裕幸, 芦澤拓也, 梶原 忠：看護師の所在確認システムを用いた人員配置評価の試み. 医療の質・安全学会, p168, 2011.

9) 川合直美, 宇城 令, 狐塚正子, 寺山美華, 樋山和広, 樋口一江, 市田勝, 鶴見真理子, 長谷川 剛, 河野龍太郎：転倒予防のための環境整備への取り組み. 医療の質・安全学会, p174, 2011.

10) 高山詩穂：高齢者の特性を踏まえた口腔吸引・鼻腔吸引の検討, 日本看護技術学会. 東京, 2011年10月29日.

11) 高山詩穂：医療事故の経験から伝えたいこと. 日本腎不全看護学会誌. 2012.

(3) 著書・総説

1) Tsukahara,S.: Employment Support Process of the Families for Disabled Members with Higher Brain Dysfunction due to a Traumatic Brain Injury(TBI) at the Time of Adolescence. Toyama Medical, Vol.22(1);8-13,2011

(4) 実践報告

1) 滝内隆子, 小松妙子, 塚原節子, 岡本千尋, 中島美奈子, 中野尚見, 伊藤友美, 高岡光江：臨床看護師との協働による看護技術指導の評価. 看護教育, Vol52(9);766-771, 2011.

2) 高山詩穂, 水戸美津子：高齢者に対する口腔内・鼻腔内吸引のリスクと安全な技術.看護実践の科学, 2012.

(5) その他

1) 宇城 令：チーム医療の中の医師と看護師の協働. 人口知能学会 言語・音声理解と対話処理研究会 (主催), 東京大学大学院情報学環 (協賛) 医療コミュニケーションシンポジウム, 東京大学. 平成23年10月2日 (2011.)

地域看護学

(1) 論文

- 1) 鈴木久美子, 関山友子, 島田裕子, 塚本友栄, 工藤奈織美, 春山早苗, 青木さぎ里, 福田順子: 中学生への福祉教育における看護職による支援の効果と意義. 自治医科大学看護学ジャーナル, 8; 17-33, 2011.
- 2) 塚本友栄, 関山友子, 島田裕子, 工藤奈織美, 小川朋子, 鈴木久美子, 成田 伸, 春山早苗, 後藤光代, 小谷妙子, 渡邊芳江, 福田順子, 工藤祝子, 山本恵美子, 宮田直美: へき地医療拠点病院看護職の現状とへき地診療所看護職支援との関連. 日本ルーラルナース学会誌, 6; 17-33, 2011.
- 3) 春山早苗, 山口佳子, 櫻山豊夫, 倉橋俊至, 筒井智恵美, 堀裕美子, 北島信子, 有馬和代, 川人礼子, 塚本友栄, 島田裕子, 関山友子: 都市部における感染症健康危機管理にかかわる保健活動. 自治医科大学看護学ジャーナル, 8; 133-150, 2011.
- 4) 春山早苗, 田村須賀子, 鈴木久美子, 須永恭子, 関山友子, 波多野浩道, 兒玉慎平: へき地診療所における医師と看護師との連携に関する研究. 日本ルーラルナース学会誌, 6; 35-49, 2011.
- 5) 塚本友栄, 郷間悦子, 村上貴子, 阿久津梢, 永岡朋子, 河野順子, 福島道子: 退院調整看護師等を対象とした交流会参加者の声から捉えたA県下医療施設における退院調整の現状と課題. 第42回日本看護学会論文集 看護総合, 257-260, 2011.

(2) 学会発表

- 1) Haruyama,S., Takamura,H., Uehara,R., Esumi,S., Nakamura,Y., Aoyama,Y., Kotani,K., Sadagane,A., Chihara,I., Tsuboi,S.: Influence of the Health Promotion Activities in the Rural Area of Veracruz of the United Mexican States by Healthcare Professionals and Adolescent Peer Leaders. THE 2nd JAPAN-KOREA JOINT CONFERENCE ON COMMUNITY HEALTH NURSING, Kobe. July 17 2011. (THE 2nd JAPAN-KOREA JOINT CONFERENCE ON COMMUNITY HEALTH NURSING Program and Abstracts ; 192, 2011)
- 2) Tsukamoto,T., Sekiyama,T., Suzuki,K., Shimada,H., Kudo,N., Haruyama,S.: The

Relationship between Perception of Nursing Directors in the Support Hospitals for Rural Medicine and their Actual Support to Clinic Nurses in Rural and Remote Area. THE 2nd JAPAN-KOREA JOINT CONFERENCE ON COMMUNITY HEALTH NURSING, Kobe. July 17 2011. (THE 2nd JAPAN-KOREA JOINT CONFERENCE ON COMMUNITY HEALTH NURSING Program and Abstracts ; 193, 2011)

3) Fukuhara,M., Haruyama,S., Suzuki,K.: Study on the Judgment that Municipal Public Health Nurses Perform for Prevention Lifestyle-related Diseases. THE 2nd JAPAN-KOREA JOINT CONFERENCE ON COMMUNITY HEALTH NURSING, Kobe. July 17 2011. (THE 2nd JAPAN-KOREA JOINT CONFERENCE ON COMMUNITY HEALTH NURSING Program and Abstracts ; 95, 2011)

4) 関山友子, 塚本友栄, 鈴木久美子, 島田裕子, 工藤奈織美, 春山早苗, 田中牧子: 中規模へき地医療拠点病院の看護職員不足に関連する看護実践現場の現状と課題. 日本ルーラルナース学会 第6回学術集会, 旭川. 2011年10月15日. (日本ルーラルナース学会 第6回学術集会抄録集; 43, 2011)

5) 渡邊芳江, 春山早苗: 禁煙外来の効果的な指導体制の改善, 第70回日本公衆衛生学会総会, 秋田. 2011年10月20日. (第70回日本公衆衛生学会総会抄録集58(10); 216, 2011)

6) 福原円, 春山早苗, 鈴木久美子: 生活習慣病予防活動に関わる市町村保健師の判断に関する研究. 第70回日本公衆衛生学会総会, 秋田. 2011年10月20日. (第70回日本公衆衛生学会総会抄録集58(10); 443, 2011)

7) 奥田博子, 宮崎美砂子, 牛尾裕子, 春山早苗, 田村須賀子, 岩瀬靖子, 島田裕子: 健康危機管理減少(自然災害)発生を想定した保健活動に関する研究. 第70回日本公衆衛生学会総会, 秋田. 2011年10月20日. (第70回日本公衆衛生学会総会抄録集58(10); 413, 2011)

8) 塚本友栄, 郷間悦子, 村上貴子, 阿久津梢, 永岡朋子, 河野順子, 福島道子: 退院調整看護師等を対象とした交流会参加者の声から捉えたA県下医療施設における退院調整の現状と課題. 第42回日本看護学会 看護総合, 千葉. 2011年9月

8日。（第42回日本看護学会抄録集看護総合；188, 2011）

9）村上貴子，郷間悦子，塚本友栄，阿久津梢，永岡朋子，河野順子，福島道子：退院支援困難を乗り越えるための研修会の効果。第42回日本看護学会 看護管理，東京，2011年10月13日。（第42回日本看護学会抄録集看護管理；60，2011）

(3) その他

1）春山早苗：用語「農村看護」．看護学辞典第2版，見藤隆子，児玉香津子，菱沼典子総編集，日本看護協会出版会，771，2011.

2）奥田博子，宮崎美砂子，岩瀬靖子，牛尾裕子，春山早苗，田村須賀子：災害発生に備えた平常時における保健活動の取り組みに関する分析．厚生労働科学研究費補助金（健康安全・危機管理対策総合研究事業）「災害・重大健康危機の発生時・発生後の対応体制及び健康被害抑止策に関する研究」平成22年度 総括・分担研究報告書，57-188, 2011.

3）奥田博子，宮崎美砂子，牛尾裕子，春山早苗，岩瀬靖子，田村須賀子，森下安子，歌川孝子，白石都，藤谷明子，古場裕司，大橋毅司，飯野理恵，島田裕子．災害発生に備えた平常時における保健活動の取り組みに関する研究．厚生労働科学研究費補助金（健康安全・危機管理対策総合研究事業）「災害・重大健康危機の発生時・発生後の対応体制及び健康被害抑止策に関する研究」平成20-22年度 総合研究報告書，40-45，2011.

4）春山早苗，櫻山豊夫，倉橋俊至，筒井智恵美，堀裕美子，北島信子，川人礼子，塚本友栄，島田裕子，関山友子：大都市部における自然災害等健康危機発生時の保健活動体制と方法に関する指針

3.大都市部における災害発生時における感染症対策．厚生労働科学研究費補助金（健康安全・危機管理対策総合研究事業）「大都市部における自然災害等健康危機発生時の保健活動体制と方法に関する研究」平成21-22年度 総合研究報告書，7-8，2011.

5）春山早苗，鈴木久美子，塚本友栄，工藤奈織美，舟迫香，青木さぎ里，小川貴子，島田裕子：離島・山村過疎地域における市町村保健師活動のプライオリティの判断に関する研究．文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(C)平成19-21年度研究成果報告書，1-70，2011.

6）塚本友栄，春山早苗，成田 伸，鈴木久美子，工藤奈織美，小川朋子，関山友子，島田裕子，後藤光代，小谷妙子，福田順子，渡邊芳江，工藤祝子，宮田直美，山本恵美子：へき地における看護の充実に向けたへき地医療拠点病院の看護の現状と課題に関する調査．自治医科大学看護学部地域看護学 同大学附属病院看護部発行，2011.

7）鈴木久美子，春山早苗，塚本友栄，工藤奈織美，小川貴子，島田裕子，葉真寺美佐子：ALS患者の療養生活支援における医療機関地域連携部門の看護職の役割に関する研究．自治医科大学看護学ジャーナル，8；191-192，2011.

8）春山早苗，塚本友栄，関山友子：都道府県で取り組む地域医療を担う看護職の確保支援対策の検討．第70回日本公衆衛生学会総会自由集会，秋田，2011年10月20日.

精神看護学

(1) 学会発表

1) Koike,J. : Early Intervention for Mentally Disordered Offenders, Based on the results of a survey about involuntary admission by order of the prefectural governor. (Poster presentation), 16th World Congress of the International Society for Criminology, Kobe, Japan ; 2011.8.6

2) Bae,YJ., Zhao,X., Hanzawa S.: Longitudinal psychological impact on family caregivers traumatized by schizophrenia patient's violence behavior. (Oral presentation), 21st World Congress on Psychosomatic Medicine, Seoul, Korea, 2011.8.25-28

3) Hanzawa,S., Nishida,A., Shiraishi,H., Ito,C., Nakane,Y. Needs for crisis intervention among family caregivers with schizophrenia patients in Japan; Comparison between inpatients and outpatients. (Oral presentation), 13th International Federation of Psychiatric Epidemiology, Kaoshun, Taiwan, 2011.3-30.4.2

4) Hanzawa,S., Yatabe,K., Tanaka,G., Nakane,Y. : Psychiatric nurses' beliefs about treatability of mental illness and resources for community life in Japan. (Oral presentation), 13th International Federation of Psychiatric Epidemiology, Kaoshun, Taiwan, 2011.3-30.4.2

5) 小池純子, 板橋直人: 触法行為を契機に長期入院をしている精神障害者の社会復帰支援. 第19回精神障害者リハビリテーション学会. 京都. 2011.11.12-13

6) 板橋直人, 野崎章子, 小池純子, 半澤節子, 永井優子: 精神科看護師における統合失調症患者に対する認識の変容, 看護方式変更の影響に着目して. 第19回日本精神障害者リハビリテーション学会. 京都. 2011.11.12-13

7) 谷田部佳代弥, 半澤節子, 永井優子: 精神科看護師の地域生活困難の認知と精神科臨床経験の関連. 第30回日本社会精神医学会. 奈良, 2011.3.4-5

8) 小池純子: 触法精神障害者の早期介入について. 第10回自治医科大学シンポジウム, 下野市. 2011. 9. 2

9) 小池純子, 板橋直人: 重大な他害行為を行っ

た精神障害者の社会復帰支援に関する検討, 長期入院精神障害者を対象とした調査から. 第10回自治医科大学シンポジウム, 下野市. 2011. 9. 2

10) 板橋直人, 野崎章子, 小池純子, 半澤節子, 永井優子: 地域で生活する統合失調症患者に対する精神科看護職者の認識の変化, 看護方式変更に着目して. 第10回自治医科大学シンポジウム, 下野市. 2011. 9. 2

母性看護学

(1) 論文

- 1) 野々山未希子, 成田 伸, 工藤里香, 鈴木幸子, 岡本美香子, 水流聡子, 遠藤俊子: 避妊・性感染症予防カウンセラー育成プログラムの評価 (その1) - プログラム受講者と自己学習者における知識の獲得状況の比較 - . 日本母性看護学会誌, 第11巻第1号, 27-33, 2011.
- 2) 成田 伸, 野々山未希子, 工藤里香, 鈴木幸子, 岡本美香子, 水流聡子, 遠藤俊子: 避妊・性感染症予防カウンセラー育成プログラムの評価 (その2) - ロールプレイを用いたカウンセリング技能獲得の評価 - . 日本母性看護学会誌, 第11巻第1号, 35-42, 2011.
- 3) 立木歌織, 成田 伸: Late Preterm児を出産した母親の授乳や育児に関連する困難と乗り越えるのに影響した要因. 日本母性看護学会誌, 第11巻第1号, 59-65, 2011.
- 4) 沼尾美津穂, 成田 伸: 予期せぬ妊娠に至った経産婦の体験 - 第2子以降の出産時点でのふり返しから - . 日本母性看護学会誌, 第11巻第1号, 67-72, 2011.
- 5) 小嶋由美, 佐藤君江, 渡辺 博, 成田 伸: 緊急母体搬送され、その後に出産し、さらに逆搬送となった母親の体験. 自治医科大学看護学ジャーナル, 第8巻, 5-15, 2011.
- 6) 高橋斉子, 高木友子, 立木歌織, 沼尾美津穂, 小嶋由美, 渥美清恵, 荒川直美, 手塚久恵, 糸川舞衣夢, 角川志穂, 小川朋子, 齋藤良子, 成田 伸: 母性看護専門看護実習として展開したへき地医療拠点病院における新生児蘇生法の導入とその成果. 自治医科大学看護学ジャーナル, 第8巻, 119-124, 2011.
- 7) 立木歌織, 高橋斉子, 高木友子, 沼尾美津穂, 天谷恵美子, 金田陽子, 寒河江かよ子, 塚田祐子, 藤川智子, 角川志穂, 小川朋子, 齋藤良子, 成田 伸: NICU入院中の児を持つ母親の搾乳に関する実態調査. 自治医科大学看護学ジャーナル, 第8巻, 125-132, 2011.
- 8) 塚本友栄, 関山友子, 島田裕子, 工藤奈織美, 小川朋子, 鈴木久美子, 成田 伸, 春山早苗, 後藤光代, 小谷妙子, 渡邊芳江, 福田順子, 工藤祝子, 山本恵美子, 宮田直美: へき地医療拠点病院看護職の現状とへき地診療所看護職支援との関連.

日本ルーラルナース学会誌, 第6巻, 17-33, 2011.

9) 成田 伸: 地区理事報告 - 北関東地区. 助産師, 第65巻第1号, 104-105, 2011.

(2) 学会発表

- 1) Narita,S., Kudo,R., Nonoyama,M., Suzuki,S., Endo,T., : Evaluation of a Training Program for Counselors in Contraception and Prevention of STIs in Japan from a Viewpoint of Change of Counselor's Attitudes toward Low Dose Pil. International Confederation of Midwife's(ICM) 29th Triennial Congress (Durban), 2011.6.21.
- 2) Kuroda,Y., Narita,S.: Anxiety of Mothers Caring Infants in Remoto Areas:A Survey of Mothers One-months-old Infants' at Health Checkup. 10th International Family Nursing Conference (Kyoto), June 27, 2011.
- 3) 高橋斉子, 成田 伸: 早産児の母親が長期間搾乳を継続する過程で直面する困難と搾乳継続を支えた要因. 第13回日本母性看護学会 (下野市), 2011年6月11日.
- 4) 高木友子, 成田 伸: 精神疾患をもつ妻とその夫にとっての妊娠, 出産, 育児を通しての夫婦の体験 - 第2子出産後のふり返しから - . 第13回日本母性看護学会 (下野市), 2011年6月11日.
- 5) 樋貝繁香, 成田 伸: 低出生体重児の子どもをもつ父親が看護師に求める支援 - 3名の父親を対象に -. 第36回栃木県母性衛生学会 (宇都宮市), 2011年6月26日.
- 6) 竹田まゆ美, 野々山未希子, 成田 伸: 妊娠高血圧症候群に伴う体験とその支援に関する海外文献検討. 第10回自治医科大学シンポジウム (下野市), 2011年9月2日 (自治医科大学看護学ジャーナル (第10回自治医科大学シンポジウムポスターセッション抄録), 第9巻, 60, 2011.)
- 7) 能登桃子, 野々山未希子, 成田 伸: 双胎妊婦および双子の母親への支援に関する文献レビュー. 第10回自治医科大学シンポジウム (下野市), 2011年9月2日 (自治医科大学看護学ジャーナル (第10回自治医科大学シンポジウムポスターセッション抄録), 第9巻, 61, 2011.)
- 8) 田村美和, 澤里千亜紀, 湧井斉子, 河原友美子, 福田綾子, 鳩山知世, 渡辺 茜, 荒牧由華, 高橋麻衣, 寺尾朋子, 塚田祐子, 大澤弘子, 野口

忠秀，渡辺 尚，渡辺道子，齋藤良子：産科病棟看護スタッフの妊婦の口腔ケアに関する意識調査－歯科衛生士による研修会前後での比較－：第36回栃木県母性衛生学会学術集会，宇都宮市，2011年6月26日．

9）高木初子，野崎章子，齋藤良子，大塚公一郎，前原多鶴子，高久美子，菊池睦子，水戸美津子：大学附属病院看護師のキャリア指向と関連要因に関する検討．第42回日本看護学会－看護管理－学術集会，神戸市，2011年10月13日．

(3) その他

1）成田 伸：ワークショップ2：地域に密着した助産師の働き方～生き生き働き続けるために．地域医療フォーラム2010（報告書），46，2011．

2）成田 伸，角川志穂，寒河江かよ子，工藤祝子：地域支援病院への派遣勤務が助産師のキャリアに与える影響．自治医科大学看護学ジャーナル（自治医科大学看護学部共同研究費報告），第8巻，185-186，2011．

3）角川志穂，成田 伸，齋藤良子，西岡啓子，天谷恵美子，金田陽子，塚田祐子，藤川智子，立木歌織，沼尾美津穂：児がNICUに入院中の母乳育児支援の効果についての研究．自治医科大学看護学ジャーナル（自治医科大学看護学部共同研究費報告），第8巻，195-197，2011．

4）齋藤良子，西岡啓子，西脇京子，田村恵理子：不妊女性の心理的サポート・プログラム考案の試み－第1報－．自治医科大学看護学ジャーナル（自治医科大学看護学部共同研究費報告書），第8巻；189-190，2011年．

小児看護学

(1) 論文

- 1) 中島登美子・清水嘉子：早期産体験の癒し尺度改訂版の構成概念妥当性の検討．自治医科大学看護学ジャーナル，8;75-83,2010.
- 2) 中島登美子：カンガルーケアを実施した母親の愛着と抑うつが早期産体験の癒しに及ぼす影響．自治医科大学看護学ジャーナル，8;85-91,2010.
- 3) 横山由美：乳幼児期のダウン症候群の子どもを持つ母親の“育ての場探し”．東京大学大学院博士論文，2011.
- 4) 樋貝繁香，中島登美子，石田寿子，小西克恵，天谷恵美子，大海佳子：新生児集中治療室(NICU)の新人教育における技術到達度評価．自治医科大学看護学ジャーナル，8；151-158，2010.

(2) 学会発表

- 1) Nakajima,T.:The light and Sound Level Exposure of Low Birth Weight Infants in Different Environments. 14th National Mother Baby Nurse Conference, Washington, DC. September,8th,2011.
- 2) 樋貝繁香，成田 伸：低出生体重児の子どもをもつ父親が看護師に求める支援 ～3名の父親を対象に～．第36回栃木県母性衛生学会学術集会，宇都宮．2011年6月．
- 3) 横山由美：乳幼児期のダウン症候群の子どもを持つ母親の子育て．日本発達障害学会第46回研究大会，鳥取．2011年8月20日，発表論文集；78,2011.
- 4) 日高みつほ，中島登美子：昼夜逆転している乳児の睡眠・覚醒リズムと入院環境との関連．第58回日本小児保健協会学術集会，名古屋．2011年9月2日，第58回日本小児保健協会学術集会講演集:162,2011.
- 5) 有本 梓，横山由美，西垣佳織他：在宅重症心身障害児とその母親に対して訪問看護を行う際の留意点．第37回日本重症心身障害学会学術集会，徳島．2011年9月30日，日本重症心身障害学会誌;313,2011.

成人看護学

(1) 論文

- 1) Nakamura,M., Hosoya,Y., Umeshita,K., Yano,Y., Doki,M., Miyashiro,I., Dannoue,H., Mori,M., Kishi,K., Alan,T.Lefor : Postoperative Quality of Life: Development and Validation of the “Dysfunction after Upper Gastrointestinal Surgery” Scoring System, Journal of the American College of Surgeons, 213:508-14,2011.
- 2) 足立真一, 瀧口修司, 山本和義, 黒川幸典, 藤原義之, 中村美鈴, 森 正樹, 土岐祐一郎: 幽門側胃切除術後再建に関する多施設共同無作為試験QOLおよび術後機能障害のアンケート調査結果, 癌の臨床, 56巻5号, 365-370, 2011.
- 3) 佐藤幹代, 吉田澄恵, 小島善和, 城丸瑞恵, 中村美鈴, 村上礼子, 高橋奈津子, 佐藤正美: 患者体験を用いた創傷ケア演習での看護学生の気づきと学び, 東海大学健康科学部紀要, 16号, 121-122, 2011.
- 4) 鈴木典子, 中村美鈴, 崎田マユミ: 山間地域にあるへき地中核病院において救急外来を受診し入院となった患者の家族の困難, 日本ルーラルナース学会誌, 6巻, 1-15, 2011.
- 5) 段ノ上秀雄, 中村美鈴, 崎田マユミ, 内海香子, 北村露輝, 松浦利江子: ペースメーカー埋め込み術を受けた患者の退院後の日常生活における困難とその対応, 自治医科大学看護学ジャーナル, 第8巻; 35-スメ, 2011.
- 6) 平良由香利, 中村美鈴, 内海香子: 心筋梗塞を発症した成人の復職に伴う困難と対応 (第1報), 自治医科大学看護学ジャーナル, 第8巻; 51-60, 2011.
- 7) 川上 勝, 宇城 令, 段ノ上秀雄, 長井栄子, 和久紀子, 崎田マユミ, 井上映子, 中村美鈴: 一時救命処置研修会に参加した看護学生の一次救命処置実施に対する自己評価の経時変化, 自治医科大学看護学ジャーナル, 第8巻; 171-176, 2011.
- 8) 鈴木美津枝, 村上礼子, 鈴木純恵: 慢性期看護学実習指導の実際とあり方の検討 透析看護に携わる実習指導者へのインタビューを通して, 獨協医科大学看護学部紀要, 4巻, 1-10, 2011.
- 9) 内海香子, 中村美鈴: 血糖調節機能障害をもつ成人の体験型学習による演習プログラムでの学生の学びと教育方法の検討: 自治医科大学看護学

ジャーナル, 第8巻; 105-117, 2011.

(2) 学会発表

- 1) Nakamura,M., Dannoue,H. : Postgastrectomy dysfunction and evaluation of QOL in JAPAN: Present state and future development ICN2011, Malta, may 5 to 7,2011
- 2) Kohara,I., Takei,Y., Fujiwara,H., Suzuki,M., and Honda,Y. : Supporting patients' decision-making process regarding a cancer clinical trial A case study. SoCRA, 20th Annual Conference, San Diego CA USA, Sep 23 to 25, 2011.
- 3) Kohara,I., Morishita,N., Yamazaki,S., Yoshio,T., Koretsune,Y. and Honda,Y. : Structure of care for patients who participate in clinical trials from clinical research coordinators. SoCRA, 20th Annual Conference, San Diego CA, USA, Sep 23 to 25, 2011.
- 4) 小原 泉: 教育講演33 がん臨床試験における被験者ケアのポイント. 第9回日本臨床腫瘍学会学術集会. 横浜市. 2011年7月23日.
- 5) 松浦利江子: 患者に対して陰性感情をもつ体験に付随する葛藤の内容について. 第15回日本看護管理学会年次大会. 東京. 2011年8月27日. (第15回日本看護管理学会年次大会講演抄録集; 110頁, 2011)
- 6) 段ノ上秀雄, 中村美鈴, 北村露輝, 荒木智絵, 村上礼子, 小原 泉, 松浦利江子: 看護系学士課程学生における生命の危機状況にある成人の看護演習の評価と課題. 第13回日本救急看護学会学術集会, 神戸. 2011年10月21日. (日本救急看護学会雑誌 13巻(3号); 179頁, 2011)
- 7) 松浦利江子: 患者-看護師関係において看護師が経験する患者に対する陰性感情の構成内容. 第31回日本看護科学学会学術集会. 高知. 2011年12月2日. (第31回日本看護科学学会学術集会講演集; 192頁, 2011)
- 8) 中村美鈴, 段ノ上秀雄, 武正泰子, 北村露輝: 上部消化管がん患者の術後機能障害評価尺度 (短縮版) の開発と有用性の検証. 第31回日本看護科学学会学術集会, 高知. 2011年12月3日. (第31回日本看護科学学会学術集会講演集; 263頁, 2011)
- 9) 北村露輝, 中村美鈴, 段ノ上秀雄, 松浦利江子: 上部消化管がん患者の術後機能障害の緩和を

目指した看護師とのパートナーシップのあり方。第31回日本看護科学学会学術集会，高知。2011年12月3日。（第31回日本看護科学学会学術集会講演集；263頁，2011）

10) 山崎晶司，小原 泉，小嶋亜純，森下典子，吉尾 卓，是恒之宏，本田芳香：臨床研究コーディネーターによる被験者ケアの特性。第32回臨床薬理学会年会一般演題。浜松市。2011年12月3日。

(3) 著書・総説

1) 中村美鈴：ドレーン・チューブ挿入患者への最善ケア。臨床に活かせるドレーン&チューブ管理マニュアル（永井秀雄，中村美鈴編）。学研（東京），14-22，2011。

2) 瑞木 亨，安田是和，中村美鈴：胃切除ドレナージ 幽門側胃切除術。臨床に活かせるドレーン&チューブ管理マニュアル（永井秀雄，中村美鈴編）。学研（東京），100-103，2011。

3) 瑞木 亨，安田是和，中村美鈴：胃切除ドレナージ 胃全摘術。臨床に活かせるドレーン&チューブ管理マニュアル（永井秀雄，中村美鈴編）。学研（東京），104-107，2011。

4) 瑞木 亨，安田是和，中村美鈴：食道切除・債権術後ドレナージ。臨床に活かせるドレーン&チューブ管理マニュアル（永井秀雄，中村美鈴編）。学研（東京），100-103，2011。

5) 瑞木 亨，安田是和，中村美鈴：胃切除ドレナージ 幽門側胃切除術。臨床に活かせるドレーン&チューブ管理マニュアル（永井秀雄，中村美鈴編）。学研（東京），100-103，2011。

6) 小原 泉：治療・療養過程での課題の可視化と看護の取り組み第5回－最期まで生き抜く術の探索：進行がん患者と第Ⅰ相試験。看護実践の科学，36(5)：36-41，2011。

7) 藤原寛行，鈴木光明，小原 泉：子宮全摘術後・卵巣嚢腫摘出後ドレナージ。臨床に活かせるドレーン&チューブ管理マニュアル（永井秀雄，中村美鈴編）。学研（東京），171-174，2011。

8) 藤原寛行，鈴木光明，小原 泉：後腹膜リンパ節郭清ドレナージ。臨床に活かせるドレーン&チューブ管理マニュアル（永井秀雄，中村美鈴編）。学研（東京），175-178，2011。

9) 竹原めぐみ，穂積康夫，小原 泉：乳がん術後ドレナージ。臨床に活かせるドレーン&チュー

ブ管理マニュアル（永井秀雄，中村美鈴編）。学研（東京），179-181，2011。

10) 竹原めぐみ，穂積康夫，小原 泉：乳腺炎ドレナージ。臨床に活かせるドレーン&チューブ管理マニュアル（永井秀雄，中村美鈴編）。学研（東京），182-184，2011。

11) 石黒保直，安田是和，村上礼子：胆道ドレナージ。臨床に活かせるドレーン&チューブ管理マニュアル（永井秀雄，中村美鈴編）。学研（東京），96-99，2011。

12) 小泉大，安田是和，村上礼子：仮性膵嚢胞ドレナージ。臨床に活かせるドレーン&チューブ管理マニュアル（永井秀雄，中村美鈴編）。学研（東京），138-140，2011。

13) 森田辰男，村上礼子：腎盂形成術後ドレナージ。臨床に活かせるドレーン&チューブ管理マニュアル（永井秀雄，中村美鈴編）。学研（東京），150-153，2011。

14) 手塚康裕，長谷川剛，遠藤俊輔，松浦利江子：肺がん術後ドレナージ。臨床に活かせるドレーン&チューブ管理マニュアル（永井秀雄，中村美鈴編）。学研（東京），40-44，2011。

15) 手塚康裕，長谷川剛，遠藤俊輔，松浦利江子：胸腔ドレナージ（気胸，胸水）。臨床に活かせるドレーン&チューブ管理マニュアル（永井秀雄，中村美鈴編）。学研（東京），45-48，2011。

16) 笹村佳美，阿部弘一，市村恵一，北村露輝：甲状腺切除術後ドレナージ。臨床に活かせるドレーン&チューブ管理マニュアル（永井秀雄，中村美鈴編）。学研（東京），194-195，2011。

17) 笹村佳美，阿部弘一，市村恵一，北村露輝：喉頭摘出術後ドレナージ。臨床に活かせるドレーン&チューブ管理マニュアル（永井秀雄，中村美鈴編）。学研（東京），198-199，2011。

18) 笹村佳美，阿部弘一，市村恵一，北村露輝：耳下腺術後ドレナージ。臨床に活かせるドレーン&チューブ管理マニュアル（永井秀雄，中村美鈴編）。学研（東京），200-202，2011。

19) 上西祐一郎，三澤吉雄，段ノ上秀雄：縦隔ドレナージ。臨床に活かせるドレーン&チューブ管理マニュアル（永井秀雄，中村美鈴編）。学研（東京），61-62，2011。

20) 上西祐一郎，三澤吉雄，段ノ上秀雄：術後（開心術，胸部大動脈手術）ドレナージ。臨床に活かせるドレーン&チューブ管理マニュアル

（永井秀雄，中村美鈴編）。学研（東京），63-65, 2011.

21) 小林伸行，田中裕一，渡辺英寿，荒木智絵：血腫腔ドレナージ．臨床に活かせるドレーン&チューブ管理マニュアル（永井秀雄，中村美鈴編）。学研（東京），37-39, 2011.

22) 手塚康裕，長谷川剛，遠藤俊輔，荒木智絵：気管チューブ．臨床に活かせるドレーン&チューブ管理マニュアル（永井秀雄，中村美鈴編）。学研（東京），49-52, 2011.

23) 手塚康裕，長谷川剛，遠藤俊輔，荒木智絵：気管切開チューブ．臨床に活かせるドレーン&チューブ管理マニュアル（永井秀雄，中村美鈴編）。学研（東京），53-56, 2011.

(4) 資料

1) 鈴木美津枝，村上礼子，鈴木純恵：臨床看護学実習の指導の実際 透析看護に携わる指導者をととして，Dokkyo Journal of Medical Sciences, 38 (2) ; 189, 2011.

老年看護学

(1) 論文

- 1) 浜端賢次, 中川孝子, 木村 緑: 老年期の理解をふまえた高齢者看護学の展開. 青森中央短期大学紀要, 24;209-215,2011.
- 2) 中川孝子, 浜端賢次, 木村 緑: 老人保健施設と特別養護老人の介護職員に必要な医学的知識と技術に関する研究. 青森中央短期大学紀要, 24;193-198. 2011.
- 3) 木村 緑, 中川孝子, 浜端賢次: 老年期を迎える統合失調症者の口腔清掃の実態と看護介入の必要性. 青森中央短期大学紀要, 24;251-255, 2011.
- 4) 櫻田和子, 中川孝子, 浜端賢次: 卒業生のキャリア支援に関する離職予防の取り組み. 青森中央短期大学紀要, 24;257-261. 2011.
- 5) 川上 勝, 宇城 令, 段ノ上秀雄, 長井栄子, 和久紀子, 崎田マユミ, 井上映子, 中村美鈴: 一次救命処置研修会に参加した看護学生の一次救命処置実施に対する自己評価の経時変化. 自治医科大学看護学ジャーナル, 8;171-176, 2011.
- 6) 平川俊功, 水戸美津子: 高等学校における養護教諭の行う生徒への発達支援に関する考察. 学校保健研究, 153-3;241-249, 2011.
- 7) 長井栄子, 井上映子: ユニットケアを実施している介護老人保健施設における認知症高齢者への安全なケア提供上の困難と工夫—ケアスタッフへのインタビュー調査より. 自治医科大学看護学ジャーナル, 8;61-74, 2011.

(2) 学会発表

- 1) Miyabayashi,S.: A stroke victim's narrative: From onset to contribution-society. 10th International Family Nursing Conference. Japan. 2011, 06, 26, 274, 2011
- 2) Sato,K., Miyabayashi,S.: Dementia: A case Study-Buil up the delusional misidentification and Attachment,10th International Family Nursing Conference, Japan, 2011, 06, 26, 302, 2011
- 3) 宮林幸江: 二重悲嘆への吐露へのケア: 配偶者を看取った後に東日本大震災にて家を失う, 日本がん看護学会, 305, 2012. 02. 12, 2012.
- 4) 川上 勝, 宇城 令, 長井栄子, 相賀美幸, 大久保裕幸, 芦澤拓也, 梶原 忠: 看護師の所在

- 確認システムを用いた人員配置評価の試み. 第6回医療の質・安全学会学術集会, 東京. 2011年11月19日 (医療の質・安全学会誌 6;168, 2011)
- 5) 高野倉雅人, 横道直也, 舟橋由哉, 川上 勝: 病室でのベッドからの転倒予防を目指した起き上がり検知アルゴリズムの開発. 第6回医療の質・安全学会学術集会, 東京. 2011年11月20日 (医療の質・安全学会誌 6;174, 2011)
- 6) 高木初子, 長井栄子, 井上映子, 水戸美津子: 排尿障害のある高齢者への援助技術演習から学生が考えた排尿自立への援助. 日本看護学教育学会第21回学術集会, 大宮. 2011年8月30日. 日本看護学教育学会第21回学術集会講演集, 147, 2011
- 7) 池島まどか, 和久紀子, 水戸美津子: 看護学生の看護学実習における受け持ち患者への関わり. 日本看護学会, 松山. 2011年10月30日. 日本看護学会
- 8) 和久紀子, 里光やよい, 塚原節子, 水戸美津子: 初めての病院実習でのシャドーイングの記録からみる学生の学びの視座. 日本看護学会, 松山. 2011年10月30日. 日本看護学会
- 9) 里光やよい, 塚原節子, 和久紀子, 水戸美津子: 学生の総合評価からみるシャドーイング実習を取り入れた基礎看護学実習の評価. 日本看護学会, 松山. 2011年10月30日. 日本看護学会
- 10) 高木初子, 野崎章子, 齊藤良子, 大塚公一郎, 前原多鶴子, 高久美子, 菊池睦子, 水戸美津子: 大学附属病院看護師のキャリア指向と関連要因に関する検討. 第42回日本看護学会—看護管理, 神戸. 2011年10月14日. 日本看護学会—看護管理—第42回学術集会講演抄録;407. 2011
- 11) 河野さおり, 長井栄子, 水戸美津子: 脳血管疾患により嚥下障害を有する高齢者への看護の検討—1事例を通して—. 日本看護技術学会第10回学術集会, 東京. 2011年10月30日. 日本看護技術学会第10回学術集会講演抄録集;106, 2011
- 12) 高山詩穂, 高木初子, 水戸美津子: 高齢者の特性を踏まえた口腔吸引・鼻腔吸引の検討. 日本看護技術学会第10回学術集会, 東京. 2011年10月30日. 日本看護技術学会第10回学術集会講演抄録集;106, 2011
- 13) 茂木千紘, 長井栄子, 水戸美津子: 高齢者のせん妄発症に関連した看護実践事例の文献検討. 栃木看護学会, 栃木. 2011年11月29日. (栃木看護

学会誌 16(1) : 29-30, 2011)

14) 水戸美津子：栃木看護学会，栃木．2011年11月29日．（栃木看護学会誌

15) Inoue,E., Takagi,H., Nagai,E., Imai,H., Asaga,T., Sugihara,N., Inoue,K., Daikoku,R., Saito,Y. : Effects Of Life Review On The Mental And Physical Factors Affecting Elderly Individuals Residing In Elderly Care facilities. The International College Psychosomatic Medicine, Seoul. 2011. 8. 25. (The 21st World Congress on Psychosomatic Medicine ; 201, 2011)

16) 河野さおり，長井栄子，水戸美津子：脳血管疾患により嚥下障害を有する高齢者への看護の検討－1事例を通して－．日本看護技術学会第10回学術集会，東京．2011年10月30日．（日本看護技術学会第10回学術集会講演抄録集；106，2011）

17) 茂木千紘，長井栄子，水戸美津子：高齢者のせん妄発症に関連した看護実践事例の文献検討．栃木看護学会，栃木．2011年11月29日．（栃木看護学会誌 16(1) : 29-30, 2011)

18) Inoue,E., Takagi,H., Nagai,E., Imai,H., Asaga,T., Sugihara,N., Inoue,K., Daikoku,R., Saito,Y. : Effects Of Life Review On The Mental And Physical Factors Affecting Elderly Individuals Residing In Elderly Care facilities. The International College Psychosomatic Medicine, Seoul.2011.8.25. (The 21st World Congress on Psychosomatic Medicine ; 201, 2011)

19) 高木初子，長井栄子，井上映子，水戸美津子：排尿障害のある高齢者への援助技術演習からの学生が考えた排尿自立への援助．日本看護学教育学会第21回学術集会，埼玉．2011年8月30日．（日本看護学教育学会第21回学術集会講演集；147，2011）

20) 高木初子，野崎章子，齋藤良子，大塚公一郎，前原多鶴子，高久美子，菊池睦子，水戸美津子：大学附属病院看護師のキャリア指向と関連要因に関する検討．第42回日本看護学会－看護管理－，神戸．2011年10月14日．（日本看護学会－看護管理－第42回学術集会講演抄録；407，2011）

21) 高山詩織，高木初子，水戸美津子：日本看護技術学会第10回学術集会，東京．2011年10月30日．（日本看護技術学会第10回学術集会講演抄録集；148，2011）

(3) 著書・総説

1) 宮林幸江：「悲嘆回復ワークショップについて」．臨床看護．37(6) : 746-749.2011.

2) 宮林幸江：特集 feature 論点Ⅷ「家族を亡くした被災者のケア」．月刊福祉.94(13);34-35.2011.

3) 宮林幸江：大規模災害と福祉 家族を亡くした被災者のケア．月刊福祉 増刊号. 95(5);28-29.2012.

4) 編者：小野寺綾子，陣田泰子 共著者：水戸美津子，若月江里子，島田昌子他21名：成人Ⅱ（新看護観察のキーポイントシリーズ）．中央法規出版．東京，（1－37，本人担当部分）2011.

5) 編者：小野寺綾子，陣田泰子 共著者：水戸美津子，若月江里子，島田昌子他21名：成人Ⅳ（新看護観察のキーポイントシリーズ）．中央法規出版．東京，2－82，（本人担当分），2011.

6) 編著：水戸美津子共著者：高木初子，浜端賢次，長井栄子，川上勝他16名：新看護観察のキーポイントシリーズ 高齢者．中央法規出版．東京，1－63，66-199，202-220，246-289，292-358，360-383（本人担当分），2011.

7) 編者：水戸美津子 共著者：鮎澤みどり，池下麻美，江口美鳥，大柴幸子，太田信子，加藤昌美，亀山直子，川上 勝，関 道子，高木初子，戸田昌子，長井栄子，中川孝子，並木奈緒美，浜端賢次，福田順子，船田淳子，水戸美津子，吉澤利恵，渡辺千枝子，渡邊美智子：新看護観察のキーポイントシリーズ 高齢者．中央法規出版．東京，113-127，165-175，（本人担当分）2011.

8) 編者：水戸美津子 共著者：鮎澤みどり，池下麻美，江口美鳥，大柴幸子，太田信子，加藤昌美，亀山直子，川上 勝，関 道子，高木初子，戸田昌子，長井栄子，中川孝子，並木奈緒美，浜端賢次，福田順子，船田淳子，水戸美津子，吉澤利恵，渡辺千枝子，渡邊美智子：新看護観察のキーポイントシリーズ 高齢者．中央法規出版．東京，26-49，247-256，257-271（本人担当分）2011.

(4) その他

1) 川上 勝：小セミナー「看護と研究の倫理を考える」．第16回栃木看護学会学術集会，栃木，2011年11月29日．

2) 水戸美津子，川上 勝，長井栄子，池下麻美，大柴幸子，山田恵子，高岡恵美子，小曾根佳枝，井上佐代子，井上和子，関 道子，野澤博子，大貫紀子：看護業務の相対的評価に関する研究－高

齢者に関わる看護業務の分析から一．自治医科大学看護学ジャーナル，(8)；177-180，2011

3) 水戸美津子，川上 勝，長井栄子，池下麻美，大柴幸子，山田恵子，高岡恵美子，小曾根佳枝，井上佐代子，井上和子，関 道子，野澤博子，大貫紀子：看護業務の相対的評価に関する研究—高齢者に関わる看護業務の分析から一．自治医科大学看護学ジャーナル，(8)；177-180，2011

4) 川上 勝，宇城 令，櫻井美奈，長井栄子，相賀美幸，山中 瞳，福田真紀：微弱無線タグを用いた看護師の所在確認システム試験運用．自治医科大学看護学ジャーナル，(8)；193，2011

がん看護学

(1) 著書・総説

1) 小原 泉：治療・療養過程での課題の可視化と看護の取り組み第5回－最期まで生き抜く術の探索：進行がん患者と第Ⅰ相試験. 看護実践の科学, 36(5); 36-41, 2011.

(2) 学会発表

1) Kohara,I., Takei,Y., Fujiwara,H., Suzuki,M. and Honda,Y. : Supporting patients' decision-making process regarding a cancer clinical trial: A case study. SoCRA, 20th Annual Conference, San Diego, CA, USA , Sep 23 to 25, 2011.

2) Kohara,I., Morishita,N., Yamazaki,S., Yoshio,T., Koretsune,Y. and Honda,Y. : Structure of care for patients who participate in clinical trials from clinical research coordinators. SoCRA, 20th Annual Conference, San Diego, CA, USA, Sep 23 to 25, 2011.

3) 山崎晶司, 小原 泉, 小嶋亜純, 森下典子, 吉尾 卓, 是恒之宏, 本田芳香：臨床研究コーディネーターによる被験者ケアの特性. 第32回臨床薬理学会年会一般演題, 浜松市, 平成23年12月3日.

4) 小原 泉：教育講演33 がん臨床試験における被験者ケアのポイント. 第9回日本臨床腫瘍学会学術集会, 横浜市, 2011年7月23日.

5) 本田芳香, 藤井貴美子, 増崎美智子：新人看護師のピア評価を介した自己教育力の育成, 第31回日本看護科学学会学術集会, 高知市, 2011年12月2日.

資 料

2011年度（平成23年度）看護学部学年暦

○前学期

4月1日（金）	ガイダンス（2・3・4年）
4月4日（月）	授業開始（2・3・4年）
4月7日（木）	入学式，オリエンテーション（1年）
4月8日（金）	授業開始（1年）
4月29日（金）～5月5日（木）	春季休業
5月9日（月）～7月15日（金）	前学期実習（3年）
5月14日（土）	創立記念日
7月14日（木）～7月15日（金）	定期試験（4年）
7月19日（火）～7月22日（金）	妊娠期助産学実習（4年）
7月25日（月）～8月5日（金）	総合実習（4年）
7月26日（火）～7月29日（金）	定期試験（1・2年）
8月6日（土）～9月25日（日）	夏季休業
8月31日（水）～9月2日（金）	再試験

○後学期

9月26日（月）	授業開始
9月5日（月）～10月7日（金）	分娩・育児期助産学実習（4年）
10月7日（金）～10月9日（日）	学園祭
11月14日（月）～12月2日（金）	日常生活援助実習（2年）
11月21日（月）～12月22日（木）	} 後学期実習（3年）
1月6日（金）～2月17日（金）	
12月25日（日）～1月3日（火）	冬季休業
1月31日（火）～2月3日（金）	定期試験（1・2年）
2月16日（木）～2月17日（金）	再試験
2月20日（月）～3月2日（金）	生活の理解実習（1年）
3月2日（金）	卒業式
3月21日（水）～	学年末休業

自治医科大学看護学部の概況（平成24年3月31日現在）

1. 教 員 数	43名
2. 学 生 数	416名
4年生（平成20年4月1日入学）	102名
3年生（平成21年4月1日入学）	101名
2年生（平成22年4月1日入学）	109名
1年生（平成23年4月1日入学）	104名

看護学部教職員名簿

1. 教員

職 名	氏 名	主要担当科目
教授	水戸美津子	老年看護学
教授	竹田俊明	医学関連
教授	竹田津文	医学関連
教授	塚原節子	基礎看護学
教授	永井優子	精神看護学
教授	中島登美子	小児看護学
教授	中村美鈴	成人看護学
教授	成田伸子	母性看護学
教授	野々山未希	母性看護学
教授	春山早苗	地域看護学
教授	半澤節子	精神看護学
教授	本田芳江	がん看護学
教授	宮林幸亮	老年看護学
教授	渡邊亮一	基礎科学関連
准教授	大塚公一郎	基礎科学関連
准教授	大小脇淳子	小児看護学
准教授	小原良子	がん看護学
准教授	齋藤信枝	母性看護学
准教授	佐藤光やよ	基礎看護学
准教授	里木久美子	基礎看護学
准教授	鈴木初子	地域看護学
准教授	高木端次	老年看護学
准教授	高浜上礼子	基礎看護学
准教授	村横山由美	小児看護学
講師	飯塚秀令	基礎科学関連
講師	飯城朋子	基礎看護学
講師	小川上勝美	看護学
講師	工藤奈織	看護学
講師	熊谷祐子	看護学
講師	角川志穂	看護学
講師	塚本友栄	看護学
講師	長井章子	看護学
講師	野崎貝繁	看護学
講師	樋浦利江	看護学
講師	松本智絵	看護学
助教	荒板直人	看護学
助教	板橋露輝	看護学
助教	北村純子	看護学
助教	小池藤友子	看護学
助教	佐藤裕子	看護学
助教	島田山子	看護学
助教	関高詩穂	看護学
助教	滝上恵津	看護学
助教	段ノ上秀雄	看護学
助教	西岡啓子	看護学
助教	和久紀子	看護学

2. 事務部

職 名	氏 名
大学事務部長	川村廣栄
大学事務副部長 (看護学部担当)	野澤昭夫

(看護総務課)

職 名	氏 名
課 長	若林茂行
参事(兼)課長補佐	若田美治
係 長	大石千代
主 事	大田中千
主 事	富川修平
嘱 託	中村里子

(看護学務課)

職 名	氏 名
課 長	大垣利行
参 事	藍原孝樹
課長補佐	安島幸子
係 長	湯浅芳恵
主 事	榊公一
主 事	佐藤真美
嘱 託	高槻子

※平成23年4月1日～平成24年3月31日在職者
(各職階ごとの50音順)

2011年度（平成23年度）大学院看護学研究科年曆

○前期

4月6日（水）	入学式 オリエンテーション，授業開始
4月12日（火）	履修計画の提出締切
5月14日（土）	創立記念日

○後期

10月1日（土）	授業開始
11月11日（金）	研究構想発表会
12月19日（月）	学位申請書・学位論文（審査用）提出締切
2月1日（水）～10日（金）	論文審査・口頭試問
2月24日（金）	学位論文発表会（最終試験）
3月5日（月）	学位論文（保存用）提出締切
3月23日（金）	修了式（学位授与式）

大学院看護学研究科の概況（平成23年3月31日現在）

1. 教 員 数	26名
2. 学 生 数	23名
2年生（長期履修制度利用者）	15（6）名
1年生（長期履修制度利用者）	8（2）名

大学院看護学研究科教職員名簿

1. 教員

職 名	氏 名	主要担当科目
教授	水戸 美津子	老年看護管理学
教授	竹田 俊明	共通科目
教授	竹田 津文	共通科目
教授	塚原 節子	看護技術開発学
教授	永井 優子	精神看護学
教授	中島 登美子	小児看護学
教授	中村 美鈴	クリティカルケア看護学
教授	成田 伸	母性看護学
教授	野々山 未希子	母性看護学
教授	春山 早苗	地域看護管理学
教授	半澤 節子	精神看護学
教授	本田 芳香	がん看護学
教授	宮林 幸江	老年看護管理学
教授	渡邊 亮一	共通科目
准教授	大塚 公一郎	共通科目
准教授	大脇 淳子	小児看護学
准教授	小原 泉	がん看護学
准教授	齋藤 良子	母性看護学
准教授	里光 やよい	看護技術開発学
准教授	鈴木 久美子	地域看護管理学
准教授	高木 初子	老年看護管理学
准教授	村上 礼子	クリティカルケア看護学
准教授	横山 由美	小児看護学
講師	宇城 令	看護技術開発学
講師	小川 朋子	母性看護学
講師	工藤 奈織美	地域看護管理学
講師	角川 志穂	母性看護学
講師	塚本 友栄	地域看護管理学
講師	野崎 章子	精神看護学
講師	樋貝 繁香	小児看護学

2. 事務部

職 名	氏 名
大学事務部長	川村 廣栄
大学事務副部長 (看護学部担当)	野澤 昭夫

(看護総務課)

職 名	氏 名
課 長	若林 茂行
参事(兼)課長補佐	半田 美治
係 長	大石 千代
主 事	田中 千草
主 事	富川 修平
嘱 託	中村 里子

(看護学務課)

職 名	氏 名
課 長	大垣 利行
参 事	藍原 孝樹
課長補佐	安島 幸子
係 長	湯浅 芳恵
主 事	榊 公一
主 事	佐藤 真美
嘱 託	高槻 祥子

※平成23年4月1日～平成24年3月31日在職者
(各職階ごとの50音順)

編 集 後 記

皆様方の多くのご協力により、本号上梓の運びとなりました。

今日、大学の使命として、教育、研究は、もちろんのこと広い意味での業績を社会にむけて公開していくことが強く求められております。

本号でも、発刊以来の内容の充実に加え、一層、わかりやすく明快な記載を目指すこととしました。

お忙しい中、この趣旨をご理解いただき、原稿をご執筆いただきました教員の皆様、編集作業にご協力いただいた事務職員の皆様に厚くお礼を申し上げます。

本年報もまた、本学の教育・研究の活性化に寄与し、看護学のさらなる発展に少しでも貢献できるよう、次号以降も努めてまいります。皆様の一層のご指導を賜りますよう、お願い申し上げます。

（平成25年3月 編集委員会副委員長 大塚 公一郎）

編集委員会

自治医科大学看護学部

委員長 中村 美鈴

副委員長 大塚公一郎

委員 鈴木久美子

齋藤 良子

横山 由美

平尾 温司

自治医科大学看護学部年報（第10号）
自治医科大学大学院看護学研究科年報（第6号）

平成25年3月29日発行

発行者	学部長（研究科長） 春山早苗
編集責任者	編集委員会委員長 中村美鈴
発行所	自治医科大学看護学部 栃木県下野市薬師寺3311-159 電話 0285（58）7409
印刷所	（株）松井ビ・テ・オ・印刷 栃木県宇都宮市陽東5-9-21 電話 028（662）2511（代）